

○偽證及背任被告事件 (昭和六年(三)第三〇號 棄却)

【被告人】 被告人 山下 源藏

【第一審】 廣島控訴院

○判示事項

電報ニ依ル上告申立

○決定要旨

電報ニ依ル上告申立ハ不適法ナリ

【参照】 刑事訴訟法第四百十九條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

同法第七十三條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

同法第七十四條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ
他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺

印スヘシ

同法第二百九十條 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限り口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ
公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

○事實

被告人ハ電報ニ依リ左ノ上告申立ヲ爲シタリ

ジブンヒコクジケンジョウウコクスママシタゲンゾ

○主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理由

本件抗告ノ要旨ハ抗告人タル被告人ニ對スル偽證及背任被告事件ニ付昭和六年十一月十七日廣島控訴院ノ言渡シタル判決ニ對シ抗告人ハ同月二十四日電報ヲ以テ上告申立ヲ爲シタルニ同裁判所ハ同月二十六日電報ニ依ル上告申立ハ不適法ノモノトシテ之ヲ棄却シタリ然レトモ電報ニ依ル上告申立ト雖適

電報ニ依ル上告申立

法ニ上訴權ヲ行使シタルモノナルヲ以テ之ヲ棄却シタル原審決定ハ不法ナリト云フニ在リ
 仍テ刑事訴訟法ニ於ケル書面ニ關スル幾多ノ規定就中第七十三條第七十四條第二百七十二條第二百九
 十條第三百九十一條第三百九十六條等ノ規定ヲ按スルニ所論上告申立書ハ上告申立人自ラ署名捺印シ
 テ之ヲ作成スルコトヲ要セサルハ勿論ナルモ少クトモ申立人ノ作成名義ノ文書ト解シ得ラルルモノナ
 ルコトヲ要スルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ電報即チ電報送達紙ハ私人ノ發信ニ係ル場合ト雖受信
 局名義ノ公文書ト解スヘク發信人名義ノ文書ト解スヘカラサルヲ以テ電報ニ依ル上告申立ハ刑事訴訟
 法第四百十九條ニ所謂申立書ヲ以テ爲シタルモノト解スヘカラス然ラハ右ト同趣旨ニ出テタル原審決
 定ハ相當ニシテ本件抗告ハ理由ナシ
 以上ノ理由ニ因リ刑事訴訟法第四百六十六條ニ則リ主文ノ如ク決定ス
 檢事南部金夫關與

○判事忌避申立却下決定ニ對スル再抗告事件

(昭和七年(三)第三號 棄却)
 同年二月一日第二刑事部決定

【被告人】 被告人 大野正男

【原 審】 廣島控訴院

○判示事項

忌避申立却下決定ニ對スル再抗告

○決定要旨

忌避申立却下決定ニ對スル抗告事件ニ付抗告裁判所ノ爲シタル決
 定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ

得ス但シ左ニ掲クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

一 公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二 控訴申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三 再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五 裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

忌避申立却下決定ニ對スル再抗告

六 證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

○事實

抗告人ハ判事忌避申立却下決定ニ對スル抗告事件ニ付廣島控訴院カ昭和六年十二月二十一日與ヘタル抗告棄却ノ決定ニ對シ更ニ當院ニ抗告ヲ爲シタルモノトス

○主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理由

職權ヲ以テ本件抗告ノ法律上許スヘキモノナルヤ否ヲ案スルニ抗告人ハ誣告事件ノ被告人トシテ廣島地方裁判所ノ公判審理ヲ受ケ居ル中裁判長小玉平太郎及兩陪席判事ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シ同裁判所ハ昭和六年十一月二十七日該忌避申立却下ノ決定ヲ爲シタルニ抗告人ハ該決定ニ對シ廣島控訴院ニ抗告ヲ申立テ同院ハ理由ナシトシテ該抗告棄却ノ決定ヲ爲シタル處抗告人ハ右決定ニ對シ更ニ當院ニ抗告ヲ爲シタルモノナルコト記録ニ徴シ明瞭ナリ然ルニ抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ刑事訴訟法第四百六十九條第一號乃至第六號列記ノ場合ニ非サレハ抗告ヲ爲スコトヲ得サルコト同條ノ規定ニ徴シ明ニシテ本件忌避事件ノ如キハ右列記ノ場合ニ該當セサルヲ以テ廣島控訴院カ抗告裁判所トシテ爲シタル原決定ニ對スル本件再抗告ハ法律上許スヘカラサルモノトス仍テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項前

段ニ依リ主文ノ如ク決定ス

檢事南部金夫關與

○墮胎被告事件 (昭和六年(れ)第一五二二號 棄却)

(昭和七年二月一日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 喜田しか 辯護人 (加藤勝藏 岡村耕二)

【第二審】 山田區裁判所 【第二審】 安濃津地方裁判所

○判示事項

墮胎罪ヲ斷スル判決ト受胎ノ時期——胎兒發育ノ程度ト墮胎罪ノ對象

○判決要旨

一 墮胎罪ヲ斷スル判決ニ於テハ必スシモ受胎ノ時期ヲ明示スルコ

墮胎罪ヲ斷スル判決ト受胎ノ時期 胎兒發育ノ程度ト墮胎罪ノ對象

トヲ要セス【要旨第一】

二妊娠一ヶ月位ノモノモ墮胎罪ノ對象ト爲リ得ルモノトス【要旨第

二】

【参照】 刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
刑法第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百十三條本文第五十五條ヲ適用シ被告人ヲ懲役八月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ妊婦ヨリ墮胎手術ノ囑託ヲ受ケ犯意ヲ繼續シ

第一 昭和五年八月三十、三十一日頃(同年舊曆七月七、八日頃) 妊婦西野しげノ依頼ヲ受ケ同日志摩郡船越村百三十九番屋敷ノ右しげ居モニ於テ同人ノ下腹部ヲ兩手ニテ強ク揉ミ因テ同年九月二十日頃(同年舊曆七月二十七、八日頃) 同胎兒ヲ墮胎セシメ

第二 同年十月中同郡同村小林せん方ニ於テ妊婦松井まさノ依頼ヲ受ケ桑ノ葉ヲ丸ク捲キタルモノヲ同人ノ子宮内ニ挿入シ因テ其ノ頃同胎兒ヲ墮胎セシメ

第三 同年十二月中同小林せん方ニ於テ妊婦中井さきノ依頼ヲ受ケ桑ノ葉ヲ丸ク捲キタルモノヲ同人ノ子宮内ニ挿入シ因テ其ノ頃同胎兒ヲ墮胎セシメ

第四 同年同月中妊婦宮本さくノ依頼ヲ受ケ同郡同村ノ右さく居モニ於テ同人ノ下腹部ヲ兩手ニテ強ク揉ミ因テ其ノ頃同胎兒ヲ墮胎セシメ

第五 同年三月中同郡同村小林さん方ニ於テ妊婦岡ゆりノ依頼ヲ受ケ桑ノ葉ヲ丸ク捲キタルモノヲ同人ノ子宮内ニ挿入シ因テ其ノ頃同胎兒ヲ墮胎セシメタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人岡村耕二加藤勝藏上告趣意書第一點原審判決ハ上告人ヲ刑法第二百十三條ノ囑託墮胎罪ヲ以テ處罰セリト雖囑託者ノ懷胎即チ受胎事實ノ審理ヲ證據ニヨリ之ヲ確定セサリシ違法アリ上告人ハ西野しげ外四名ヲ懷胎シタル婦女ト信シ之等ニ上告人體験ノ墮胎行爲ヲ施與シタリシハ上告人及各囑託者ノ第一審裁判所並原審ニ於ケル證人西野しげ及上告人ノ各公判調書ニ依リ明ナリ而シテ各囑託者カ妊婦ナリシコト即チ受胎者ニシテ上告人ノ手術ニヨリ墮胎シ得ヘキ胎兒ヲ懷胎シ居リシ事實ハ各囑託者ノ自覺ニヨル供述及上告人ノ其ノ囑託ニ基ク認識ニヨリテノミ之ヲ認定セリ然レトモ墮胎罪ハ婦女

墮胎罪ヲ斷スル判決ト受胎ノ時期 胎兒發育ノ程度ト墮胎罪ノ對象

ノ受胎ニヨル成育兒ヲ分娩期前ニ故意ニ母體ヨリ排出スル行爲ニヨリ成立スルハ學說判例ノ認ムル所ナルニ拘ラス原審ハ囑託者ハ妊婦ニシテ同胎兒ヲ墮胎セシメタリト斷シ各囑託者ノ受胎ニヨル成育胎兒即チ受精ニ因ル胎生母體胎兒ナリシトノ因果關係トナルヘキ證據事實ノ審理ヲ爲ササリシハ本件記錄ニ徵シ明ナルノミナラス上告人ハ各囑託者ノ自覺ニヨル妊娠月ノ供述ノミヲ以テ懷胎ノ婦女ト觀察シタルカ如シト雖受胎ニ伴フ婦女ノ月經中止ハ所謂月齡トナル普通ノ生理作用ニ過キスシテ月經ノ中止ハ必スヤ受胎セリトスヘカラサルニ拘ラス原審ハ之ニヨル妊娠月ノ供述ノミニヨリ各囑託者ヲ妊婦即チ懷胎ノ婦女ト認定シタルモ受胎ノ時期ハ勿論證據ニヨリ犯罪構成要件ノ審理ヲ盡ササル事實確定ノ違法アリ而シテ婦女ノ受精後ニ於ケル卵細胞ノ變化狀態ナル所謂胎芽ハ未タ以テ胎兒ニ非スシテ受精後ノ胎生即チ妊娠二ヶ月ノ中旬頃ニ達シ始メテ胎兒トナルモノナルハ醫學上明ナリ(現代醫學大辭典十三卷ノ九六〇二頁秋山醫學博士述參照)然ルニ原審判決ハ本件囑託者西野しげ外四名ハ上告人ノ手術即チ「復ノ下ヲ強ク揉ミ」又ハ「桑ノ葉ヲ丸ク捲キタルモノニ糸ヲ付ケ子宮内ニ挿入」シ因テ胎兒ヲ墮胎セシメタリト認定シタリト雖上告人ノ右ノ如キ手術行爲ニヨリ各囑託者ハ墮胎シタリシヤ否即チ原判決カ證據トシタル西野しげノ「鶏卵大ノ白色ノ皮ノ様ナモノヲ被ツタ血ノ塊カ下リタ故自分ハ此ノ下リタルモノハ子供タト思ヒ」松井まさノ「便所ニ行キシニ胎兒カ出テ便所ニ落ちタリ妊娠四ヶ月ナリシカ兒ハ如何様ナ形ヲシテ居タカ自分ハ見ヌ故判ラサリシカ」中井まさノ「畑ニ肥料桶ヲ擔ヒ

行キシニ重荷ヲ持ツタ加減カ畑ニ着クト直ク腹カ痛ンテ來テ胎兒カ出テタリ妊娠三ヶ月ニシテ三寸餘リノ大サテアリタルカ」宮本さくノ「妊娠三ヶ月ナリシカ腹部ヲ兩手テ十分カ二十分位揉ンテ吳レ其ノ夜十二時頃ニ腹痛シテ胎兒カ出タ故」岡ゆりノ「墮胎セヌ故二日後更ニ同様ノ手術ヲ受ケ船越村ヨリ波切町ヘ歸ル途中テ墮胎シタノテ胎兒ヲ」トノ各供述ノミヲ以テ上告人ノ手術ト因果關係アリシ各囑託者ノ胎兒ナリシト認定セシハ違法ニシテ上告人ノ所謂體験效果ハ以テ判決事實ニ對スル裁判ノ實驗法則トナルコトナシ然ルニ原審ハ各囑託者ノ供述ニヨル前記現象ヲ墮胎手術ニ因ル胎兒ト斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

【要旨第一】

墮胎罪ノ成立スルニハ墮胎行爲ノ際懷胎ノ事實アルヲ以テ足り成育ノ程度如何ニ拘ラサルモノナレハ墮胎罪ヲ認ムルニ付受胎ノ時期ヲ明ニスルコトヲ必要トスルモノニ非ス而シテ西野しげ外四名カ懷胎ノ事實ハ原判決援用ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク原判決カ墮胎罪ニ間疑シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

同第二點原判決ハ囑託者西野しげニ對スル上告人ノ手術ヲ刑法第五十五條ノ連續行爲ト斷シタルハ重大ナル事實ノ誤認ニ基クノミナラス刑ノ量定著シク失當ナル判決ナリ上告人ノ連續行爲ヲ律スル證據トシテ原審ハ囑託者證人西野しげノ供述ニヨル事實ヲ以テセリ「自分ハ昭和五年舊曆三月十七日頃感冒ニ罹リタルカ原因テ助膜炎トナリ四月五月ハ床ニ就キ六月トナリ其ノ月ノ十六七日頃ニアル筈ノ月

經カ其ノ日頃ニナツテモ無キ故妊娠シタルモノト知り助膜ヲ病ンタ上ニ妊娠シテ子ヲ産ムコトナレハ自分ノ生命ニモ關ハルト思ヒ腹ノ子ヲ下シテ仕舞ウトシテ其ノ年七月七、八日頃しか方ニ行キ右事情ヲ話シ自分ノ腹ノ子ヲ下シテ吳レト頼ミシ處同人ハ夫レヲ承知シテ吳レシ故其ノ七、八日頃ノ書問ヲ見計ヒしかニ自分方へ來テ貫ヒ手術ヲシテ貫ヒタリトノ供述又原審調書ニ存スルカ如ク當時西野しげハ妊娠一ヶ月ニシテ醫學上ニ於ケル胎兒ニアラスシテ胎芽ナリシヲ知り得ヘカリシニ拘ラス原審ハ同人ノ病體ト月經中止及下血塊竝違法性ヲ阻却スヘキ正當行為ナラサリシヤ否ノ各具體事實ヲ證據ニヨラスシテ上告人ノ墮胎行為ヲ原因トセシ胎兒ト斷シ以テ連續行為ノ一ト認定シタル違法アリ而シテ上告人ハ本件各囑託者ヨリ金二圓五圓三圓ノ如ク少額ノ禮金ヲ其ノ後ニ於テ受ケ居レリト雖之ヲ約東シ請求シタルコトナク各囑託者ノ好意ニヨリ受領シタルニ過キスシテ職業的ナラサリシハ勿論醫學上ノ知識ハ勿論無學ニシテ只自己ノ過去ニ於ケル體験ニヨリ前記西野しげノ生命ニ關スルカ如キ各囑託者ノ事情ニヨル懇願ニ同情シ之ヲ施與シタルモノナルハ本件記録ニ明ナル處ニシテ當年五十六歲ニシテ其ノ後別紙醫師診斷書ノ如ク動脈硬化症萎縮腎慢性腎盂膀胱炎子宮後屈症ノ重症併存シ搗テ加ヘテ既往ヲ悔悟シ爾後一切如斯行為ヲ爲ササルヘク謹慎シ居レルニヨリ原審ノ實刑懲役八月ノ科刑ハ其ノ量定著ク過重ニシテ上告人ノ行為ニ對スル前記ノ事情ヲ斟酌セラレ刑ノ執行ヲ猶豫セラルヘク希フト云フニ在レトモ

【要旨第二】

墮胎罪ノ成立スルニハ懷胎ノ事實アルヲ以テ足り妊娠一ヶ月位ナリトスルモ墮胎罪ノ成立ヲ妨ケサルモノニシテ所論違法性ヲ阻却スヘキ正當行為ナリトノ點ハ原判決ノ認メサル所ナレハ論旨前段ハ理由ナク又原判決ノ量刑ハ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認メ難キヲ以テ論旨後段亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○横領被告事件 (昭和六年(レ)第一五三〇號 棄却)

(昭和六年(レ)第一五三〇號 同七年二月一日第二刑事部判決)

【上告人】 石川 傳藏 辯護人

秋山 高三郎
横田 和雄
池田 準夫
菅野 勘助
大内 彌助

【第一審】 秋田地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

一筆ノ土地ノ一部分ニ對スル横領罪ノ成立

一筆ノ土地ノ一部分ニ對スル横領罪ノ成立

○判決要旨

土地ノ一部ヲ分筆ノ手續ヲ爲ス以前ニ於テ讓受ケタル者カ相手方ト通シテ殘餘ノ部分モ讓受ケタルカ如ク假裝シ該土地全部ニ付所有權移轉ノ登記ヲ受ケタル場合ニ於テ讓受ケサル部分ヲ擅ニ他人ニ讓渡スルトキハ横領罪成立ス

〔參照〕 刑法第二百五十二條第一項 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百五十二條第一項第二十五條ヲ適用シテ被告人ヲ懲役八月ニ處シ三年間刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和四年五月十七日秋田縣由利郡北内越村赤田遠藤與左衛門ヨリ同人ニ對スル貸金債權辨濟ノ爲同人ノ所有ニ係ル赤田所在ノ田地一町餘歩ヲ買受ケ翌日被告人名義ニ其ノ所有權移轉登記ヲ了シタルカ右田地中赤田字山崎八番田二反一畝一步中赤田川ニ接セル西南端ノ五畝二十三歩ニ付テハ右賣買契約ヨリ除外シタルモノニシテ從テ此ノ部分ノ田地ノ所有權ハ依然トシテ與左衛門ニ屬スルモノナルニ拘ラス被告人名義ニ移轉登記セラレタルヲ奇貨トシ同年七月二十二日預ニ之ヲ遠藤太三郎ニ賣渡

シ翌二十三日日本莊區裁判所ニ於テ其ノ家人遠藤ツヤ名義ニ之カ所有權移轉登記手續ヲ了シテ之ヲ横領シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人秋山高三郎 横田隼雄 池田和夫 菅野勘助 大内彌助上告趣意書第二點原審判決ニハ其ノ認定ニ於テ赤田字山崎八番田二反一畝一步中赤田川ニ接セル西南端ノ五畝二十三歩ヲ横領シタリト認定シタル點ニ於テ顯著ナル事實ノ誤認アリト認ムヘキ事由存ス我カ法制上不動産ニ對スル所有權ハ土地一筆ニ對シ一箇ナリトス本件ニ於ケル八番田二反一畝一步ナル土地ハ一筆ニシテ從テ其ノ所有權ハ一箇ナラサルヘカラス所謂分筆ヲ爲シテ之ヲ二箇ノ土地ト爲ササル以上其ノ上ニ二箇ノ所有權ヲ認ムルコトヲ得ス而シテ本件ニ於テハ其ノ豫審請求書中ニ「當時分筆ノ手續ヲ爲スヘキ暇ナカリシ爲一旦該八番田全部ニ付被告人名義ニ移轉登記ヲ爲シタル上速カニ分筆シテ該五畝二十三歩與左衛門ニ引渡スコトヲ約定シ」トノ記載アルコト第一審判決ニ「當時分筆ノ手續ヲ爲ス暇ナカリシ爲一旦該八番田全部ニ付被告人名義ニ其ノ所有權移轉登記ヲ爲シタル上速カニ分筆シテ該五畝二十三歩ヲ與左衛門ニ引渡スコトヲ約シ」トノ記載アルコトニ徴スレハ右五畝二十三歩ノ土地カ決シテ獨立ノ土地ニ非ラスシテ即

一筆ノ土地ノ一部分ニ對スル横領罪ノ成立

チ一箇ノ土地ノ部分タルニ過キス決シテ一箇ノ所有權ノ目的タリ得ヘキニ非ラス然ラハ如斯關係ニ於テ右八番田ノ所有權ヲ移轉シタリトスレハ決シテ其ノ西南端五畝二十三歩ノ一部ノミカ前主ノ所有物トシテ殘存シ得ヘキニ非ス所有權被告人ニ移轉シタリトシテ前主尙權利ヲ存ストスレハ共有トシテノ權利ヲ存スルカ若クハ其ノ一定部分ニ對スル返還請求ノ債權ヲ存有スト認メサルヲ得ス我カ法制上所有權ノ法理ニ照シ考フルトキ其ノ然ルヲ固ク信ス若シ之ヲ共有關係ト認メ而シテ事實ヲ被告人ニ最モ不利益ニ認定スヘキモノナリトスルモ本件ハ被告人ニ於テ其ノ共有權ヲ侵害シタリト爲シ得ルニ過キスシテ一箇ノ所有權ノ目的トナリ得サル全五畝二十餘歩ヲ橫領シタリト認定シタル原審判決ハ事實ヲ誤認シタルコト實ニ明白ナリトス加之被告人ノ行爲ニ不正アリトシテ其ノ不正行爲ハ右ノ如キ共有權侵犯ナリヤ將又債務ノ不履行ナルヤニ付テハ多大ノ疑存ス本件告發狀ニ「前記五畝二十三歩ハ告發人ノ父與左衛門ニ無償返戻スヘキコトヲ口約シタリ」トノ記載アリ又告發人ニ對スル昭和五年十一月十八日附檢事ノ聽取書ニハ「ソシテ其ノ部分ハ一旦石川傳藏ニ右八番田全部ヲ賣渡シテ賣渡ノ登記ヲ致シタ上分筆シテ其ノ部分七ヶハ父ニ移轉登記ヲシテ戻ス約束ヲシタノテアリマス」トノ供述記載アリ返戻ト云ヒ戻スト云フ即チ手續ノ便宜上全部ノ所有權ヲ移轉シ後ニ其ノ一部ヲ無償返戻スルノ約ナリシト主張スルモノニシテ其ノ主張ヲ以テ眞實ナリトスルモ所有權ハ其ノ全部ニ付被告人ニ移轉シ只被告人ニ於テ其ノ一部ノ所有權ヲ無償返還スルコトヲ約シタルニ過キス如斯關係ニ於テハ被告人力之ヲ

他人ニ讓渡シタリトスルモ右ノ如キ債務ヲ履行セサルニ過キスシテ橫領ノ罪責ヲ負フヘキニ非ス其ノ孰レヨリ之ヲ觀ルモ此ノ點ニ於テモ亦原審判決ハ所有權ノ法理ヲ誤解シ若クハ債務不履行ト橫領トノ關係ヲ混同シ明白ニ事實ノ誤認ニ陥リタルモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

土地ノ一部ハ分筆ノ手續ヲ爲ス以前ト雖所有者ニ於テ之ヲ讓渡スルコトヲ得ルコト當院判例(大正十二年(オ)第六六四號同十三年十月七日民事聯合部判決)ノ示ス所ナレハ一筆ノ土地ノ所有者甲カ其ノ一部分ヲ分筆ノ手續ヲ爲ス以前ニ於テ乙ニ讓渡シタルトキハ乙ハ該部分ニ付所有權ヲ取得スルト同時ニ殘餘ノ部分ノ土地ノ所有權ハ依然甲ニ存スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ敍上ノ場合ニ於テ甲乙合意ノ上讓渡セサル部分ヲモ讓渡シタル如ク假裝シ右一筆ノ土地ノ全部ニ付所有權移轉ノ登記ヲ受ケタルトキハ乙ハ讓渡ヲ受ケサル部分ニ付テモ登記簿上所有名義ヲ有シ第三者ニ對シ有效ニ之ヲ處分シ得ヘキ狀態ニ置カレタルモノナレハ刑法上右部分ニ付テモ之ヲ占有スルモノト謂ハサルヲ得ス從テ乙カ擅ニ他人ニ讓渡スルトキハ橫領罪成立スルコト論ヲ俟タス原判決カ證據ニ依リ認メタル事實ハ被告人ハ遠藤與左衛門ヨリ其ノ所有ニ係ル所論一筆ノ田二反一畝一步中赤田川ニ接セル西南端ノ五畝二十三歩ヲ除キタル殘餘ノ部分ヲ買受ケタルモ當事者合意ノ上右五畝二十三歩ヲモ賣買シタルカ如ク假裝シ右田二反一畝一步全部ニ付被告人名義ニ所有權移轉ノ登記ヲ受ケタルヲ奇貨トシ擅ニ右五畝二十三歩ヲ遠藤太三郎ニ賣渡シタリト云フニ在リテ之ニ依レハ被告人ハ自己ノ占有スル遠藤與左衛門所有ノ

田五畝二十三歩ヲ擅ニ他人ニ讓渡シタルモノナレハ原判決カ被告人ヲ横領罪ニ間擬シタルハ正當ニシテ記録及押收物ニ依ルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認め難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和六年(九)第一五四一號 同七年二月八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 押川浩通 辯護人 西宮喜久馬

【第一審】 宮崎區裁判所

○判示事項

第一審判決ニ對スル上告ト訴訟手續違反

○判決要旨

第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ直ニ上告ヲ爲ス場合ニ於テハ第一審ノ手續力法令ニ違反シタルコトヲ理由トスルヲ許サス

【參照】 刑事訴訟法第四百十六條 左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ

爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一 判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

○事實

第一審宮崎區裁判所ハ縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ付審判ノ末左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和六年九月二十五日執行ノ宮崎縣會議員選舉ニ際シ同年九月二十四日午後八時頃宮崎市橋通五丁目候補者遠藤茂雄ノ選舉事務所ニ到リ居合セタル同所幹部運動員比江島清松ニ對シ自己ハ遠藤候補者ニ好意ヲ有スル一人ニシテ同候補ニ投票ヲ得シムヘク運動スルニ付テハ其ノ運動報酬ヲ交付シ吳レト申込ミ運動報酬ノ供與ヲ要求シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號第四號ニ該當スルヲ以テ同法條所定ノ罰金刑ヲ選擇シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ二十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人二宮喜久馬上告趣意書原判決ハ訴訟手續ニ關シ法令違反アルモノトス則チ被告人浩通ハ昭和六年九月二十四日午後九時三十分宮崎市高千穂通三丁目現場ヨリ司法警察官吏巡查國府友徳ニ依リ何等現行犯ニ非サルニ拘ラス宮崎警察署ニ同行セラレ被告事件ニ付取調ヲ受ケタルモノナルカ被告人カ宮崎區裁判所檢事局ニ送ラレタル昭和六年九月二十八日マテ何等被告人ノ承諾ナクシテ同警察署ニ留置セラレタルハ司法警察官ノ處分權限ヲ超越シタルモノニシテ右越權行爲タル取調ヲ基礎トシテ檢事カ訊問ヲ爲シ之ニ基ク訴訟材料ニ因リ起訴シタル事案ニ對シ原審カ其ノ儘判決ヲ言渡シタルハ違法ナル訴訟手續ヲ默認セル判決ナリト云ハサル可ラス被告人ハ警察官ノ不法ナル處分ナカリセハ唯一ノ不利益ナル證據ヲ提供セサリシモノナルヲ以テ右法令違反ト原判決トノ間ニハ因果關係アルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨】

刑事訴訟法第四百十六條ハ第一審判決ニ對シテハ控訴ヲ爲サスシテ直ニ上告ヲ爲シ得ヘキコトヲ認メタレトモ第一審判決ニ對スル上告ニ在リテハ不服ノ對象ト爲ルヘキ判決又ハ其ノ判決ノ基礎ト爲ルヘキ訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル總テノ場合ニ於テ上告カ許サルヘキモノニ非スシテ判決ニ於テ確定サレタル被告事件ノ本案事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキニ限定サレタルモノナルコト同法條ノ解釋上疑ヲ容レサルトコロナリ本件上告ハ縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ付宮崎區裁判所カ第一審トシテ審判シタル有罪ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ直ニ上告ヲ爲シタルモノナルコト記録上一點ノ疑ナク而シテ其ノ上告ノ理由トスルトコロハ畢竟第一審ノ訴訟手續カ法令ニ違反スル旨ヲ主張スルモノニシテ被告事件ニ付原審ノ確定シタル本案ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコト即チ擬律ノ錯誤ヲ理由トスルモノニ非サルカ故ニ本論旨ハ第一審判決ニ對スル上告トシテハ許サルヘキモノニ非サルナリ加之職權ヲ以テ記録ヲ調査スルニ本件ハ現行犯トシテ司法警察吏巡查國府友徳ニ於テ犯人押川浩通ヲ逮捕告發ノ手續ヲ爲シ司法警察官犯人ヲ受取リ訊問ヲ爲シタルモノニ係リ其ノ逮捕監禁審問ノ點ニ於テ法律ニ違反シタル廉之レアルコトナク其ノ他原審ノ訴訟手續何等法令ニ違反セル形迹アルモノニ非サルカ故ニ本件上告ハ不適法ナリトシ刑事訴訟法第四百四十五條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○衆議院議員選舉法違反被告事件

(昭和六年(九)第一五七三號 同七年二月八日第一刑事部判決)

棄却

【上告人】 被告人 是井 精造 辯護人

外四名

鶴澤保雄 川保雄 中井政義 大井政義

【第一審】 廣島地方裁判所尾道支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

無資格選舉運動者ノ選舉委員ニ對スル報酬ノ供與ト法律ノ適用

○判決要旨

無資格選舉運動者力選舉委員ニ對シ報酬ヲ供與シテ選舉運動ヲ依頼スル行爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ト同法第九十六條第二百二十九條トニ違反シ刑法第五十四條第一項前段ニ從ヒ處斷

スヘキモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

同法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○事實

第二審ハ昭和五年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ廣島縣第三區ヨリ木舎幾三郎カ政友會公認ノ同議員候補者トシテ立候補シタルトコロ同選舉區ハ定員五名ナルニ拘ラス合計七名ノ立候補アリシ爲該選舉競争ハ同月十五日頃ヨリ相當激烈ト爲リシカ(中略)第四被告人是井精造ハ法定ノ

無資格選舉運動者ノ選舉委員ニ對スル報酬ノ供與ト法律ノ適用

選舉運動者ニ非サルトコト被告人田村助造ヨリ同候補者ノ爲選舉運動ヲ依頼セラルルヤ縣會議員トシテ次期選舉ノ地盤擁護ノ必要上同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スヲ得策ト爲シ之ヲ承諾シ同月十五日頃前示二川飲食店ニ於テ被告人田村助造ニ對シ選舉運動報酬ノ供與ヲ要求シ同人ヨリ其ノ實費並報酬ノ前渡トシテ(イ)同月十五日頃ノ正午頃比婆郡山内東村大字三日市二川飲食店ニ於テ金二百五十圓(ロ)同日夕刻頃同郡庄原町是井旅館ニ於テ金三百圓(ハ)同月十六日同旅館ニ於テ金四百圓(ニ)同月十八日頃同旅館ニ於テ金八百圓合計金千七百五十圓ノ供與ヲ受ケタル上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉委員タル被告人延藤國雄ニ對シ(イ)同月十五日頃前掲肩書被告人精造方ニ於テ推薦狀ノ葉書代印刷費並選舉運動ノ報酬前渡金トシテ金三百圓(ロ)同月十八日同所ニ於テ推薦狀葉書代印刷費並選舉運動報酬ノ前渡金トシテ金三百圓合計金六百圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノニシテ、中略)被告人精造ノ行爲ハ犯意ノ繼續ニ係ルモノトストノ事實ヲ認定シ被告人精造ノ行爲中金錢供與ノ點ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一號金錢收受ノ點ハ同法第一百二十二條第四號無資格選舉運動ノ點ハ同法第九十六條第二百二十九條ニ該當スルトコト金錢供與ト無資格運動トハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ其ノ最モ重キ金錢供與罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ右金錢ノ收受ト右金錢供與トハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ一罪ト爲シ同選舉法第一百二十二條所定ノ禁錮刑ヲ選擇シ被告人精造ヲ禁錮三月ニ處シ金千五百五十圓ヲ追徵スヘキ旨ノ判決ヲ爲シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人精造辯議人大井靜雄 田中政義上告趣意書第五點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ上告人は井精造カ木舍候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ其ノ選舉委員タル延藤國雄ニ對シ二回ニ合計六百圓ノ推薦狀葉書代印刷費並運動報酬前渡金ヲ供與シテ選舉運動ヲ爲シタリト判示シ以テ衆議院議員選舉法第九十六條及第二百二十九條ヲ適用處斷シタリ然レトモ凡ソ衆議院議員選舉法第九十六條ニハ「議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス」ト規定シ以テ法定ノ選舉運動者ニ非サルモノト雖演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲シ得ルコトヲ許容セリ而シテ茲ニ所謂演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動トハ單ニ演說ヲ爲シ推薦狀ヲ發送スル行爲夫レノミヲ謂フモノニアラスシテ演說ヲ依頼シ演說會場ノ準備ヲ爲シ又ハ推薦狀ノ文案ヲ作成シ印刷ヲ依頼スルカ如キ行爲モ亦之ニ包含セラルヘキモノニシテ而カモ一回ノ演說ヲ爲シ又ハ推薦狀ヲ發送スルカ如キ場合ノミニ限ラス組織的且繼續的ニ數回ニ又ハ十數回ノ演說又ハ推薦狀ニ依ル場合モ亦固ヨリ妨ケナキモノナルコト當

然ナリ(昭和三年(レ)第一一二七號同年八月三十日大審院第二刑事部判決)今本件ニ於テ上告人は井精造ハ法定ノ選舉運動者トナラサリシモノナルコト爭ナキモ何等普通ノ選舉運動ヲ爲シタルモノニアラスシテ専ラ演說又ハ推薦狀ノ發送ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルモノナルコト是井第三回豫審調書(前略)十七問何ウ云フ運動方法ヲ講シタルカ答既ニ申上ケタ如ク推薦狀ヲ出スコトト推薦演說ニヨルコトトシタノテアリマス從テ私ハ法定ノ運動員ニナラス第三者ノ立場テ獨立運動シタノテアリマス云々十八問其ノ推薦狀印刷及配布ニ何程ノ費用ヲ要シタルカ答官製葉書一萬四千枚ニ比婆郡庄原町白根活版所テ私名義ノ木舎候補ノ推薦狀ヲ印刷サセ葉書代共二月十八日約三百圓同印刷屋ヘ支拂ヒマシタ十九問推薦演說會ハ何處テシタカ答二月十七日比婆郡本村笹尾方同月十八日同郡敷信村大字是松西光寺同月十九日同郡高村乾園所云々ニヨリ明ナリ而シテ本件上告人ヨリ延藤國雄ニ交付シタル計六百圓ノ金ハ何レモ上告人カ白根印刷所ヘ註文シタル上告人名義ノ推薦狀ノ葉書代及印刷代ノ支拂ヲ爲スカ爲ニシテ判示ノ如ク延藤ニ對スル運動報酬ヲ包含スルモノニアラサルコト第三點ニ論シタルトコロノ如シ果シテ然ラハ上告人ノ行爲ハ上告人單獨ニテ數回繼續シテ推薦演說會ヲ開催シ又ハ推薦狀ヲ發送シタルモノニシテ之ニ付推薦狀印刷ノ爲延藤國雄ヲ使用シ又之カ支拂ヲ爲サシメタリトスルモ之ヲ以テ斷シテ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動以外ノ選舉運動ヲ爲シタルモノト云フコトヲ得サルヤ言フ俟タス故ニ上告人ニ對シ衆議院議員選舉法第九十六條及第二百二十九條ヲ適用スヘキモノニアラサルニ拘

ラス原判決カ右法條ニ間擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アリ加之假ニ上告人カ延藤ニ交付シタル金カ判示ノ如ク同人ノ運動報酬前渡金ノ意義ヲ包含スルモノトスルモ上告人ハ延藤ニ對シ何等選舉運動ヲ依頼シタルコトナク又延藤ト共ニ上告人カ選舉運動ヲ爲シタル事實モ亦全然存在セサルヲ以テ單ニ右金圓ヲ延藤ニ交付シタル行爲ヲ以テ上告人カ演說又ハ推薦狀以外ノ選舉運動ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得ヘキモノニアラス故ニ原判決ハ何レノ行爲ヲ以テ上告人カ演說又ハ推薦狀以外ノ選舉運動ヲ爲シタルヤヲ判文ニ明示セサルヘカラサルニ拘ラス之ヲ爲ササルハ少クトモ理由不備ノ甚シキモノナレハ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

所論ノ點ニ付原判決ノ確定シタル事實ハ被告人精造ハ法定ノ選舉運動者ニ非サルトコロ判示ノ選舉ニ際シ廣島縣第三區ヨリ立候補シタル政友會公認ノ議員候補者木舎幾三郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉委員タル被告人延藤國雄ニ對シ(イ)昭和五年二月十五六日頃被告人精造ノ居室ニ於テ推薦狀ノ葉書代印刷費並選舉運動報酬ノ前渡トシテ金三百圓(ロ)同月十八日頃同所ニ於テ推薦狀ノ葉書代印刷費並選舉運動報酬ノ前渡金トシテ金三百圓合計金六百圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シタリト云フニ歸ス按スルニ法定ノ選舉運動者タル資格ヲ有セサル者即チ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ト雖演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ我衆議院議員選舉法ノ禁止セサルトコロナルコト同法第九十六條ノ解釋上疑ヲ容レズ從テ法定ノ選舉運動者タル資格ヲ有スル者ナルト否トヲ

別タス演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ行爲ヲ爲スハ固ヨリ適法ニシテ何等ノ違法性ヲ有スルモノニ非スト雖苟モ選舉運動ヲ爲ス法定ノ資格ヲ有セサルモノカ他人殊ニ選舉委員タル資格ヲ有スル者ニ對シ報酬ヲ供與シテ選舉運動ヲ依頼スルニ於テハ其ノ行爲ハ一面ニ於テ同法第一百十二條第一號ニ違反シ他面ニ於テハ同法第九十六號第二百二十九條ニ違反シ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項前段ノ規定ヲ適用シ處罰ヲ免レサルモノトス故ニ所論原判決ノ確定シタル事實ニシテ被告人精造カ被告人延藤國雄ニ對シ交付シタル金員ノ中推薦狀ノ葉書代印刷費又ハ選舉運動ノ報酬ノ額カ夫々明確ニ分別シ得ヘキモノナルトキハ前者ニ對シテハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ヲ交付シタルモノニシテ何等ノ違法性ナク後者ニ對シテハ不法ノ選舉運動行爲トシテ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條第一百十二條第一號刑法第五十四條第一項前段等ヲ適用處罰セサルヘカラサルモノナルモ原判決ハ斯ノ如キ事實ヲ確定シタルモノニ非スシテ被告人精造ハ被告人延藤國雄ニ對シ推薦狀ノ葉書代印刷費及選舉運動ノ報酬トシテ其ノ各數額ヲ明示スルコトナク包括的ニ之ヲ供與シタル事實ナルカ故ニ其ノ行爲ノ内容ヲ檢討スルトキハ授受サレタル金額ハ一面ニ於テハ不法性ヲ有シ一面ニ於テハ不法性ヲ有セサルモノト觀察セサルヲ得ス然リ而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ其ノ行爲ノ全部カ不可分的ニ不法性ヲ有スルモノトシ處罰スヘキモノナルコト夙ニ判例ノ是認スル所ナリトス原判決ノ所論ノ點ニ關スル事實ノ認定竝法律適用ノ趣旨亦之ニ外ナラサルモノト解シ得ヘキカ故ニ論旨ハ就レ

モ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與

○殺人被告事件(昭和六年(九)第一五九三號 事實審理)
同年二月八日第一刑事部決定

【上告人】 被告人 高橋シマ 辯護人 高橋山方 緒方三弘
赤井幸夫
【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

強制處分ニ於テ宣誓シタル鑑定人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

○決定要旨

強制處分ニ於テ宣誓ヲ爲サシメタル鑑定人ヲ更ニ豫審ニ於テ訊問

強制處分ニ於テ宣誓シタル鑑定人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

スルトキハ新ニ宣誓ヲ爲サシムヘキモノトス

【参照】 刑事訴訟法第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外 鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處 分ヲ爲スコトヲ得ス

同法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限 ニ在ラス
同法第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊 問スヘシ

- 一 十六歳未滿ノ者
 - 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
 - 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者
 - 四 第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ
 - 五 第八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者
 - 六 被告人ノ雇人又ハ同居人
- 前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑隠滅ノ罪、偽證ノ罪、虚偽ノ鑑定、 通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス
第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラレ ルコトナシ

同法第二百二條 證人ノ供述證人若ハ之ト第八十六條第一項ニ規定スル關係アル

者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

同法第二百十三條 豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

同法第二百五十五條 檢事捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提 起前ト雖押收、捜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其 ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

○事實

第二審判決ハ鑑定人大村得三作成ニ係ル昭和四年十一月四日付鑑定書ヲ證據トシテ引用シタリ然ルニ 右鑑定人ニ對シテハ本件起訴前昭和四年八月二十日檢事ノ強制處分請求ニ依リ豫審判事ハ宣誓ヲ爲サシメタル上鑑定ヲ命シ次イテ本件起訴後同年九月十八日豫審判事ハ更ニ他ノ鑑定事項ニ付訊問シ鑑定 ヲ命シタルカ其ノ際豫審判事ハ右鑑定人ニ宣誓ヲ爲サシメサリシモノナリ而シテ前記證據ニ供セラレタル鑑定書ハ後ノ鑑定命令ニ基キ作成提出セラレタルモノニ係ル

○主 文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

強制處分ニ於テ宣誓シタル鑑定人ノ豫審ニ於ケル宣誓ノ要否

○理 由

辯護人緒方弘高山義三赤井幸夫上告趣意書第一點起訴前ノ強制處分ト豫審處分トハ別箇ノ訴訟手續ニ屬スルヲ以テ縱令強制處分手續ニ於テ已ニ一タヒ宣誓ヲ爲サシメタル證人又ハ鑑定人ト雖豫審請求ニ基キ更ニ之レカ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ新ニ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラス否ラサレハ其ノ訊問ハ違法ニシテ之レニ基ク證言又ハ鑑定ハ無効ニシテ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得サルモノトス(御院判例昭和五年(れ)第一六六九號事件審理決定大審院判例集第九卷十二號第八五二頁以下參照)原判決ハ鑑定人大村得三作成ニ係ル昭和四年十一月四日付鑑定書ヲ引用シタリ仍テ記録ニ就キ調査スルニ右鑑定ハ昭和四年九月十八日付豫審判事ノ鑑定人訊問調書(記録第五一〇丁)ニ依ル命令ニ基キ作成セラレタルモノナルコト明ニシテ而モ其ノ際豫審判事ハ同證人ニ對シ更ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ右鑑定命令ヲ爲シタルモノナルコト右鑑定人訊問調書ノ記載上疑ナキ處ニシテ又同鑑定人ハ刑事訴訟法第二百一條第百二條ニ該當スルモノナルコトハ到底之ヲ認ムルニ由ナシ而シテ右鑑定人ハ本件起訴前(起訴ハ昭和四年八月二十二日ナリ記録第四六四丁豫審請求書參照)昭和四年八月二十日檢事ノ強制處分請求(記録第三七〇丁)ニ依リ豫審判事カ鑑定ヲ命シタル場合(記録第三八六丁)ニ於テ宣誓ヲ爲シタルモ本件豫審請求後ニ於テ宣誓ヲ爲シタル事跡ナキヲ以テ右昭和四年九月十八日ノ鑑定命令ハ違法ナリ從テ右命令ニ依リ爲サレタル前示鑑定ハ無効ニシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在リ

仍テ記録ヲ查スルニ原判決カ鑑定人大村得三作成ニ係ル昭和四年十一月四日附鑑定書ヲ採ツテ罪證ニ供シタルコト及同年九月十八日豫審判事カ右鑑定人ニ對シテ右鑑定ヲ命スルニ當リ同鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタル事跡ナキコト所論ノ如クニシテ右鑑定人カ刑事訴訟法第二百一條第百二條ニ該當スルモノナルコトハ之ヲ認メ難キヲ以テ宣誓資格ヲ有スル鑑定人ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ作成セシメタル右鑑定書ハ證據トシテ採用スヘカラサルモノト謂ハサルヘカラス尤モ右鑑定人ニ對シテハ本件公訴提起前同一豫審判事ニ於テ檢事ノ請求ニ依リ他ノ鑑定事項ニ付鑑定ヲ命スルニ際シ宣誓ヲ爲サシメタル事實アリト雖起訴前ノ強制處分ト起訴後ノ訴訟手續ニ屬スル豫審處分トハ同一ニ論スヘキモノニ非サルヲ以テ縱令強制處分手續ニ於テ既ニ一度宣誓ヲ爲サシメタル鑑定人ト雖豫審請求ニ基キ更ニ之カ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ新ニ宣誓ヲ爲サシメサルヘカラスルヲ以テ右強制處分手續ニ於テ宣誓ヲ爲サシメタレハトテ前記鑑定人ノ鑑定書ヲ有效ナリト論スルヲ得ス果シテ然ラハ原判決ハ無効ノ鑑定書ヲ採ツテ斷罪ノ資料ニ供シタルモノト謂フヘク右ハ採證ノ法則ニ違背スルノミナラス其ノ不法ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスコト明白ナレハ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス仍テ爾餘ノ論旨ニ對スル判斷ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十條ニ依リ主文ノ如ク決定ス

檢事松井和義關與

○差押標示無効同教唆被告事件(昭和六年(九)第一六四六號 棄却)

(昭和六年(九)第一六四六號 棄却)

【上告人】 被告人 竹村奈良 外一名 辯護人

浪江源治 井藤志雄 上川幸太郎 色川幸太郎 三浦次郎

【第一審】 奈良區裁判所 【第二審】 奈良地方裁判所

○判示事項

差押標示ノ効力ノ減減ト刑法第九十六條——土地ノ荒起ト差押標示ノ無効——刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分——假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ効力

○判決要旨

一 刑法第九十六條ニ所謂公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ

無効ナラシメタル者ニハ封印又ハ差押ノ標示其ノモノヲ害スルコトナク之効力ヲ事實上減却又ハ減殺シタル者ヲモ包含ス【要旨第一】

二 執達吏力差押ノ標示ヲ以テ自己ノ占有ニ歸シ立入耕作ヲ禁止スル旨ヲ明ニシタル土地ニ立入り荒起ヲ爲シタル者ハ刑法第九十六條ニ所謂差押ノ標示ヲ無効ナラシメタル者ニ該當ス【要旨第二】

三 執達吏力裁判所ノ假處分命令ニ基キ強制力ヲ以テ物ヲ占有スルハ刑法第九十六條ニ所謂差押ニ該當ス【要旨第三】

四 裁判所ノ假處分命令ニ基キ執達吏ノ爲シタル差押ノ標示ノ効力ハ假處分ノ基本タル民事上ノ權利力眞ニ存在スルヤ否ニ因リテ消長スル所ナシ【要旨第四】

【参照】 刑法第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人奈良一ヲ懲役二月ニ處シ三年間其ノ執行ヲ

差押標示ノ効力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ効力

猶豫ス被告人辰藏ヲ罰金四十圓ニ處シ之ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人奈良一ハ昭和五年一月以來奈良縣北葛城郡高田町所在ノ全國農民組合奈良縣聯合會ノ常任委員トシテ政治部長ノ地位ニアリタルモノナルトコロ生駒郡片桐村大字滿願寺ニ於テ昭和四年度ノ小作料ノ減免ニ關シ地主吉村定五郎外二名ト小作人西口辰藏外六名トノ間ニ紛議ヲ生シ地主側ハ昭和五年八月中小作人等ニ對シ土地明渡並小作料支拂ノ請求訴訟ヲ奈良地方裁判所ニ提起シ且右土地明渡請求權ノ執行保全處分トシテ小作地一町一段三畝餘歩ハ地主ノ委任シタル執達吏ヲシテ占有セシムヘキ旨ノ假處分命令ヲ受ケ同月二十日該命令ハ執行セラレ又同村大字小泉ニ於テ昭和五年度ノ小作料ニ關シ地主釜谷彌之助外十二名ト小作人出原米藏外八名トノ間ニ紛議ヲ生シ地主側ハ昭和六年二月中小作人等ニ對シ土地明渡並小作料支拂ノ請求訴訟ヲ同裁判所ニ提起シ次テ右土地明渡請求權ノ執行保全處分トシテ同年三月四日小作地約四町歩ニ付前同様ノ假處分命令ヲ受ケ之モ亦同月六日執行セラレ何レモ引續キ紛爭ヲ重ネ居リタルニヨリ小作人側ヲ應援支持スル前記聯合會ハ昭和六年三月中旬以來同村大字滿願寺ナル被告人西口辰藏方ニ爭議團本部ヲ設ケ被告人奈良一ハ之カ指導者トシテ對策ヲ講究中翌四月上旬末弘嚴太郎責任編輯法律時報ニ掲載セラレタル辯護士上村進ノ立入禁止ノ刑法的效力ト題スル論說ヲ見假處分執行ノ公示札ハ刑法第九十六條ノ差押ノ標示ニアラス之ヲ其ノ儘ト爲シ置カハ假令立

入耕作ヲ爲スモ罰セラルヘキ行爲ニ非サル旨ノ解釋ヲ正當ナルモノト信シ之ニ從ヒ前記假處分地ノ共同耕作ヲ爲シ以テ地主側ニ對抗スルニ如カスト思惟シ豫テ右假處分地ハ假處分命令ノ執行ニ因リ執レモ其ノ占有ノ執達吏ニ移リ居ルモノナルコト及右假處分地ニハ該假處分命令ノ執行ヲ標示セル「右ハ假處分物件ニシテ執達吏之ヲ占有ス依テ何人ト雖之ヲ處分スヘカラス若シ之ヲ處分シ又ハ公示札ヲ破毀シタルトキハ刑罰ニ處セラルヘシ」トノ記載アル公示札カ現ニ存スルコトヲ認識シナカラ同月二十五日前記聯合會本部ニ於テ「翌二十六日午前五時滿願寺及出屋敷方面ノ共同耕作ノ爲メ鋤ヲ持參シテ西田中ノ青年會場ニ集合スヘシ」トノ趣旨ヲ記載シタル耕作命令書五六十枚ヲ作成シ同日ヨリ其ノ翌朝ニ互リ前記爭議團本部其ノ他ニ於テ被告人辰藏ノ外關係小作人等ニ配布シ尙右小作關係者ニ對シ立入禁止ノ公示札ヲ其ノ儘ト爲ストキハ假處分地ニ立入り耕作スルモ何等差支ナキモノナルカ故ニ勇敢ニ之ヲ爲シ遂クヘキ旨ヲ説キ辰藏外數十名ヲ教唆シテ右假處分地ノ共同耕作ヲ決意セシメ辰藏等ハ之ニ基キ同月二十六日早朝ヨリ午前七八時頃迄ノ間ニ前記處分地中大字滿願寺ニ屬スル部分全部及大字小泉ニ屬スル部分一部ニ立入り牛ヲ使役シ鋤ヲ以テ俗ニ荒起シト稱スル耕作ヲ爲シ以テ執達吏ノ施シタル差押ノ標示ヲ無効ナラシメタルモノナリ

被告人辰藏ハ居大字ニ於テ富野伊平衛及金澤政治郎ノ所有田地ヲ各小作シ昭和四年度小作料ノ紛議解決ノ爲同年六七月頃前記農民組合ニ加入シ居大字ノ班長トナリ地主ニ對抗シ來リタルモノナル處昭和

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

六年四月二十五日夜被告人奈良一ヨリ前記ノ如ク假處分地ニ立入り耕作スヘキコトヲ教唆セラレ翌二
十六日朝前記假處分命令ノ執行ニ依リ土地ノ占有ハ執達吏ニ移轉セルコト及其ノ土地ニハ前掲公示札
ノ現存スルコトヲ知悉シナカラ居大字滿願寺ノ自己及其ノ他ノ小作シ居リタル假處分地ニ立入り關係
小作人ト共ニ犂鋤等ヲ使用シ俗ニ荒起シト稱スル耕作ヲ爲シ以テ執達吏ノ施シタル差押ノ標示ヲ無効
ナラシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人奈良一ノ所爲ハ刑法第九十六條第六十一條ニ被告人辰藏ノ所爲ハ同法第九十六條
ニ各該當スルヲ以テ所定刑中被告人奈良一ニハ懲役刑ヲ被告人辰藏ニハ罰金刑ヲ選擇シテ主文ノ如ク
量刑處斷シ被告人奈良一ニハ同法第二十五條ニ則リ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ又被告人辰藏ニハ同法
第十八條ヲ適用シ罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間ヲ二十日ト定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人浪江源治 井藤譽志雄 色川幸太郎上告趣意書第一原審判決認定ノ事實ハ刑法第九十六
條ニ該當セサルモノナリ刑法第九十六條ノ罪ハ封印又ハ差押ノ標示其ノモノヲ侵害スルニ因リテ成立
スルモノナリ蓋シ同條ニ所謂「封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞其ノ他ノ方法ニ依リ無効ナラシメ」ルトハ封

印又ハ差押ノ標示其ノモノノ存在ヲ外部ニ認識セシムル機能ヲ侵害スルヲ謂ヒ廣ク封印又ハ差押ノ標
示ノ内容タル效力ニ及フモノニアラス而シテ其ノ侵害行爲ハ「損壞」「其ノ他ノ方法」ニヨリ「無効」
ナラシメタル場合ヲ汎稱スルト雖執レモ其等ノ行爲ハ「封印又ハ差押ノ標示」其ノモノノ表示機能ヲ
無効ナラシメ其ノ證據ヲ失ハシムルモノタラサル可カラス從テ茲ニ「其ノ他ノ方法」トアルモ「封印
又ハ差押ノ標示」其ノ物ノ表示作用ヲ滅却スルカ如キ手段ニ限ラルルモノト謂フ可シ被告人等ハ何等
「差押ノ標示」其ノモノノ表示機能ヲ侵害シタルモノニアラサルコト明白ニシテ本件事案ニ付刑法第九
十六條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アリト云フニ在リ

【要旨第一】

然レトモ刑法第九十六條ニ所謂其ノ他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者トハ現實ニ公
務員カ施シタル封印又ハ差押ノ標示其ノモノヲ害スルコトナク右封印又ハ標示ニ對シ其ノ效力ヲ事實
上滅却シ又ハ滅殺シタル者ヲモ包含スルモノニシテ所論ニ所謂封印又ハ差押ノ標示其ノモノノ存在ヲ
外部ニ認識セシムル機能ヲ侵害スル場合ノミト解スヘキニ非ス本件ニ於テ記録ヲ查スルニ原判決ハ裁
判所ノ發シタル假處分命令ニヨリ執達吏ニ於テ判示土地ヲ占有シ其ノ土地内ニ立入り耕作スルコトヲ
禁止シタル標示札アルニ拘ラス被告人ハ之ヲ無視シテ右土地内ニ立入り荒起シト稱スル耕作ヲ爲シタ
ル事實ヲ認定シタル趣旨ナルカ故ニ之ヲ以テ刑法第九十六條ノ罪トシテ擬律シタル原判決ハ相當ナリ
所論ハ畢竟法律ヲ誤解シ之ニ立脚シテ原判決ヲ攻撃スルモノニシテ論旨理由ナシ

差押標示ノ效力ノ滅却ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十
六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

同第二假ニ第一ノ主張理由ナシトスルモ刑法第九十六條ハ「封印又ハ差押ノ標示ヲ無効タラシメ」ト規定シタリ仰モ無効タラシムル行爲トハ「或ハ封印又ハ差押ノ標示ヲ塗抹シ或ハ差押物件其ノモノヲ破毀スルカ如キ封印又ハ標示ノ效用ヲ事實的ニ失却セシムル」ノ謂ニ外ナラス（泉二博士日本刑法論三十六版八二頁）既ニ御院ニ於テモ「……封印又ハ標示ヲ施シタル物件其ノモノヲ奪取シテ其ノ所在ヲ不明ナラシメ公務員カ封印又ハ差押ヲ爲シタル證據ヲ失ハシムル如キ」「封印又ハ差押ヲ爲シタル形跡ヲ滅失シテ實際其ノ用ヲ爲スヲ得サラシム可キ行爲」（大審院刑事判決錄十七輯二二三頁明治四十四年十二月十九日判決）ト判示セラレタルニ依リテモ茲ニ無効トハ單ニ效用ノ圓滿性ヲ害スルニ止マラス終局的ニ其ノ效用ヲ失ハシムルコトヲ指稱スルモノタルヤ明ナリ然ルニ原審判決ハ被告人等ノ行爲ヲ目シテ輒ク「標示ヲ無効タラシメタルモノ」ト判定シ之レニ刑法第九十六條ヲ適用シタルモ記録ヲ精査スルニ被告人等ハ僅カニ一二回假處分地ニ立入り荒起シヲ爲シタルニ過キス若シ被告人等ニ於テ長日月ニ互リテ執達吏ノ占有ヲ排除シタル上之ヲ耕作シ一般社會的通念ヨリ見テ事實上所有者又ハ正當ナル權限ニ基ク占有者ト同視シ得ル如キ行爲ニ出テタランニハ或ハ標示ノ效力ヲ事實的ニ失却セシメタリト爲スヲ得ヘケンモ原判決ノ認定スルトコロニ依リテハ斯クノ如キ事實更ニ無ク却テ被告人等ノ行爲終了ノ其ノ瞬間ニ於テ執達吏ノ占有ハ完全ニ回復セラレ標示カ依然トシテ嚴存スルハ勿論假處分ノ内容ハ遺漏ナク實現サレ居タルヲ見ル以上ノ次第ナルヲ以テ原判決ハ審理不盡アルニ非サ

【要旨第二】

レハ理由不備ノ違法アルカ或ハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノト謂ハサル可カラスト云フニ在リ
然レトモ論旨第一ノ理由ナキコトハ先ニ説明シタル如シ而シテ原判決ハ所論荒起シヲ以テ差押ノ標示ヲ無効ナラシメタル所爲ト認定シタルコト明ニシテ此ノ事實カ標示ノ效用ヲ事實的ニ減殺セシメタルモノナルコトハ論ヲ俟タス從テ所論終局的ニ其ノ效用ヲ失ハシメサルモ刑法第九十六條ノ罪ヲ構成スルモノトス所論引用ノ本院判例ハ原判決ノ見解ト扞格スル所ナシ原判決ハ右ノ犯罪事實ヲ證據ニ依リ認定シタルモノニシテ其ノ舉示スル證據ニ依レハ之ヲ認ムルニ十分ナルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ

各被告人辯護人上村進 三浦次郎上告趣意書第一點本件ハ單ニ個人的問題ニアラスシテ農民運動ノ全般ニ互ル重大問題ナレハ其ノ趣旨モ單ニ刑法ノ表面的ノ局部的解釋ニ委スヘキテハナク刑事問題ヲ惹起セル根本ノ民事的事實モ之ヲ社會的ニ見テ精密ナル考察ヲ下ス要カアルニ依リ本件ノ事實カ犯罪トナルヤ否ノ事實關係モ亦汎ク認定ノ資料トサルヘキテアルカ故ニ先ツソノ基本的ナル本件行爲ノ基本タル民事的事實關係ヲ法律的ニ見テ一々不服ノ理由ニ舉ケサルヲ得ナイノテアル詳言スレハ農民カ小作契約ニ依ル小作料ヲ地主ニ支拂ハヌタメニ地主カ契約ヲ解除シ土地返還ノ請求訴訟ヲ提起シ其ノ前提トシテ假處分ノ執行ヲ執達吏ニ委任スルト言フ民法上及民訴上ノ問題ヲ經テ執行ヲ受ケルノカ所謂立禁地テアルコノ立禁地ニ立入耕作ヲ爲シテ始メテ起ルノカ刑法上ノ效力問題テアリ又犯罪トナルヤ

差押標示ノ效力ノ減殺ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本ナル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

否ノ論旨ノ重點テアル從テ此ノ重大ナル民事關係ト切り離シテボツツリト立禁地耕作ノ刑法的效力ヲ論スルコトハ不可能テアルソレ故ニ一、小作料契約ノ本質ニテ、小作料爭議ヲ協定出來ネハ土地取上ケハ不當テアル三、立禁假處分ハ民法上違法テアル四、刑法ノ解釋上罪トナラナイ五、サウ解スルノカ日本ノ土地制度上正當テアルノ順テ陳述シテ行キタイト思フト云ヒ」第二點小作料契約ノ本質地主カ土地ヲ取上ケル原因ハソノ種類頗ル多イ土地ノ賣買カアツテ新地主ヨリ請求スル場合契約ノ期限カ切レタ場合或ハ土地會社ニ管理ヲ委託シテ其ノ會社ヨリ返還ヲ請求スル場合等テアルカ最も多ク農民カ苦シメラレテキルノハ「小作料ヲ納入セヌカラ土地ヲ返シテ呉レ」ト言フ所謂法律上債務不履行ニ依ル契約解除ヲ原因トスル土地取上訴訟テアル本件モ亦之テアリ此ノ訴訟ニ伴フ立入禁止ノ假處分テアツタソレ故ニ此處テ小作料契約ノ本質ヲ明ニスル必要カ出テ來ルノテアル現在日本全國ノ小作農民カ地主ニ對シテ締結シテキル小作契約天下リ式ニ書カセラレテキル小作證書——水入證書——ニ記載シテアル小作料例ヘハ「一反歩一石トス」ハ果シテ如何ナル意味ヲ持ツカ地主ハ勿論ブルジョア法律家ハ此ノ小作料ヲ一定不動ノ確定的額ト解シテ何等ノ疑モ持ツテキナイ苟モ一旦極メタ小作料ハ證書面通リテ地主ト協議ノ上改正セヌ限リ何十年經ツテモ變リハナイ只惡作ノ場合ハ地主ノ恩惠ニ依ツテ免引ヲシテヤルニ過キヌト主張サレテ居リ裁判所ニ於テモ亦此ノ解釋ニ依ツテ判決ヲ下シテ居ルタカ然シコレハ重大ナル誤解テアル小作人カ小作契約ニ依ツテ負擔シテ居ル小作料ハ決シテ水入證書——證

書ノナキ場合モ同一テアル——ニ記載サレタ額カ一定不變ノ決定の數テハナイ證書ニ表示サレテアル數額例ヘハ「一反歩一石」トアル場合ニハ一反歩ニ對シテ單ニ「一石」ト言フ大體標準ヲ抽象的ニ規定シタニ過キナイ悉シク言ヘハ當事者間ニ於テ大體平作テアレハ「其ノ位」ニテ良カラント言フ「メヤス」ノ意味テアル從テ地主カラ見レハ最高限度ヲ示シ假令豐年テモソレヨリ多額ニ請求セヌコトテアリ農民ヨリ見レハ普通作テアレハ「極メ」通り納入スルト言フ意味テアリ其ノコトヲ抽象的ニ約束シタニ過キヌモノテアル法律的ニ言ヘハ小作料債務ハ最初ノ契約時ニ於テ小作人ノ負擔シタ可變的抽象的ノ内容ヲ持ツ債務テアツテ地主ニ納入スル額ハ毎年毎年納入期ニ於テ其ノ年其ノ年ノ稻ノ出來バ即作柄ニ依テ檢見ノ上當該地主ト小作人トノ協定ニヨリ具體的ニ決スヘキモノテアル言フマテモナク稻ハ大自然ニ晒サレテ居リ不可抗力ノ下ニ置カレテキル旱害蟲害水害等人力ノ如何トモスルコトノ出來ナイモノテアル作柄ハ又毎年毎年決シテ一定シテハ居ナイ年ニヨリ三割減ノコトモアリ五割減ノコトモ水害等ノ場合ニハ皆無ト言フコトモ想像ニ難クハナイソシテ此ノコトハ今始メテ判ツタ事實テハナクテ昔ヨリ然リテアツタコトハ辯ヲ要セス如斯本質ヲ持ツ稻作ソレカラ生スル小作料契約カトウシテ確定不變テアルヘキテアルカ契約當時ニ於テモ此ノ事實即惡作ノ來ルコトヲ知り而カモ「一反歩一石」ト極メルコトハ如何ニ惡作ニテモ證書通りノ額ヲ納入スルトイフ意思テハナク過去ニ經驗シタ如ク將來モ想像ノ出來ル惡作ニハ「引ク」ヘキ本質ヲ持ツテキルト言フ認識ノ下ニ又ソウシタ意思ノ

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

下ニ爲サレタモノカ小作料契約ノ眞ノ姿テアル換言スレハ小作料契約ハ抽象的ニハ證書面ノ債務ヲ負擔シテキルカ具體的ニハ納入スル小作料ノ額ハ毎年納入期ニ於ケル作柄ニ依ツテ當事者協議ノ上確定スヘキ本質ヲ持ツテ居ルノテアル一口ニ言ヘハ證書カ小作料ヲ極メルノテハナク稻其ノモノカ小作料ヲ極メルノテナケレハナラヌ又此ノ見解カ正シイ理由ノ一二トシテ最近農民組合ノ鬭争ニ依ツテ勝チ取ツタ和解若ハ調停ニ現ハレテ居ル和解ノ條項中ニハ必ラス定免小作料ニ關シテ左ノ如ク規定サレテ居ル例小作料ハ一反歩八斗ノ割合トス但異作ノ場合ハ雙方協議ノ上之ヲ定ム之トリモ直サス異作ヲ想像シソノ異作ノ場合ニハ證書面上ノ額ニ依リ得ナイ處ニ小作料契約ノ本質カアリ小作料カ其ノ年其ノ年ニ決定サルヘキテアルコトヲ如實ニ表示シテ居ルソシテ異作テアルカ否カカ毎年毎年具體的ニ決定サルルモノナル以上其ノ年ノ小作料モ當然其ノ年ニ決定セラル可キハ餘リニモ見易イ理屈テナケレハナラナイ殊ニ都會地ニ於ケル借地ノ地代之ハ稻ノ如クニ天然ノ不可抗力ニ曝サレテ居ルモノテナク一定期間ハ殆ント同一收穫ノアルヘキ性質ナルニモ拘ラス一度契約シタ最初ノ地代カ將來ニ於テ一定不動テアリ得ナイ土地ノ盛衰ト物價ノ高低ニ依ツテハ貸主ノ意思如何ニ拘ラス借地人ニ於テ地代値下ノ請求ヲナスコトカ出來ル言フマテモナク地代契約ハ假令貸借當時ニ一旦ハ額ヲ定メタニシテモソレハ單ニ相當額ヲ豫想シタ表示ニスキヌカ故ニ年數ヲ經テ「相當」ノ程度ニ變化ヲ來タスニ於テハ之ノ表示額——最初ノ——ヲ變更スルノ必要カアル否常ニ其ノ時其ノ時ニ地代ノ「相當」テアルコトカ借

主ノ最初ヨリノ意思テアリ地代契約ノ本質テアル然リ而シテ其ノ相當カ否カハ時々——三年ニ一度位——アタツテ見ネハナラヌ極端ニ言ヘハ毎年極メルヘキ性質ヲ持ツテ居ルノテアル都會ノ地代契約スラ尙且然リテアル況ンヤ稻ノ如キ野天ニ於テ生産シ其ノ利益ヲ以テ地代トスル小作料ニ於テ毎年決スヘキハ當然テアル日本全國ニ於テ檢見カ毎年正確ニ實行サレテキナイノハ只小作人ニ於テ大體普通作ト見テ之ヲ要求スル權利ヲ拋棄シテ來タ迄ニ過キナイ而カモ何レノ地ニ於テモ惡作ノ場合ニ檢見ノ行ハレテ居ルコトハ以テ小作契約ノ本質ヲ物語ルニ充分テアル小作料ハ本質トシテ一定不動ノモノテアルカ惡作ノ場合ニハ必ス免引シテ來タ慣習カアルソレタカラ地主ハ負ケテヤル義務カアルト言フ説アルモ契約ノ本質ヲ見ヌ論テアルト云ヒ」第三點小作爭議テ小作料カ協定付カネハ土地取上ハ不當テアル小作料契約ノ本質カ前述ノ如ク毎年毎年具體的ニ決定スヘキモノテアル當然ノ結論ハ爭議ノ爲メノ小作料延納ハ法律上債務ノ不履行トハナラナイ小作料カ其ノ年其ノ年ノ「作柄ノ良シ惡」ニヨツテ極マルモノテアル結果トシテ其ノ年ノ作柄カ惡ケレハ惡イ事實ヲ檢見(其ノ他ノ方法)ニヨツテ極メナケレハナラヌコトハ言フマテモナイコトテアルソコテ惡イカ惡クナイカ——檢見スル程テアルカナイカ——ニ就テ争カ起ル地主ハ勿論惡クナイト言フ檢見ヲシタ結果ハ惡イ程度ニ就テモ争カ起ルソノ惡イ程度ノ争ハ何處マテ行ツテモ地主ト小作人間ニハ止メ度ハナイ斯クシテ爭議ハ始マルノテアルカ争ハ結局ノトコロ「惡イカ惡クナイカノ争」「何程惡イカノ争」ノ争ヒテアツテ之ヲ證書面上——證書カ

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所屬差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力 五三 (三三)

ナクテモ契約ハアルカラ理論ハ同一テアル——カラ言ヘハ「證書面上ノ小作料ヲ拂フカソレトモマケテ貰ヘルカノ争」證書面上ノ額ハマケテ貰ヘルカ何程マケサセルカ」ノ争ヒテアル何レニシテモ争ヒアル以上其ノ年ノ小作料ハ本質上具體的ニハ確定セヌノテアル總テ給付ノ債務ハ之ヲ履行スルニ付テハ其ノ前ニ履行スヘキ債務ノ種類(米ナラ米金ナラ金)ト數量(米ナラ何石金ナラ何圓)トカ確定シテ居ナケレハナラヌコトハ債權法上議論ノナイトコロテアルソウテナケレハ履行期(納入期)カ來テモ納入ノ仕方カナイ譯テアル約言スレハ昨年度ノ小作料ハ其ノ年ノ納入期テアル昨年十二月末迄ニ小作人ト地主ノ間ニ於テ協定シタ額カキチント極マツテ居ナケレハナラヌ額即「何俵何斗何升何合」ト言フコトカ數學的ニ當事者雙方テ決定サレテ始メテ納入スルコトカ出來ルノテアツテソレ迄ハ假令トシテ理由テ爭議カアラウトモ爭議カ續イテ協定カ出來ヌ内ハ具體的ニ納入スヘキ其ノ年ノ小作料ノ額(數量)カ確定シテキナイカラ小作人ハ納メテ見ヤウ筈カナイ言ハハ社會的ニ見テノ法律事實トシテハ正ニ納入不能ノ状態ニオカレテキルノテアル從ツテ小作人ニ於テハ債務ノ不履行テハ斷シテナイノテアル納米セヌテ居ル事實ヲ直ニ法律上ノ不履行テアルト思フコトハ全然間違ヒテアル例ヘハ金ヲ借りテモ返済ノ時期ニ就テ争ヒカアレハ假令貸主ノ方テ勝手ニ斷定シタ返済期限カ到來シタモノトシテ裁判所ニ訴ヘテモ裁判所テ取調ヘタ結果未タ辨濟期カ來ナイモノトスレハ貸主ハソノ訴訟ニ於テ敗レテ了フ其ノ結果ハ借主ハ未タ返済センテモヨイ借主ノ勝訴トイフコトニナルト同様ニ小作米ノ履行ノ

時期モ債權ノ目的タル數量モ何レモ債權者ノ一方ノ意思ノミテ決定スルコトハ絕對ニ出來ナイ性質ノモノテアルソレタカラ争ヒノアル場合(惡作ノ場合)ニ債務者即小作人側ヲ不履行ノ責任ニ陥入レ様トスレハ如何ニ面倒テアツテモ小作人ノ意思ヲ以テ合致シタトコロノ雙方ノ協定カ絕對ニ必要テアル此ノ協定カナイ限り何年經過シヤウトモ地主一方ノ意見テハ小作料ノ額ヲ決定スルコトハ絕對ニ出來ヌノテアルコトハ契約ハ如何ナル場合ニ於テモ當事者雙方ノ意思テ決メラレタモノテアリ又決メルヘキモノテアルコトニヨツテ明テアル民法第五百四十一條當事者ノ一方カ其ノ債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告シ若シ其ノ期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ト明記シテアルカ文面中「其ノ債務ヲ履行セサルトキノ履行セサルト言フコトハ小作人側カ爭議モ何モナク平凡ノ場合テ小作料モ契約通りニ決定サレテキルニ拘ラス之カ納入期限ヲ故意ニ怠ツテ居タ場合ニ於テ初メテ「履行セサル」即不履行ト言フコトニナルノテアルカラ小作爭議ノ場合ニハ不履行ト言フコトハ全然ナイ從テ又「相手方(地主)ハ相當ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告シ」トアル「履行ノ催告」モ出來ナイ筈テアル何トナレハ履行スルニハ額カ確定シテ居ナケレハナラヌカラテアルコトハ前述ヘタ通りテアル然ルニ地主的法律解釋ニヨレハ此ノ場合小作人側ト争ヒカアツテ而モ協定カツカヌカラ證書面上ノ額ヲ履行ヲ催告スルト言フノテアルカ實ニ小作契約ノ本質ヲ無視シタ不當曲解モ甚タシイノテ地主ノ獨斷專制以外ノ何モノテモナイ證書面上ニ争カアルト言フノニ對シテ小

差押標示ノ效力ノ減減ト利法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 利法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

作人ノ協定ニ應シナイカラ其ノ證書面通りニ勝手ニ決メテ催告スルト言フコトハ法文ノ示ストコロノ「履行ノ催告」ニハ絶対ニナラナイコトハ法律解釋上寸毫ノ疑モナイ處テアルシテ見レハ如何ニ地主カ爭議ノアル場合ニ勝手ニ催告(納米シロ)手續ヲ取ツテ來タトコロテソレハ法律ニ違反シタ不適法ノ催告テアツテ催告シナイト同様テ法律上テハ小作人ニ對シテ何等ノ效力ヲモ生シナイノテアル納米ノ催告カ法律上不適法テ效力ヲ生シナケレハ從テ又契約ノ解除モ當然無効テアル而シテソノ當然ノ結論トシテ地主カ土地貸借契約ノ解除ヲ理由トシテノ土地返還請求訴訟ハ當然無効テアリ不法テアルソレ故爭議ノ場合ノ土地返還訴訟ノ本訴ハ永小作權ヲ主張スル迄モナクコノ點タケ主張シテ小作人ノ勝訴ハ確實テナケレハナラヌソレニモ拘ラス小作人ノ不利益ニ判決サルル所以ハ前記ノ法理ト解釋竝主張カ徹底セヌカラテアル此ノ小作契約ノ本質カラ流レ出ル爭議——減免要求——ノ原因ハ肥料代ノ高騰ニヨル農民ノ支拂困難ノ場合ニモ適用サルヘキテアル何トナレハ農民ノ小作地ニ施ス肥料ハ全部農民負擔テ其ノ高騰ニヨル農民ノ支拂増加ハ小作人ノ全收入ヲソノ損失ニ於テノミ減少セシメテキルカラテアルソレ等ノ物價高低モ近代的農業——勞働賃銀ノ高騰——等モ小作料契約ヲ其ノ年々ニ決定サスヘク餘儀ナクサセテ居ルソレ故ニ假令稻作ハ平作テアツテモコノ點タケテ爭議カアリ又ソレハ小作料ノ本質カラ見テ當然テナケレハナラナイ米價下落ノ場合モ農民ノ生産費ノ上カラ他ノ物價ト米價トヲ比較シテ高率ノ支出額ニ上ル時モ亦同一ニアルト云ヒ」第四點立禁ハ民事訴訟法違反テアル土地

立入禁止ノ假處分ハ現行法律ニ照シテモ全然不法テ許スヘカラサルモノテアル地主ハ小作人カ不作テアルカラ小作料ヲ負ケロト言ツテ爭議ヲ起セハ一ツ言ヘハ二ツ目ニハ必ス法廷戰ニ持チ出スノカ常テアルソシテ最先ニ振りカサシテ來ルノカ土地取上ノ訴訟テアルカ如何ニ不法テアルカハ前述シタ通りテアルカ之ニモ數倍増シテ不都合ナノハ土地取上訴訟ノ前提ヲナス所ノ土地立入禁止ノ假處分テアル—立禁—ハ本訴訟ヲ起スト同時ニ極メテ出シヌケニ小作人カ今ヤ田打ヲ始メヤウトスル所ヘヤツテ來ル代物テアル而シテ未タ本訴ノ辯論期日モ定マラナイ中ニ立禁ノ分ノ辯論タケカドンドン指定サレテ來ルソレ許リテナク辯論ヲ急イテ一二回乃至二三回ノ辯論テ判決シテシマウノカ普通テアル立入禁止ノ假處分ノカ所謂「立禁」テ小作人ノ土地ヲ本訴ノ判決以前ニ小作人カラ假ニ取上ケテシマウト言フ假處分テアリ法律上ノ言葉ヲ以テスレハ「争ヒノアル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定メル爲」ノ假處分テアル之ハ民法第七百六十條假處分ハ争ヒアル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲ス事ヲ得但其ノ處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付著シキ損害ヲ避ケ若ハ急迫ナル強暴ヲ妨ク爲又ハ其ノ他ノ理由ニヨリ之ヲ必要トスルトキニ限ルト言フ風ニ規定シテアルコノ規定ニヨツテ地主ハ立禁ノ假處分ヲ申請シコノ規定ニ基イテ立禁ノ判決ハ下サレルノテアル此ノ立禁ヲ申請スルニハ申請スルタケノ理由カ必要テアルソレハ法文ニ明ニ規定シテキル殊ニ繼續スル權利關係ニ付著シキ損害ヲ避ケル爲テナケレハナラナイ換言スレハ本訴ノ判決アル迄小作關係——權利關係——ヲ小作人カ繼續シテキ

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

レハ地主ニ著シキ損害カ生スルカラ假ニ取上ケテ第三者ノ支配下ニ置クト言フ理由カ絶對ニ必要テアル果シテ然ラハ土地返還ノ訴訟ニ於テ立禁ノ假處分無シテハ地主側ニ著シイ損害カ生スルノテアラウカ著ルシイ損害トハ一體何ヲ意味スルカ爭議カ起キテ小作米ヲ不納シテキル例ヘハ昭和五年度ノ納入期ニ爭議ヲ始メ小作米不納ヲシタソコテ六年三月ニ入ツテ地主カ訴訟ヲ起シテ假處分ノ申請ヲシタトスル裁判所ハ假處分ニ就テノ口頭辯論ヲ開イテ「假處分ノ理由アリ」トシテ假處分ヲ許ス判決ヲ下ス之ハ言フ迄モナク「著シイ損害ヲ避ケル」必要カアルコトヲ判決ノ理由トスルノテアリ著シイ損害カ生スルト見タカラテアル然シ乍ラ小作料ノ不納ヲ以テ著シイ損害ト見ルコトハ絶對ニ不當テアルソレハ單ニ小作料カ納マラヌコトカラ生スル普通ノ損害ニスキヌ夫モ五年度ノ小作料全部カ損害ニナルノテハナク昭和五年度末ノ即納米期以後ノ利息——期日ニ納米シタトスレハ夫ヲ賣却シテ金ニスル金ニシタトスレハ其ノ後ニ付ク利息トカ即不納カラ起ル損害テアツテコノ損害ハ著シイ損害テハナイコトハ法律學者間ニ於テ一點ノ疑問ノナイ處テアル假ニ本訴訟カ六年度七年度ト續クモノトシテモ生スヘキ損害ハ同一テアル理論ニ於テモ少シノ變リモナイ而シテ爭議ノ爲ニ不納ニシテキル其ノ年ノ小作料ハ法律上カラ見レハ決シテ地主ニ生シタ損害テハナク地主ヨリ小作米請求訴訟ヲ以テ請求シ得ル債權トシテ存在シテキルノテアルカラ之ヲ損害ト見ルコトハ絶對ニ出來ナイノテアル此ノ法律關係ハ恰モ家賃ヲ延滞シテ家屋明渡ノ本訴ヲ起サレタ時ト同一理屈テアル家賃ノ不納カ著シイ損害テナク普通ニ

生スル損害テアリ又現在家屋明渡ノ訴訟ニ於ケル場合ハ假ニ明渡スト借家人ヲ假ニ追出——ト言フ假處分ハ絶對ニ許サヌノテアル之ハトリモナホサス著シイ損害ハ家賃滯納タケテハ生セヌト見ルカラテアル斯クノ如ク民事訴訟法上ノ同一文句ヲ家屋明渡ノ假處分ノ時ニハ普通ノ損害トシ小作人ノ土地取上ケ訴訟ノ時ニハ著シイ損害トシテ別異ニ解釋スル理由ハ何處ニモナイ而ラハ著シイ損害トハトシテモノテアルカト言フ事ヲ説明シテ立禁ノ不法性ヲ明カニセネハナラヌ此ノ著シイ損害ハ家賃滯納タケテハ生セヌト見ルカラテアル斯クノ如ク民事訴訟法上ノ同一文句ヲ家屋明渡ノ假處分ノ時ニハ普通ノ損害トシ小作人ノ土地取上ケ訴訟ノ時ニハ著シイ損害トシテ別異ニ解釋スル理由ハ何處ニモナイ而ラハ著シイ損害トハトシテモノテアルカト言フ事ヲ説明シテ立禁ノ不法性ヲ明カニセネハナラヌ此ノ著シイ損害ハ主トシテ訴訟ノ目的物自體カラ生スルカ又ハ目的物カラ直接關聯シテ生シテ來ル損害テナケレハナラヌ例ヘハ山ノ谷ニ澤山ノ材木カ伐採サレテアルソノ材木ニ付イテ甲ト乙トカ各其ノ所有權ヲ主張シテ爭ヒ遂ニ甲ハ乙ヲ相手取ツテ材木引渡シノ訴訟ヲ起シタト假定スル——コノ場合訴訟ノ目的物ハ勿論材木テアリ土地取上ケ訴訟ノ場合ハ土地ソノモノニアル——甲ハ材木ニ就イテノ假ノ地位ヲ定メル即チ假ニ甲ニ引渡スト言フ假處分ヲ申請スルコトカ出來ルシ又ソノ假處分ハ許サレル甲ハ未ダ本訴ノ判決ノ下ラヌ前ニソノ材木ノ引渡ヲ受ケテ之ヲ賣却又ハ使用スルコトカ出來ルノテアル此ノ場合ノ假處分ハ絶對ニ正當テアル何故ナラハ訴訟ハ長ヒク其ノ間風雨ニ晒サレテ二年モ三年モ經テハ

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

材木ハ腐ツテ了フコトハ著シイ損害テアルコトハ議論ノ餘地カナイカラテアル又甲カ假ニ材木商デアツテ其ノ時材木ノ相場カ下リカケテ本訴訟ノ判決カアル迄其ノ儘ニシテオケハ半値モシナイ様ニナルコトカ豫想サレルコウイウ時ニ於テモ又著ルシイ損害カアルノテアル前者ハ目的物自體ニ生スル著シイ損害テアリ後者ハ目的物ヨリ直接關連シテ生スル著シイ損害テアル斯クノ如キ場合ニ本訴ノ判決ヲ待ツテ居ルコトハ經濟上ノ不利益テ訴訟ノ勝敗ハ別トシテ先ツ以テ著ルシイ損害ヲ避クルタメニ假ニ甲ノ所有物トシテ處置スルトイフ假處分ヲ許ス所以テアル土地取上ケ訴訟ノ場合土地ハ腐リハシナイ許リカ小作人カ作ツテキテモ地主ハ土地ヲ賣却スルコトカ自由ニ出來ルコトハ明ナ話テアル以上法律ノ要求シテキル「著ルシイ損害」ハ本質上生スル餘地カ全然ナイコトハ明テアル法文ニハ「其ノ他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキ」モ亦立禁カ許サレル様ニ書イテアルカ之モ小作人ノ土地ヲ假ニ取上ケネハ本訴ノ判決ノ執行ニ甚タ困難ヲ來ストカ又ハ執行カ出來ナクナルトイフ様ナコトカアル筈カナイ即チ法律ノ要求スルトコロノ必要カアルノテナイ即チ訴訟ノ目的物タル小作地ヲ判決アルマテ小作人カ作ツテキルコトカ判決ノ執行ニ何等ノ妨ケニナラヌコトハ議論ノ餘地カナイ程明白ナ事實テアル小作人カラ判決ノ執行ヲ受ケテ明渡スヘキ土地ニハ時節ニ依ツテ稻ノアル場合トナイ場合トアル稻ノナイ場合ハ判決ノ執行ニツイテ何等ノ問題ヲ生セス稻ノアル場合ニ於テモ秋ノ刈入間近ノ場合ハ問題テナイ稻ヲ刈ツテ引渡スカ執行ヲ受ケテモ稻タケハ小作人ノモノテアルカ故ニ小作人ニ於テ刈取レハ

ヨイノテアツテ判決ノ執行ニ困難等アルヘキ筈カナイ只問題トナルノハ田植ヲ終了シテ秋ノ刈入レニナラヌ迄ノ間ニ判決ヲ執行セネハナラヌ場合ニ關シテテアルカソレトモ土地ノ明渡問題トツレ以前ニ小作人ノ耕シタ又植ツケタ手間代ヤ稻青毛ノ價格ノ問題等ハ全然別箇ニ計算スヘキテアリ賠償サルヘキテアルコトハ議論カナイシ又ソノ價格ノ算定等ハ別ニ六ヶ敷イモノテナイ以上コンナ關係カアルカラト言ツテ何等土地ノ執行ニハ困難ヲ生シナイノテアル從ツテ之カ爲ニ假ニ取上ケテオク假處分ノ必要ハ絶對ニナイコトハ深ク論スルマテモナイ以上ノ如ク民訴ノ上ニ於テモ立禁假處分ハ全然違法テアリ曲解テアルト云ヒ「第五點刑法ノ解釋上罪トナラヌ假處分判決ノ執行トシテ全國同一形式ヲ以テ公示(新潟縣大蒲原村ノ例)大蒲原村大字中ノ橋地内字市川甲二百六十番田一畝八步前記ノ土地ハ新潟區裁判所假處分判決ニ依リ被申請人志田雲次郎氏ノ占有ヲ解キ當職之ヲ保管ス此ノ執行ヲ妨害シ又ハ公示札ヲ破毀スル時ハ刑法ノ制裁ヲ受クヘシ昭和五年四月二十日新潟區裁判所執達吏磯野午次ノ如キ立札カ立禁地ニ立テラレタノテアルニ拘ラス之ニ當リ小作人カ立入耕作シテ何故刑法上差支エナイノカ(一)刑法上之ヲ罰スル規定カナイ刑法ニ明文ナキモノハ如何ナル行爲ト雖之ヲ罰スルコトハ出來ナイ現行刑法ニハ裁判所ノ判決ニ從ハヌモノハ之ヲ罰スト言フ規定カナイコトハ何人モ明テアル判決ソノモノヲ履行セヌ又ハ違反シタカラト言ツテ直ニ刑事上ノ制裁カアツタラ大變ノコトテ借金ヲシテ辨濟スヘキ判決ヲ受ケテ辨濟セヌテ居レハ直ク罰セラレルト云フ様ナコトハアリ得ナイノテアルソ

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

レ故ニ裁判違反ハ常ニ刑事責任ハナイ之ヲ罰スルニハ刑法ノ明文ヲ必要トスル刑法第九十六條公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタルモノハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處スト言フ規定カ公務執行妨害罪ノ規定中ニ存スルノテアル人或ハソノ規定ヲ以テ疑ヒモナク立禁侵害ノ場合ノ制裁ニ該當スルモノト解シテキル様テアルシ又執達吏ナトカ其ノ積リテ公示札ヲ書イテ立テル様テアルタカ然シ此ノ規定テ立禁侵害ヲ罰スルコトハ斷シテ出來ナイ先ツ立札ノ文句ヲ見ル時ニ「コノ執行ヲ妨害シ」又ハ「公示札ヲ破毀スルトキ」ハトアリテ小作人ノ立入耕作スルコトハソノ二ツノ場合ニ完全ニ當テハマラス立入耕作カ公務ノ妨害ヲスルモノテナイコトハ執達吏カ立札ヲ立テテ歸ツタ瞬間ニ於テ公務ノ執行ハ完全ニ終了シテキル執行カ終ツテカラソレヲ妨害スルト云フコトハアリ得ナイ執行ヲ妨害スルトイフコトハ執行ノ著手若クハ執行ノ終了ヲ妨ケルコトニ外ナラスカラテアルソレ故ニ執行妨害罪ニナラスコトハ法律解釋上誠ニ明テアル殊ニ執行ノ本質カラ言ツテモ前記ノ公示札ニヨツテ見テモ立札ヲ立テルコトカ假處分ノ執行テハナクテ判決ノ命スル趣旨ニ從テ小作人ノ占有ヲ解イテ執達吏自身ニ其ノ占有ヲ移スコトカ執行ノ全部テアルソシテ占有ヲ移シタコトハ立札ヲ立テルコトニヨツテ表示サレルノテアルカラ立札ヲ立テタ以上執行カ終了シタコトハ明瞭ト言ハネハナラス(二)公示札ヲ破毀シタカ刑法ノ要求スル標示ヲ損壞シタカ言フマテモナク公示札ハ執達吏ノ立テタ通り尊重シテ其ノ儘動かサスニ耕スコトハ出來ルシ

又本件ニ於テモ其ノ儘耕シテキルカラ此ノ點モ殆ント問題ニハナラナイ公示札ハ完全ニ存在シテキル以上「公示札破毀ノ行爲」トシテ罰スルコトハ刑法上不可能テアル執達吏カ公示札ヲ破毀スルコトヲ警告スル趣旨ハ其ノ土地カ執行地タルコトヲ一般ニ知ラシメンカタメテアル具體的ニ言ハハ從來ノ小作人ノ占有ヲハナク當職カ保管占有シテ居ル土地テアル從テ其ノ執行地ヲ更ニ改メテ耕作シヤウトスルモノハ當職ト相談セヨト言フ丈ヲ公示スルコトカ公示札ノ役割ソレヲ破毀サレテハ困ルカラ其ノ立札ヲ破ツタリ其レヲ拔キ棄テタリスル時ハ刑法上ノ制裁ヲ受クヘシト書イタノテアル此ノ公示札ヲ立テル事ニヨリ夫自體立入ヲ禁止スルトカ執行妨害ヲ罰スルトカイフ刑法上ノ效力ヲ發生セシメルモノテナイコトハ公示札ノ全體ト執行ノ本質ヲ見ル時ハ明テアル(三)然ラハ前記ノ刑法ニ示サレテキル「封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者」ニ該當スル疑アリヤ執達吏ノ公示札カ封印テナイコトハ明テアルカ標示ニナルカトウカ刑法ハソノ前段ニ於テ公務員ノ施シタル封印ト「差押ノ標示」トヲ並ヘテ掲ケテ居ル公務員ノ施シタル封印トハ執達吏若クハ稅務官吏等カ容器中ノ物品ヲ差押フル時之レヲ封閉スルタメニ施スモノニシテ差押ヘタル場合ニ之レヲ表示スルタメニ施スモノテアルコトハ別ニ議論ハナイタカ然シ乍ラ假處分ノ執行カ前述ノ所謂「差押」ナリヤ否ハ疑問テ法律的ニハ假處分ノ執行ヲ差押ナリト解スルコトハ絶對的ニ違法テナケレハナラナイトスル何トナレハ刑法ノ解釋ハ最モ嚴格テナケレハナラヌ「罪ノ疑ハシキハ輕キニ斷セヨ」トハ刑法解釋ノ根本原則テ苟モ刑事問題ヲ口ニス

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十
六條ニ所屬差押ト假處分ノ假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

ル總テノ人ノ異論ノナイ處テアルコノ根本精神ハ刑法ノ法文ノ解釋特ニ文理解釋ニ於テモ嚴守スヘキテアルコトハ言フマテモナイ假處分ノ執行ハ差押トハ觀念上全然異ツテキル家屋ノ明渡シノ強制執行ヲ稱シテ何人ト雖差押ヲ受ケタトハ考ヘナイ土地ノ明渡シヲ受ケタ場合モ同様「土地ノ差押ヲ受ケタ」トハ思ハス「執行ヲ受ケタ」ト主張シテキルノカ現在ノ法律常識テアルシ又法律的區別テアルコレヲ一緒ニ考ヘルコトハ無理ニ不利益ニ類推シテ有罪トスル解釋論テ絕對ニ間違ヒテアル前述ノ如ク假處分ノ執行ノ公示札ハ刑法第九十六條ノ「差押ノ標示」テハナイカラ此ノ公示札ニ對シテ如何ナル行爲カアツテモ此ノ點タケテモ決シテ刑法ニ違反スルコトハナイ(四)加之刑法ノ禁止シテキル行爲ハ標示ソノモノノ損壞テアリ標示ソノモノヲ物的ニ無効トスルコトニアルノテアル「損壞」トハ物理的ニ標示(公示札)ヲ破壞スルコトテ平タク言ヘハ標示ヲ破ツタリ燒イタリスルコトテアル其ノ他ノ方法テ標示ヲ無効ニスルコトモ亦ソノモノノ物的無効(例ヘハ文字ヲ抹消シタリ又ハ抜キ捨テタリスルコト等)ヲ意味スルコトハ標示ノ損壞ト同列ニ書キ竝ヘテキル條文ノ體裁ヨリシテモ明テアルカ故ニソノ標示(公示札)ヲソノママニシテ立入り耕作スルコトカ刑法ニフレルコトテナイコトモ當然ノ結論テアル若シ標示ノ命スル趣旨ヲ無効ニシタモノ迄モ包含セシメテ罰セントスルナラハ「差押ヲ無効ナラシメタルモノ」トカ又「強制執行ヲ無効ナラシメタル者」ト書ク可キテアルコトハ法律常識上マコトニ明テアル之ヲソウ書カスニ「標示ヲ無効ナラシメタル者」ト書キタルハタシカニ法律ノ要求スル

趣旨ハ標示ソノモノヲ物的ニ效用ヲ失ハシムル所爲ヲ罰スル意味ニ外ナラナイモノテアル元來「標示」トハ一ツノ名詞テアル「封印」カーツノ名詞テアルト同様テ「標示」ソレ自體ノ特定物ヲ指稱シタル文句ナルコトハ明テアルソレ故ニ又「標示」ハ「差押」若クハ「執行」ノ如キ動的行爲ノ別名テモナケレハソノ代用名詞テモナイ差押トソレニ施サレタル標示トハ全然別箇ノ觀念テアリ別名テアル其ノ理由ハ實際ニ就イテ觀察スレハ明テアル即チ差押カ實質的ニ無効ノ時テモ其ノ標示ハ有效ノコトモアリ其ノ反對ニ標示カ無効ニナツテモ差押ノ效力ハ依然トシテ有效ノコトハ普通ニ考ヘラレル所テアル假ニ數歩ヲ讓ツテモ立入行爲ハ效力ニ影響ヲ及スコトカアツテモ「標示」ニハ何等ノ影響ヲ與ヘヌノテアル約言スレハ刑法ノ要求スル標示ノ無効ヲ來タサヌノテアル標示ノ無効ハ引イテ差押ノ無効ヲ來タスヘキ危險ヲ伴フモ反對ニ差押ノ無効ハ常ニ標示ノ無効ヲ來タストハ限ラヌ要スルニ標示ノ無効ト差押ノ無効トハ全然別箇ノ概念テアリ別箇ノ事實テアル如何ニ強辯スルモ此ノ全ク異レル二箇ノ事實ヲ一箇ノ名詞ニ結合セシメルコトハ斷シテ不可能テアリ又刑法上不法テアル果シテ然ラハコノ標示ノ無効ヲ伴ハサル單ナル立入耕作カ刑法ニ反セサルモノト斷定スルコトハ誠ニ正當ノ解釋ト云フヘキテアツテコレヲ罰スルトスレハソレハ法律ヲ曲ケ刑法解釋ノ原則ヲ無視シテ無理ニ農民ヲ罰セントスル意識的ノ有罪論ニ外ナラヌモノト斷スヘキテアル(五)而カモ本件行爲後ニ於テ假處分ノ目的タル強制執行ハ完全ニ遂行サレタル事實ニ徵スルモ標示ノ無効ヲ來タサヌコトハ勿論「執行」假處分

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

ノ無効サエモ來タシテ居ナイノテアル如斯行爲ヲ處罰セントシタル原判決ハ到底破毀ヲ免カレサルモノト言ハネハナラヌト云フニ在リ

【要旨第三】

然レトモ刑法第九十六條ニ所謂差押トハ公務員カ職務上保管スヘキ物ヲ自己ノ占有ニ移ス強制處分ヲ指稱スルヲ以テ民事訴訟法ニ所謂假處分命令ノ執行ヲ爲スニ當リテ執達吏カ強制力ヲ以テ物ヲ占有スル場合ハ之ヲ目シテ同法條ニ所謂差押ト解スヘキモノトス而シテ裁判所ノ發シタル假處分命令ニ基キ執達吏ノ爲シタル差押ノ標示ノ效力ハ其ノ假處分命令ノ取消サレサル以上其ノ效力ヲ保有スヘク假處分命令ノ當否ヲ云爲シテ其ノ效力ヲ否定スルヲ得ス又其ノ因テ係ル民事上ノ權利カ眞ニ存在スルヤ否ハ差押ノ標示ノ效力ニ關スル所ナシ何トナレハ假處分ハ爭アル權利關係ヲ對象トスルモノニシテ初メヨリ係争權利ノ歸屬者ニ付爭アルコトヲ前提トスレハナリ從テ所謂小作料契約ノ本質竝土地返還請求訴訟ノ當否ノ如何ノ如キハ刑法第九十六條ノ罪ノ成否ニ影響スル所ナシ故ニ原判決カ證據ニヨリテ認定シタルカ如ク被告人ニ於テ其ノ差押ノ標示ノ效力ヲ無視シテ立入禁止土地内ニ立入り荒起ト稱スル耕作ヲ爲シタル以上其ノ公示札其ノモノヲ損壞セス又ハ移動セスト雖之ヲ刑法第九十六條ノ罪トシテ擬律シタル原判決ハ相當ナリ所論ハ畢竟法律上ノ見解ヲ誤リ之ヲ正當ナリトシテ原判決ヲ批難スルモノニシテ論旨理由ナシ

同第六點更ニ本件被告等ノ行爲ヲ刑法全體カラ考察スル時ハ所謂「正當防衛」ニ該當スル事實タルコト

ヲ拒否スルコトハ出來ヌ即チ地主カ立入禁止ノ假處分ヲ小作人ノ土地ヲ取上ケテ了フコトハ其ノ小作人ニトツテ不正ノ侵害ニハナラナイノカ——本訴ヲ取り上ケルノハ別テアル——此ノ點ニ付テハ前既ニ詳細ニ述ヘタ通り小作人カラ土地ヲ取上ケテ了フト云フ假處分カ民事訴訟ニ違反シテ居ルコトハ明テアルソシテ本質的ニ法律ニ違反シテ居ルモノナラハ假令ソレカ裁判所ノ判決ヲ爲サレテモ依然トシテ不法ヲアリ違法テアルコトハ何人モ爭ノナイ處テ之レ又前ニ述ヘタ通りテアル從テ又其ノ本質的ニ不法ノ判決カ執行機關ニヨツテ執行サレタカラトテ決シテ正當化スルモノテナイカラ結局其ノ執行モ亦違法テ侵奪テアルコトハ理論上ノ結論トナル筋合テアル一面地主カ現在ノ裁判所ヲ利用シテ土地取上ノ假處分ヲ申請スルコトモ社會的ニ見テ不法テアルコトハ云フマテモナイコトテ農民カラ土地ヲ奪フコトハ生命ヲ奪フコトテアリ秋ニナレハ食ハスニ居レト云フコトテアリ從テ土地ヲ取上ケラレタ全家族ヲ秋ニ至ツテ殺スコトト何等變リカナイシ社會的ニ見テモ少數ノ地主階級カ自己ノ利益ノ爲ニ感情満足ノ爲ニ大衆的ニ小作農民ノ生活ヲ脅迫シ本訴判決ヲモ待ツコトナシニ土地ヲ取上ケテ意識的ニ小作人ノ訴訟能力ヲ彈壓シテ多數農民ヲ死地ニ突キ落スカ如キハ斷シテ不正テアル如斯法律的ニハ違法ヲアリ社會的ニハ不正義テアル立禁假處分當該小作人ニトツテハ正ニ不正ノ侵害テアルコトハ明テアル而シテ小作人ハ假令如何ナル理由ヲ本訴ノ被告人ニナツテキヨウトモ本訴判決ノアル迄ハ其ノ土地ヲ占有シテ居ル權利ノアルコトハ言フ迄モナイタカラコソ本訴訟ヲ辯護士ヲ以テ爭フテ居ルノテア

差押標示ノ效力ノ減下ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

ル此ノ假令何年カカツテモ争ツテキルコトカ地主ニトツテ如何ニモ癩ニサワルト言フコトソシテ又本訴ノ極マル迄争ハヌコトハ地主ノ不利益テアツテ一時モ早ク取上ヲ斷行シテ小作人ノ訴訟能力ヲ剝奪スルトイフコトカ立禁ノ全理由テアルトスレハ農民カラ見ル時ハ耕作權ニ對スル不正ノ侵害タルコト寸毫ノ疑ヲ容レ得サル處テアル而シテ此ノ立禁カ如何ナル時ニ於テナサレルカハ餘リニモ農民ニトツテハ明白テ論スル迄モナイコトテアルカ刑法ニ急迫不正ノ侵害トアルカラニハ不正ノ侵害カ急迫テアルコトモ述ヘネハナラヌ刑法カ正當防衛ニ於テ要求スル「急迫」トハ強盜カ刀テ切りカケテ來タ場合ノ如キヲトツテ居ルノテアルカ單ニソレハカリテハナク廣ク侵害カ切迫シテ來テ居ル換言スレハ侵害ヲ防カネハ自分ノ權利ノ取返シカツカヌト言フ状態ニアレハソレテヨイノテアル立禁ノ場合ニ於テハ立禁地ヲ耕スコトナクシテハ最早種ヲ蒔クコトハ出來ヌ田植スルコトモ出來ヌト云フ時ニ立禁カナサレタナラハソレハ正ニ急迫テアルト言フコトカ出來ルノテアル種蒔キニシロ田植ニシロ稻刈リニシロ總テ同一筆法テソレヲ妨ケル時ニ其ノ土地ニ立入禁止スル一切ノ行爲ハ其ノ時期ニ付テ見ル時ハ皆急迫テアルトイフ事カ出來ルノテアル此ノ點カラ論シテ立禁ハ農民ニ對シテハ刑法ニ規定スル正當防衛ノ要求スル急迫不正ノ侵害テアルコトカ明白トナツテ來ル而シテ立禁地カ本訴ノ判決アル迄小作人ニ耕作權——占有權——ノアルコトハ何人モ疑ノナイ處テ此ノ權利ヲ守ルタメニ即チ小作人自身ノ權利ヲ防衛スルタメニ又突キ進ンテハ小作人自身ノ生命權——生存權ヲ防衛スルタメニ——此ノ權利カ生命

權身體權名譽權財産權ヲ含ムコトハ學者ノ間ニ違論ノナイトコロテ生命權ハ第一最先ニ防衛サレネハナラヌコトモ亦當然テアル——急迫不正ノ侵害テアル立禁處分ヲハネ除ケネハナラヌノテアルト同時ニ又其ノハネ除ケル行爲カ權利ヲ防衛スルノテアツテ自分ノ生命權ヲ防衛スルタメニハ何トシテモ立禁地ヲ耕作セネハナラヌ假ヘハ強盜カ急迫不正ノ侵略ヲナシ吾々ニ切ツテカカツタ場合ニ自分達ノ生命及身體ヲ此ノ侵害カラ免レヤウトシ防衛シヤウトスレハ其ノ侵害者テアル強盜ヲ切り殺スヨリ外ニ道ハナイノテアル此ノ正當防衛論カラスレハ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スルタメトアルカラハ苟クモ立禁處分カ不法テアル限り隣リノ家ノ立禁地ヲ隣リノ主人ノタメニ防衛スルコトモ差支ナイコトニナツテキル從テ立禁地ノ共同耕作モ正當防衛トシテ差支ナイ然ルニ原判決カ此ノ點ニ付キ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤アルモノトシテ破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在リ然レトモ刑法第九十六條ノ規定ノ趣旨ハ論旨第一點乃至第五點ニ付説明シタル所ニ依リ了解スルヲ得ヘク從テ民事上假ニ被告人ニ判示土地ヲ耕作シ得ヘキ權利アリトスルモ原判決認定ノ如ク執達吏ニ於テ公示札ヲ立テテ裁判所ノ假處分命令ニ依リ判示土地ヲ占有スル以上右假處分命令又ハ假處分ノ執行行爲ノ取消サレサル限り被告人ハ右土地内ニ於テ耕作ノ權利ヲ有セサルモノニシテ右土地所有者ノ爲シタル假處分ヲ目シテ所論不正ノ侵害行爲ナリト爲ヌヲ得サルカ故ニ被告人ノ所爲ヲ以テ正當防衛ナリト解スヘカラス論旨理由ナシ

差押標示ノ效力ノ減減ト刑法第九十六條 土地荒起ト差押標示ノ無効 刑法第九十六條ニ所謂差押ト假處分 假處分ノ基本タル民事上ノ權利ノ有無ト差押標示ノ效力

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○按摩術營業取締規則違反被告事件(昭和六年(れ)第一五九二號
同七年二月九日第四刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 藤本來吉

【第一審】 竹原區裁判所 【第二審】 廣島地方裁判所

○判示事項

柔道整復術ト按摩術營業取締規則

○判決要旨

柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲捻挫骨折等ノ患者ニ對シ疾患治療ノ方法トシテ患部其ノ他ヲ揉ミ撫テ又ハ引伸ハス等ノ施術ヲ爲スコトハ按摩術營業取締規則附則第六項ニ所謂柔道整復術ニ該當シ免許鑑札ヲ受ケスシテ之ヲ營業トスルトキハ同規則第十條ヲ準用

柔道整復術ト按摩術營業取締規則

處断スヘキモノトス

【参照】按摩術營業取締規則第十條 免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第五條ノ二、第五條ノ三ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

同規則附則第六項 本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ按摩術營業取締規則第十條同規則附則第六項刑法第十八條ヲ適用シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル日數被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ言渡シタリ

被告人ハ柔道ノ教授ヲ爲シ自轉車修繕業並被告人製造ニ係ル全治膏ト稱スル賣藥ノ販賣ニ依リ生計ヲ維持シ右賣藥ノ販賣力其ノ收入ノ主要部分ヲ占ムルモノナル所右賣藥ヲ多數販賣スルコトニヨリ利益ヲ得ル手段トシテ免許鑑札ヲ受ケスシテ昭和四年一月頃ヨリ昭和六年五月頃迄ノ間肩書被告人居宅等ニ於テ宮本ミツヨ等十五名ノ打撲捻挫又ハ骨折等ノ患者ニ對シ一人ニ付一回乃至數回以上宛患部其ノ他ヲ揉ミ撫テ或ハ引伸ス等柔道整復術ニ屬スル施術ヲ爲シ施術一回ヲ終了スル毎ニ前記全治膏ヲ患者ニ貼用賣却シ以テ柔道整復術ヲ營業シタルモノナリ

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人上告趣意書一自分ハ明治三十年ニ神戸ニ行キ天神身行流柔道指南松永壽太郎清國先生ニ就キ柔道ヲ習得シ目錄ヲ明治三十二年六月二日ニ受ケ申候又神戸ノ揚心禁心流柔道指南三木政藏秀孝先生ニ就テ指南ヲ受ケ明治三十五年二月二十日ニ三段ノ免許狀ヲ受ケ其ノ時政孝ト言フ名乗ヲ付ケテ貫ヒ爾來自宅ニ於テ柔道ヲ指南致シ居候一柔道ノ極意ノ中ニ誘ヒト言フ術有之候處此ノ誘ヒト言フ術ハ柔道ヲ稽古ヲスル時ニ過ツテ氣絶ヲシタ時ニ活キ還サス術ニシテ病人中他ノ治療テ治ラスニ苦シンテ居ル人カ治シテ呉レト申込マレタ場合自分ハ此ノ術ヲ用ヒテ自分ノ製劑ニ係ル全治膏ヲ身體ニ張リテ全快セシムル方法ニテ膏藥ハ一枚五錢テ販賣セルモ治療代トシテハ別ニ之ヲ受ケス人助ケノ爲ニ施術シツツアリシニ竹原區裁判所ニ於テ按摩術營業取締規則違反トシテ三十圓ノ罰金ニ處セラレ申候元來誘ヒノ術ナルモノハ按摩術トハ全然趣ヲ異ニセルモノニシテ而モ營利ヲ目的トシタル行爲ニアラス候一斯ノ如クニシテ幾多ノ病人ヲ全快セシメタル例ハ枚擧ニ遑無之此ノ誘ヒノ術ハ氣絶シタル場合活キ還サス術ナルモ病人ヲ治療セシムルコトハ自分カ苦心ノ結果案出シタルモノニシテ自分獨得ノ術ナルノミナラス膏藥ハ其ノ筋ノ免許ヲ受ケタルモノヲ一枚五錢ノ代價ニテ販賣シ治療代トシテハ別段之ヲ受ケ

ス社會奉仕的ニ施術シツツアリテ按摩術ニアラサルニモ拘ラス原審カ罰金ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ニ依ル不當判決タルヲ免カレスト思考致シ候ト云フニ在レトモ

原判決ハ被告人ハ柔道ノ教授ヲ爲ス傍全治膏ト稱スル賣藥ヲ販賣シ主トシテ右賣藥販賣ノ利益ニ依リ其ノ生計ヲ維持スル者ナル處右賣藥ヲ更ニ多數販賣シテ收益ヲ増大セント欲シ其ノ手段トシテ當該官廳ノ免許鑑札ヲ受ケスシテ宮本ミツヨ等十餘名ノ打撲捻挫骨折等ノ患者ニ對シ各一回乃至數回宛患部其ノ他ヲ揉ミ撫テ或ハ引伸ス等柔道整復術ニ屬スル施術ヲ爲シ施術ヲ終ル毎ニ前記全治膏ヲ患者ニ貼用賣却シタル事實ヲ認定シタルモノニシテ右ノ如ク柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲捻挫骨折等ノ患者ニ對シ疾患治療ノ方法トシテ患部其ノ他ヲ揉ミ撫テ又ハ引伸ス等ノ施術ヲ爲スコトハ即按摩術營業取締規則附則第六項ニ所謂柔道整復術ニ該當シ尙敍上ノ如ク賣藥販賣ニ因ル收益ヲ増大スルノ手段トシテ多數人ニ對シ屢次施術シタル以上營業トシテ該施術ヲ爲シタルモノト謂フヘシ然レハ原判決カ敍上事實ヲ認定シ右附則ノ條項ニ依リ同取締規則第十條ヲ準用處斷シタルハ相當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

檢事南部金夫關與

【要旨】

○不法監禁傷害被告事件 (昭和六年(九)第一六〇八號 棄却)
同七年二月十二日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 田淵光一

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

不法監禁罪ノ成立ト監禁時間

○判決要旨

不法監禁罪ハ繼續シテ不法ニ人ノ行動ノ自由ヲ拘束シ一定ノ場所ヨリ脱出スルコトヲ得サラシムルニ因リテ成立シ多少ノ時間此ノ状態ノ繼續スルコトヲ要スルモ其ノ長短ハ之ヲ問フヲ要セサルモノトス

不法監禁罪ノ成立ト監禁時間

【參照】 刑法第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ東京府豊多摩郡代々幡町大字幡ヶ谷千四百四十六番地靱山徳太郎カ同人方女中渡邊ミヨ（當時二十年）ト情ヲ通シ同女ヲシテ妊娠スルニ至ラシメタルコトヨリ關係者間ニ紛争ヲ生シタルコトヲ聞知シ右徳太郎ト交渉シ同女ノ爲ニ有利ナル解決ヲ付ケントシ昭和四年六月十四日草野勇三郎ト共ニ徳太郎方ニ赴キ面會ヲ求メタルモ拒絕セラレタルカ三島慶太郎等ノ取計ヒニテ同月十七日改メテ面會スルコトト爲リ右期日ニ被告人ハ右勇三郎及白井爲雄ト共ニ同町大字幡ヶ谷千五百五十二番地中野彦吉方ニ到リ右慶太郎彦吉ヲ介シ再ヒ徳太郎ニ面會ヲ求メタルカ徳太郎ハ之ヲ肯セス仍テ同日午後七時頃徳太郎ノ妻靱山さみ江（當時三十一年）カ右慶太郎等ノ要求ニヨリ彦吉方ニ赴キ同家奥八疊間ニ於テ被告人等ニ應對シタルトコロ被告人等ハ同人ニ對シ同人ハ徳太郎ノ妻ニテ夫ノ行爲ニ付責任ヲ負フヘキモノナレハ事件カ解決スル迄徳太郎ノ身代リニ同人ノ身體ヲ黑龍會本部ニ預ルヘシ等トノ旨申向ケ徳

太郎カ被告人等ニ面會ヲ肯セサルニ於テハ永クさみ江ヲ歸宅セシメサルカ如キ氣勢ヲ示シタルニヨリ同人カ之ヲ恐レ同夜七時三十分頃自宅ニ逃ケ歸ラントシテ同家ヲ走り出テタルヲ被告人ハ前記勇三郎爲雄 慶太郎 彦吉ト共同シテ再ヒ之ヲ彦吉方ニ拉シ來リ前記八疊間ニ入レテ監視シ同人ヲ同夜九時頃迄歸宅スルコト能ハサラシメテ不法ニ之ヲ監禁シ尙其ノ際同所ニ於テ被告人及爲雄 慶太郎ノ三名ハ同人カ逃ケ歸ラントシタルヲ怒リ同時ニ同人ノ右側肩胛部面部其ノ他ヲ毆打スル等暴行ヲ加ヘ因テ同人ニ對シ肩胛關節部ノ稍々腫張熱感上膊内側等ノ數箇ノ一錢銅貨大ノ皮下溢血關節運動障礙等ヲ伴フ右側肩胛關節部打撲傷其ノ他ノ傷害ヲ蒙ラシメタルモノナリ

尙被告人ハ昭和四年六月十二日東京地方裁判所ニ於テ恐喝罪ニ依リ懲役六月ニ處シ但シ裁判確定後三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決言渡ヲ受ケ同月十九日右裁判確定シタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中不法監禁ノ點ハ刑法第二百二十條第六十條ニ傷害ノ點ハ同法第二百四條第二百七條ニ各該當スルトコロ以上二罪ハ前示前科ノ罪トハ同法第四十五條後段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第五十條ニ從ヒ右二罪ニ付更ニ裁判スヘク傷害罪ニ付懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ右傷害罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スヘク尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

不法監禁罪ノ成立ト監禁時間

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人上告趣意書第二點本件ヲ不法監禁罪トセルハ法律ノ適用ヲ誤レリ而カモ其ノ證據ヲ斷スルニ付事實ノ誤認アルコトモ疑フニ足ル(一)即チ不法監禁罪ニハ主觀的ニ上告人最初ヨリ其ノ監禁ノ主タル意思アリシヤマタ不法監禁ニハ時間ノ繼續ヲ要スルカ果シテ半日一日トキミ江ヲ監禁シタルヤ亦之ニ關連シテキミ江ノ身體及精神上ノ自由拘束幾何ノ時間繼續シタルヤキミ江ノ中野ノ宅ニ訪レ來リシハ各被告人ノ供述ヲ綜合シテ大體昭和四年六月十七日ノ午後七時半乃至八時前後ト推測シ得ヘク而カモ自然的ニ三島等ノ取計ニヨリテ中野宅ニ來リシモノニシテ先ツ以テ上告人ニ去ル十四日ノ不始末ヲ謝シソレヨリ互ニ語ラヒ合ヒ渡邊ミヨ子ノ問題ヨリキミ江自身ノ戶籍上入籍セルヤ否ヤ又キミ江ハ夫德太郎ノ惡口等語リタレハヤカテミヨ子ノ如ク放逐サルルニ非スヤ等最モ惡意ニ對談ヲシミヨ子ノ問題ハ妾カ責任ヲ以テ解決シマス等ト談ヲ續ケシモノニシテ自由ヲ拘束シタルコト寸毫モナシ(二)斯ク三四十分前後互ニ對談中突然キミ江ハ飛出シタルニ依リ上告人ハ對談中突然飛出セシニヨリ突差ノ場合其ノ瞬時何ノ考モナク勿論意思ナク共ニ飛出シ話途中何故ニ飛出シタルヤ寧ロ上告人ハ不可思議ニシテミヨ子ノ問題ヲ解決スルト云ヒシ爲未タ解決ノ話カ終了セサルニヨリ之ヲ抑止シ何故ニ突然飛出シタルヤヲ問フハ理ノ當然ニシテ凡ソ二人以上對談中ニ其ノ相手方一人突然中座退席セントスルヤ

マアマアト抑止スルハ一般日本人ノ通常ナリ而シテ抑止シテ後然ラハキミ江ノ身體及精神上ノ自由拘束ヲナシタルヤ決シテ然ラスキミ江自身ノ自由意思ニヨリ去ル十四日ノ夫德太郎ノ謝罪及主人德太郎ニ來テ話ヲ解決シタラトノ書狀等ヲ書ク爲ニ二三十分間自然的ニ語ラヒ居ル處ニ警察官來場シタルモノナリ(三)即チ警察官數名來リタルハ三島カキミ江ノ手紙ヲ德太郎ニ届ケタルニヨリテ初マル其ノ手紙ノ文面タルヤ第一審公判調書記録ニ添附サレオリ同審ニ於テ昭和五年一月二十七日ノ證人榎山キミ江ノ證言中第三十四問答中裁判長ノ問「此ノ手紙ノ筆跡ニヨルト當時證人ハ餘リ脅カサレ居タ様テハナイ様ニ思ハレルカ什ウカ」トノ答ニ曰ク「然シ私ハ戰々兢々トシテオリマシタ」及其ノ次項ノ問「其ノ手紙ハ什ウシタカ」ニ對シ答ヘテ曰ク「中野ト三島ニ主人ノ處ニ届ケテ貰ヒマシタ」其ノ次項ノ問「其ノ内ニ警察カラ證人ヲ迎ヒニ來タ様タネ」答「左様テス」云々以上ノ如ク同審裁判長カ既ニ書面ニヨリキミ江ノ脅カサレテオラサルコトヲ即チ自由ヲ失ハサリシコトヲ認定セリ而シテ此ノ事實タルヤ當時ノ狀況ヲ證スルニ充分ニシテ後日決シテ之ヲ改メ又ハ偽リ得サル證據ナリ之ト法廷ニ於ケル上告人ヲ仇敵視スルキミ江ノ供述ト何レヲ正シクナスカニ審裁判官ハ證據判斷ヲ經驗則ニヨラスシテ爲セルモノト謂ハサルヘカラス然ラハキミ江ハ其ノ際何等自由ヲ拘束セラレス而カモ最自然的ニ對談シテ手紙ノ文面ニモ「唯今ノ話云々」ト書キアリテ全く最初中野ノ宅へ來ル前ヨリ夫德太郎ト謀議ノ上キミ江ヲ中野ノ宅ニ寄越シ兼テ打合セ置キタル段取りニ手紙ヲ取寄セ之ヲ以テ所轄署ニ電話ヲ

以テ大層ラシク救助ヲ求メル等ト電話ヲ掛ケタル芝居ニシテ全ク上告人ハ彼等ノ惡策ニ釣リ込マレタルモノト固ク信スルモノナリ前述證言ヲ引用スルモ決シテ不法監禁トシテ論スル時間ノ繼續及身體及精神上ノ自由拘束ヲナシタルモノニ非ス本件事故ヲ取調ヘタル司法警察官ノ意見書記録冒頭昭和四年六月二十日調書記載ニ依リ德太郎カ十七日午後八時頃電話ヲ以テ妻さみ江カ連レ出サレ云々ヨリ警察ノ活動トナリタルコト明瞭ナリ而シテ電話アリタルハ午後八時トセンカ代々幡警察ヨリハ時間ニシテ十分間ヲ要セサル地域ナルヲ以テスルモ何分間ノ問題ナリヤト論及スルモノナリ(四)以上ヲ各論スル時本件事故ハ一ツニさみ江ノ咄嗟的ニ飛出シタルコトナカリセハ斯ル事故モ起生スル原由ナク全ク對談中突然飛出シタル其ノ反射作用トシテ瞬間的ニ何ノ考慮スルノ暇ナク共ニオビキサソヒ出サレタルモノニシテ上告人ニ毛頭不法ニ監禁スル意思ナカリシコト明瞭ナリ斯ル奸策ナカリセハ談笑ノ内ニ渡邊ミヨノ問題ヲ解決スルノ上告人誠意アリ本事案ハ斯クノ如キ事情明瞭ナルニ第二審裁判所カ不法監禁トシテ以テ處斷シタルハ失當ノ甚敷モノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

不法監禁罪ハ其ノ方法ノ有形的ナルト無形的ナルトヲ問ハス苟モ一定ノ場所ヨリ脱出スルコトヲ得サラシメ以テ繼續シテ人ノ行動ノ自由ヲ不法ニ拘束スルコトニ因リテ成立シ其ノ行動ノ自由ノ拘束ハ多少ノ時間繼續スルコトヲ必要トスレトモ其ノ時間ノ長短ノ如キハ問フ所ニ非ス本件ニ於テ原判決ノ認定セル事實ハ紐山德太郎ノ妻さみ江カ三島慶太郎等ノ要求ニヨリ昭和四年六月十七日(十四日トアル

ハ十七日ノ誤記ト認ム)午後七時頃中野彦吉方ニ赴キ右德太郎カ同人方女中渡邊ミヨト情ヲ通シ同人ヲシテ妊娠セシメタルコトニ付テノ紛争ニ關シ彦吉方奥八疊間ニ於テ被告人等ニ應對中被告人等ハさみ江ニ對シ同人ハ德太郎ノ妻ニテ夫ノ行爲ニ付責任ヲ負フヘキモノナレハ事件カ解決スル迄德太郎ノ身代リニ同人ノ身體ヲ黒龍會本部ニ預ルヘシ等トノ旨申向ケ德太郎カ被告人等ニ而會ヲ肯セサルニ於テハ永クさみ江ヲ歸宅セシメサルカ如キ氣勢ヲ示シタルニヨリ同人カ之ヲ恐レ同夜七時三十分頃自宅ニ逃ケ歸ラントシテ同家ヲ走り出テタルヲ被告人ハ前記慶太郎、彦吉外二名ト共同シテ再ヒ之ヲ彦吉方ニ拉シ來リ前記八疊間ニ入レテ監視シ同人ヲ同夜九時頃迄歸宅スルコト能ハサラシメタリト云フニ在リテ被告人等カ同夜七時三十分頃ヨリ九時頃迄ノ間暴行又ハ脅迫ノ手段ニ因リ前記彦吉方八疊間ニさみ江ノ身體ヲ抑留シ以テ同人ノ自由ヲ拘束シタルコト明ナルヲ以テ被告人ノ右行爲カ不法監禁罪ヲ構成スルコト勿論ナリトス然リ而シテ右原判示認定ノ事實ハ原判決ニ舉示スル證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク記錄ニ徵スルモ右認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス然レハ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ、其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事溝淵孝雄關與

不法監禁罪ノ成立ト監禁時間

○私文書偽造行使詐欺未遂被告事件(昭和六年(九)第一五五三號 同七年二月十八日第一刑部判決 棄却)

【被告人】 被告人 青木廣司 辯護人 磯部常治

【第一審】 前橋區裁判所 【第二審】 前橋地方裁判所

○判示事項

證據書類ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第三百四十條ニ所謂證據書類トハ當該訴訟ニ關シ作成セラレ證據ノ用ニ供セラルル書面ヲ指稱ス

【參照】 刑事訴訟法第三百四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風説又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限り其ノ要旨ヲ告ケヘシ

同法第三百四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告ケヘシ

○事實

原審裁判所ニ於テハ會社設立登記ノ申請書ニ添付スヘク監查役名義ニ於テ作成セラレタル拂込證明書ヲ證據物トシテ適法ノ證據調ヲ爲シタルモ之ヲ證據書類トシテ證據調ノ手續ヲ爲サス其ノ判決ニハ該證明書記載ノ文詞ヲ證據トシテ摘示シタリ而シテ被告人カ文字ヲ解スル者ナルコトハ記録上明白ナル事實ニ屬ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人青木廣司辯護人磯部常治上告趣意書第二點原判決ハ其ノ證據說明ノ部ニ「昭和三年十一月五日附監查役羽鳥九内外一名名義ノ拂込證明書中金二萬圓也但シ判示會社株式千株一株ノ金額金二十圓也

證據書類ノ意義

青木廣司ハ物件出資ヲ以テ株式二百五十株ニ充當スル金額金五千圓也七百五十株現金出資金一萬五千圓右金額正ニ拂込アルニ相違ナキ旨ノ記載ト説明シ之ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ右證明書ハ之ヲ法廷ニ顯出シ被告人廣司ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事跡ノ徵スヘキモノ存スル所ナシ結局原判決ハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノト信スト云フニ在レトモ刑事訴訟法第三百四十條ニ所謂證據書類トハ當該訴訟ニ關シ作成セラレ證據ノ用ニ供セラルル書面ヲ指稱スルモノナルヲ以テ會社設立登記ノ申請書ニ添付スル爲當該訴訟外ニ於テ作成セラレタル證明書ハ同條ニ所謂證據書類ニ非スシテ同法第三百四十一條ニ所謂證據物ニ該當スルモノトス從テ其ノ意義證據ト爲ル場合ト雖被告人文字ヲ解セサル者ニ非サル限り之ヲ被告人ニ展示シテ證據調ヲ爲スニ妨ナキモノトス而シテ原審公判調書ノ記載ニ依レハ證據物ハ總テ之ヲ被告人ニ展示シテ證據調ヲ爲シタル旨ノ記載アリ被告人カ文字ヲ解スルモノナルコト記録上明白ナルヲ以テ原審ニ於テ本件會社設立登記申請書ニ添付スヘク作成セラレタル所論證明書ハ證據書類ニ該當セスシテ證據物ニ該當スルモノト認メ證據物トシテ適法ノ證據調手續ヲ爲シタルコトヲ識ルニ足ルカ故ニ右證明書ノ記載内容ヲ證據ニ供シタル原判決ニハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松井和義關與

○詐欺被告事件 (昭和六年(れ)第一六一(一)號 同七年二月十九日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 山田佐太郎 辯護人 松本重敏

【第一審】 静岡地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

募集員ニ對スル重要事項ノ告知ト重要事項ノ隱秘ニ因ル保險詐欺

○判決要旨

保險契約者ノ募集ヲ爲スニ過キサル者ニ對シ重要事項ヲ告知シタル事實ハ重要事項ヲ隱秘シテ保險會社ヲ欺罔シ保險契約ヲ締結スルニ至ラシメタル事實ヲ認定スルノ妨ト爲ラス

募集員ニ對スル重要事項ノ告知ト重要事項ノ隱秘ニ因ル保險詐欺

【参照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ

處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人佐太郎ハ昭和二年九月三十日當時東京市京橋區南傳馬町三丁目第一生命保險相互會社ノ外交員
トシテ保險契約者ノ募集ニ從事シ居タル原審相被告人萩原京助ノ勸誘ニ應シ妻ふみヲ被保險者トシテ
金額一千圓ノ養老保險契約ヲ締結シタルトコロ其ノ後「ふみ」カ子宮ノ疾患ニ氣付キ同年十一月七日
ヨリ同月十一日ニ至ル間沼津市ノ開業醫佐々木常藏及秋荒四郎等ノ治療ヲ受ケタル結果該疾患カ頗ル
重症ニシテ生命ニ關スルモノナルコトヲ察知スルヤ同保險會社ニ對シ右疾患ヲ隱秘シテ更ニ「ふみ」
ヲ被保險者トスル多額ノ保險契約ヲ締結シ以テ同人死去ノ場合保險金名義ノ下ニ所定ノ金員ヲ騙取セ
ント企テ同月十一日夜當時被告人居宅前ニ居住シ居タル萩原京助方ニ於テ前示萩原京助ト共ニ「ふみ」
ヲ被保險者トセル保險契約者被告人名義右保險會社宛同日附金額六千圓三十年滿期ノ養老保險契約申
込書ヲ作成シタル上之ヲ同會社ニ郵送シ尙同會社ノ囑託醫長岡壯一郎ニ依頼シ無診査ニテ「ふみ」カ
前記一千圓ノ保險加入時ト同様保險加入ニ適スル健康證ナル旨ノ診査報狀ヲ同會社ニ送附セシメ同會

社ヲシテ「ふみ」カ被保險者タルニ適スル健康者ナルカ如ク誤信セシメ因テ該申込書記載ノ保險契約
ヲ締結セシメ爾來同契約ヲ繼續シテ翌昭和三年七月六日右「ふみ」カ前記疾患ニ因リ死亡スルヤ醫師
旭初雄ノ作成ニ係ル右既往症ノ記載ナキ死亡診斷書ヲ保險金受領ニ要スル書類ニ添ヘテ同會社ニ郵送
シ尙「ふみ」ノ死因調査ニ來レル同會社横濱支部長小林繁ニ對シ「ふみ」ハ從來健康體ニテ旭醫師ノ
診察ヲ受クル迄ハ一回モ醫療ヲ受ケタルコトナキ旨詐言ヲ構ヘ因テ同會社ヨリ同月二十一日頃該保險
金トシテ金七千圓ノ交付ヲ受ケ内金六千圓ヲ不法ニ領得シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ同條所定ノ刑期範圍内
ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人松本重敏上告趣意書第一點原審ハ山田佐太郎カふみノ生命ニ關スル重患ヲ隱秘シテ第一生命保
險相互會社ヲ詐欺シタリト言フモ萩原京助ハ第一生命保險相互會社ノ爲ニ保險申込ヲ受ケ之ヲ第一生
命相互會社ニ通達スルノ任務ヲ有スル者ナルカ故ニ第一生命保險相互會社ノ表現者ナリ山田佐太郎カ
其ノ第一生命保險相互會社ノ表現者タル萩原京助ニ對シ妻ふみノ子宮病ニ罹リ居ル者ナルコトヲ明告

募集員ニ對スル重要事項ノ告知ト重要事項ノ隱秘ニ因ル保險詐欺

シ爾カモ原審ノ採用シタル萩原京助豫審第二回訊問調書ニ依レハ「山田カ自分ニ對シ妻カ婦人病テ手術ヲシナケレハナラヌカモ知レナイカラ都合ニ依ルト東京ニ連レテ行ツテ診テ貰ツタ上療治ヲシタイト思フ」ト申告シテ當時山田佐太郎ノ未知ノ事項及豫期セサル事柄マテモ申告シタルコトナリ居リ其ノ申告ヲ受ケタル者ハ第一生命保險相互會社ノ表現者タル萩原京助ナルカ故ニ山田佐太郎ハ第一生命保險會社ニ對シテ申告シタルモノナリ微塵黙秘スルトコトナク詐欺シタルコトナシ然ルニ原審ニ於テ山田佐太郎カ第一生命保險相互會社ニ對シテ隱秘(詐欺)シタリト判決シタルハ被詐欺者(被隱秘者)ノ存在セサル爲ニ詐欺(隱秘)ノ成立セサルモノヲ成立シタルモノト判定シタルモノニシテ法ノ適用ヲ誤リタル違法裁判タリト云フニ在レトモ

原判示ニ依レハ被告人ハ萩原京助ト共ニ判示保險申込書ヲ作成シ之ヲ第一生命保險相互會社ニ郵送シ尙判示醫師ニ依頼シ判示診査報狀ヲ同會社ニ送付セシメ同會社ヲシテ被保險者ハ健康者ナルカ如ク誤信セシメ因テ保險契約ヲ締結セシメタルモノナリ而シテ萩原京助ハ原判決ニ依レハ右保險會社ノ外交員ニシテ單ニ保險契約者ノ募集ヲ爲スヲ得ルニ過キササル者ナレハ保險契約締結ニ付會社ヲ代表シ得ヘキニ非サルコト明ナリ然レハ同人ニ對シ被告人カ妻夫ノ疾患ヲ申告シタレハトテ之ヲ以テ會社ニ此ノ重要事項ヲ告知シタリト爲スヘキニ非サルカ故ニ右申告ノ事實ハ被告人カ會社ヲ欺罔シタリト爲スノ妨トナラス論旨ハ其ノ理由ナシ

同第二點原判決ニ「山田佐太郎ハ云々萩原京助ト共ニ云々」ト記述シタルハ山田佐太郎ハ萩原京助ト共謀シテ本件犯行ヲ爲シタルモノト判定シタルモノナルヘシ然レトモ共謀トハ二人以上ノ行爲主體カ其ノ意思ノ一體タルコトヲ言フモノナリ原判決ニ引用シタル山田佐太郎ノ原審公判廷ニ於ケル供述中「第一生命保險相互會社ノ勸誘員萩原京助ヲ通シ同會社ト判示各保險契約ヲ締結シ」トアルハ共謀ノ判定ニ非ス原審カ共謀ノ判定ヲ爲シタル證據ハ原判決ニ引用シタル萩原京助豫審訊問調書ニ「山田佐太郎ハ自分ニ對シ妻カ婦人病テ手術ヲシナケレハナラヌカモ知レナイカラ都合ニ依ルト東京ニ連レテ行ツテ診テ貰ツタ上療治ヲシタイト思フカ云々無診査テ契約ヲシテ貰ヒ度イ云々醫師ハ何トカナラヌカト再三繰返シ云々」トアルニ依リタルモノナルヘシ然レトモ其ノ山田佐太郎カ勸誘員ノ權限内ニ於テ爲シ得ルコトヲ求メタルモノニ過キス決シテ共謀シタルコトナシ若シ之ヲ共謀ナリトスルニハ共謀ノ説明ヲ爲ササルヘカラス然ルニ原審ハ共謀ノ説明ヲ爲サスシテ共謀ナリト判定シタルハ判決ニ理由ヲ付セサル違法ノ裁判ナリ原審カ山田佐太郎ト萩原京助トノ間ニ共謀關係ナシトスルニ在レハ萩原京助ハ第一生命保險相互會社ノ勸誘員タル表現者ナルヲ以テ山田佐太郎ハ第一生命保險相互會社ナル保險當事者ニ對シテ自己ノ知得シタル事實ヲ告知シ且契約條件ニ關シ希望ヲ陳述シタルモノニ外ナラス何レノ點ヨリ觀ルモ犯罪タルコトナシ然ルニ原審カ山田佐太郎ハ第一生命保險相互會社ヲ詐欺シタルモノナリト判定シタルハ法ノ適用ヲ誤リタル違法裁判タリト云フニ在レトモ

募集員ニ對スル重要事項ノ告知ト重要事項ノ隱秘ニ因ル保險詐欺

被告人カ判示會社ヲ欺罔シ保險契約ヲ締結シ進ンテ保險金ヲ騙取シタル行爲ニ付萩原京助カ共謀加工シタルト否トハ被告人ノ罪責ニ消長ヲ來ササルトコロナルヲ以テ萩原京助ノ共謀事實ニ關スル原判決ノ說示ニ缺クルトコロアリトスルモ之ヲ以テ判決理由ニ不備アリト論難スルハ當ラス論旨前段ハ其ノ理由ナク被告人ノ判示行爲ハ判示會社ヲ欺罔シタルモノナルコトハ第一點ニ於テ説明スルカ如クナルヲ以テ論旨後段モ亦其ノ理由ナシ

同第三點刑法上詐欺ハ積極的行爲タラサルヘカラス蓋詐欺ハ人ヲ欺罔スル行爲ナルカ故ニ內在的即消極的行爲タルヘカラス外表的即積極的行爲タラサルヘカラス換言スレハ人ヲ欺罔スル可能性ヲ有スル行爲タラサルヘカラス欺罔可能性ヲ有スル行爲ハ單ナル沈黙ナルヘカラス必ス積極的行爲タラサルヘカラサレハナリ生命保險契約ニ於ケル詐欺ハ保險契約ノ要因ニ在ルコトヲ要ス商法第四百二十七條ノ規定上生命保險契約ノ要因ハ保險契約ノ相手方又ハ第三者ノ生死ナリ本件保險契約ノ要因ハ第三者タル山田佐太郎妻ふみノ生死ナリ其ノ故ニ詐欺カ生命保險契約ニ在ル場合ニハ保險契約ノ要因タル生死ニ關スル事項ヲ詐欺スルモノナラサルヘカラス商法第四百二十七條ノ規定ニ依レハ保險契約ノ要因タル生死ニ關スル事項ハ之ヲ保險者ニ告知スルコトヲ要スルモノト爲セリ從テ生命保險契約ニ關シテ詐欺ノ成立スルニハ保險契約ノ要因タル生死ニ關スル事項ヲ虛構シテ告知スルモノナラサルヘカラス虛構告知ハ沈黙ナル消極的行爲ニ非ス必ス積極的行爲ナラサルヘカラス原審ハ隱秘ナル語ヲ用ヒタレト

モ隱秘ハ單ナル沈黙(不告知トモ言フ)ニシテ消極的行爲ナルヲ以テ保險契約ノ要因タル生死ニ關スル事項ノ虛構告知タル詐欺トナルコトナシ其ノ隱秘カ積極的行爲ニ出テ生死ニ關スル事項ヲ虛構シテ告知シタルモノナルニ於テハ詐欺ヲ構成スルコトアルヘシト雖本件原審ノ所謂隱秘ハ單ナル不告知ニシテ生死ニ關スル事項ノ虛構告知ニ非サルコトハ原審モ亦之ヲ說示セサルニ依リテ認容シタルモノナルコト明ナリ然ルニ原審ハ山田佐太郎カふみノ子宮癌ヲ隱秘シテ告知セサリシハ詐欺罪ヲ構成シタリト爲スニ在ルヲ以テ詐欺ニ非サルモノヲ以テ詐欺ト判定シタルモノナルカ故ニ違法裁判タルコトヲ免カレスト云フニ在レトモ

生命保險契約締結ノ際保險契約者ハ其ノ知レル被保險者ノ現在疾患ハ固ヨリ保險者ニ告知スヘキモノナレハ之ヲ隱秘シテ告知セス保險者ヲシテ被保險者ニ斯ル疾患ナキモノト誤信セシムルハ欺罔行爲ナリト謂フヘシ原判示ニ依レハ被告人ハ妻ふみカ子宮疾患アリ頗ル重症ニシテ生命ニ關スルモノナルコトヲ察知セルニ拘ラス之ヲ保險會社ニ告知セス判示ノ方法ニ依リふみハ健康者ナリト誤信セシメ同人ヲ被保險者トシテ生命保險契約ヲ締結シタルモノナレハ判示行爲ハ勿論詐欺罪ヲ構成ス論旨ハ其ノ理由ナシ

同第四點保險ニ關スル詐欺ハ契約ニ在ルモノト保險金受領ニ在ルモノトノ二アリ本件詐欺カ成立スルモノトスレハ山田佐太郎カふみノ病氣ノ頗ル重症ニシテ生命ニ關スルモノ(子宮癌)ナルコトヲ察知

シ之ヲ隱秘シテ保險契約ヲ締結セシメタルニ在リト爲スモノナルヲ以テ本件詐欺ハ契約ニ在ルモノナ
 ラサルヘカラス然レトモ前ニ説論シタル如ク本件山田佐太郎ノ不告知カ惡意又ハ重大過失ニ因ルモノ
 トスルモ消極的行爲ナルヲ以テ詐欺罪ヲ成立スルコトナシ唯第一生命保險相互會社カ商法第四百二十
 九條ノ規定ニ依リテ保險契約ヲ解除スルコトヲ得ルニ止マルナリ然ルニ第一生命保險相互會社ハ本件
 保險契約ヲ解除セサルモノナルヲ以テ假令詐欺罪ノ成立スルモノトスルモ保險契約ハ確定存在スルモ
 ノナリ保險契約ノ確定存在スルモノナルカ故ニ被保險者タルふみノ死亡シタルトキハ山田佐太郎ハ其
 ノ受益者ノ親權者トシテ保險金ヲ受領スルコトヲ得ルモノナリふみノ死因カ病氣ナルニ於テハ苟クモ
 責任死殺ニ非サル限りハ何病タルヲ問ハス保險金ヲ受領スルニ妨ケナシ其ノ故ニ歸往症カ子宮癌タル
 ニ拘ラス死因カ他病ナリトノ死亡診斷書ヲ提示スルモ聊カモ保險金受領上ノ詐欺タルコトナシ又甲乙
 丙等多數醫師ノ診療ヲ受ケタルニ拘ラス甲醫ノ診療ヲ受ケタレトモ他醫ノ診療ヲ受ケタルコトナシト
 言ヒタリトスルモ其ハ保險金受領上ノ詐欺タルコトナシ然ルニ原審カ一醫師旭初雄ノ作成ニ係ル右既
 往症ノ記載ナキ死亡診斷書ヲ保險金受領ニ要スル書類ニ添ヘテ同會社ニ郵送シ云々尙ふみノ死因調査
 ニ來レル同會社横濱支部長小林繁ニ對シふみハ從來健康體ニテ旭醫師ノ診察ヲ受ケタル迄ハ一回モ醫療
 ヲ受ケタルコト無キ旨詐言ヲ構ヘ因テ同會社ヨリ金六千圓ヲ領得シタルモノナリト判定シタルハ本
 件ノ場合ニ於テハ法律上保險金ノ受領ニ關スル詐欺ノ成立スルモノニ非サルニ拘ラス保險金受領ニ關

スル詐欺ノ成立シタルモノト爲シタルモノニシテ法ノ適用ヲ誤リタル違法裁判タリト云フニ在レトモ
 保險金騙取ノ目的ヲ以テ保險會社ニ對シ欺罔手段ヲ施シ保險契約ヲ締結セシムルハ會社カ商法第四百
 二十九條ノ規定ニ依リ保險契約ヲ解除シ得ルト否トニ拘ラス詐欺罪成立シ該契約ノ履行ヲ求メテ保險
 金ノ交付ヲ受ケルハ欺罔ニ因ル財物ノ騙取ニ外ナラス而シテ其ノ全體ヲ包括的ニ觀察シテ之ヲ一箇ノ
 詐欺罪ニ問擬スヘキヲ相當トス然レハ右ト同趣旨ニ出テタル原判決ハ相當ニシテ所論ノ如キ違法アル
 モノニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事溝淵孝雄關與

○瀆職被告事件(昭和六年(九)第一六二三號 棄却)

(昭和七年二月二十日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 松本 藤彦 辯護人

外五名

片岡 剛三
田村 堅弘
緒方 清太郎
德本 福次郎
矢野 次郎
花本 太郎

外二名

【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

收賄罪ト請託

○判決要旨

收賄罪ハ請託ノ有無ニ拘ラス成立ス

【参照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求者クハ約束シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス
同法第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

○事實

第二審ハ被告人嘉一ニ對シ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第九十七條第一項前段第五十五條第九十七條第二項ヲ適用シテ被告人嘉一ヲ懲役八月ニ處シ金八百二十八圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
第二 被告人西村嘉一ハ大阪遞信局書記ニシテ大正十四年末頃ヨリ昭和四年八月十日迄同局經理課購買係ニ勤務シ第一調理係所屬經費物品購買及電信電話ノ土木工事請負ニ關スル事務等ヲ執掌シ其ノ後ハ同課同係ノ事務一切其ノ他ヲ包括分掌スル同局用品課ノ庶務課長トシテ職務ヲ執リ居タルトコロ犯意ヲ繼續シテ
(一) 昭和三年八月頃ヨリ昭和四年八月頃迄ノ間ニ同局ノ注文トシテ前記合名會社安田秀吉商店ニ納入セシメタル電信電話ノ工費用物品購買ノ事務ヲ取扱ヒタル關係ヨリ大阪市西淀川區大仁又ハ同市東淀川區十三ノ當時被告人嘉一住居ニ於テ右會社販賣係安田直次ヨリ從來ノ右物品購買ニ關スル事務取扱ノ報酬並將來ノ納入ニ付便宜ナル取計アリタキコトノ請託ノ趣旨ノ下ニ昭和三年八月頃金五十圓同年十一月頃金五十圓昭和四年二月頃金百圓同年三月頃金五十圓同年五月頃二回ニ金五十圓宛及昭和四年八月中旬從前ノ右物品購買ニ關スル事務取扱ノ報酬ノ趣旨ノ下ニ金百圓ノ供與ヲ受領シ
(二) 昭和二年十二月頃ヨリ昭和四年八月頃迄ノ間ニ同局ノ注文トシテ同局御用請負人被告人熊四

郎ニ請負ハシメタル電信電話ノ土木工事請負ノ事務ヲ取扱ヒタル關係ヨリ大阪市西淀川區大仁又ハ同市淀川區十三ノ當時被告人嘉一住居ニ於テ右被告人熊四郎ヨリ從來ノ右土木工事請負ニ關スル事務取扱ノ報酬並將來ノ請負ニ付便宜ナル取計アリタキコトノ請託ノ趣旨ノ下ニ昭和二年十二月頃三越吳服店發行額面三十圓ノ商品券一枚昭和三年八月頃某店發行額面二十圓ノ商品券一枚同年十二月頃某店發行額面三十圓ノ商品券一枚及昭和四年八月中旬從前ノ土木工事請負ニ關スル事務取扱ノ報酬ノ趣旨ノ下ニ三越吳服店發行額面二十圓ノ商品券一枚ノ供與ヲ受領シ

(三) 昭和二年十二月頃ヨリ昭和四年八月頃迄ノ間ニ同局ノ注文トシテ同局御用商人被告人若林儀一郎ニ納入セシメタル電信電話ノ工用物品等購買ノ事務ヲ取扱ヒタル關係ヨリ大阪市西淀川區十三ノ當時被告人嘉一住居ニ於テ右被告人若林儀一郎ヨリ從來ノ右物品購買ニ關スル事務取扱ノ報酬並將來ノ納入ニ付便宜ナル取計アリタキコトノ請託ノ趣旨ノ下ニ昭和二年十二月頃金四十圓昭和三年八月頃金三十圓同年十二月頃某店發行額面五十圓ノ商品券一枚及昭和四年八月中旬從前ノ右物品購買ニ關スル事務取扱ノ報酬ノ趣旨ノ下ニ價額八圓ニ相當スル反物一反某店發行額面三十圓ノ商品券一枚ノ供與ヲ受領シ

(四) 昭和二年十二月頃ヨリ昭和四年八月頃迄ノ間ニ同局ノ注文トシテ同局御用商人山中丑之助ニ納入セシメタル電信電話ノ工用物品購買ノ事務ヲ取扱ヒタル關係ヨリ大阪市西淀川區大仁又ハ

同市東淀川區十三ノ當時被告人嘉一住居ニ於テ右山中丑之助ヨリ從來ノ右物品購買ニ關スル事務取扱ノ報酬並將來ノ納入ニ付便宜ナル取引アリタキコトノ請託ノ趣旨ノ下ニ昭和二年十二月頃金三十圓昭和三年八月頃三越吳服店發行額面二十圓ノ商品券一枚同年十二月頃金五十圓及昭和四年八月中旬從前ノ右物品購買ニ關スル事務取扱ノ報酬ノ趣旨ノ下ニ三越吳服店發行額面二十圓ノ商品券一枚ノ供與ヲ受領シ以テ孰レモ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人嘉一辯護人緒方弘上告趣意書第一點原判決ハ擬律ニ錯誤アリ賄賂罪カ瀆職トシテ所罰ノ對照タル所以ハ當事者カ金錢其ノ他利益ノ授受約束等ニヨリ其ノ意思ヲ左右サルルコトカ公務の生活上危險性アルニヨル故ニ均シク職務ニ關スル利益ノ授受約束等ト雖之ニヨリ當事者ノ意思ヲ左右スル虞ナキ場合ハ之ヲ以テ瀆職的行爲トシテ所罰ノ對照トナスコトナシ例ヘハ官吏服務紀律第八條ノ如シ又中元歳暮ノ如シ之共同生活上自ラ認メラルヘキ儀禮慣習ニ基クモノナレハ均シク職務ヨリ派生スル事項ナレトモ敢テ之ニヨリ特ニ當事者ノ意思ヲ左右スル意思ナク其ノ虞ナシ所謂非社會性ノ存スルモノナキヲ以テ之ヲ刑罰ノ對照トナササル也今本件ヲ觀ルニ原判決ノ認定事實ニヨレハ被告人ノ安田商店ヨリ

賄賂罪ト請託

合計四百五十圓也齋藤熊四郎ヨリ三越商品券外數點若林儀一郎ヨリ金錢商品券等山中丑之助ヨリ金錢商品券等授受シタル事實ヲ以テ或ハ被告人カ前記各關係者ニ對スル過去ニ於ケル事務取扱ノ報酬並將來ノ便宜取扱ノ請託ノ主旨ニ授受セラレタルモノトナシ之ニ對シ瀆職罪トシ刑法第九十七條第一項前段ヲ適用シタレトモ右認定事實中安田商店關係ヲ除キ他ノ全部カ中元歳暮ノ趣旨ニテ授受セラレタルハ其ノ授受日時カ八月(中元)十二月(歳暮)ニアルニヨツテモ明ナリ又其ノ授受サレタル利益ヲ之等關係人ト大阪遞信局トノ年々ノ取引高ト比較スルモ之ニ依ツテ何等當事者ノ意思ヲ左右スル意思ナキハ明ニシテ通例世ニ行ハルル中元歳暮ノ外何等其他意ナキハ事實ノ證明スル處ナリ安田商店關係ニ付テハ多少其ノ趣ヲ異ニシ中元歳暮トハ看做シ得サルカ如キモ而モ之ヲ以テ直ニ被告人等ニ瀆職的犯罪ヲ認ムルハ如何ニヤ蓋シ被告人ノ掌ル物品購買等ノ手續ニ付テ之ヲ見ルニソレソレ機關アリ順序方法ニ付テモ内規慣行等アリ其ノ間被告人等カ特ニ隨時請託ヲ容ルル餘地ナキ事實ハ記録上明白ナル所ナルヲ以テナリ要スルニ本件認定事實中安田商店關係ヲ除ク全部ハ中元歳暮ノ慣行ニ做ヒタルモノ安田商店關係ニ付テハ被告人等ニ瀆職的犯意ナシト見ルヲ以テ相當トス然ルニ原判決カ共ニ犯意ヲ認定シテ以テ賄賂罪ヲ適用シタルハ明ニ擬律ノ錯誤アリト信スト云フニ在レトモ官吏カ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得サルハ官吏服務紀律ノ明規スル所ナルノミナラ

【要旨】

ス刑法上收賄罪ノ成立スルニハ公務員又ハ仲裁人カ其ノ職務ニ關シ金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シタルコトヲ以テ足り請託ノ有無ノ如キハ問フ所ニ非サルヲ以テ被告人カ身苟クモ大阪遞信局書記トシテ經理課又ハ用品課ノ事務ヲ鞅掌中其ノ職務ニ關シ安田商店外數名ヨリ金錢商品券等ヲ收受シタルコト原判決認定ノ如クナル以上原判決カ被告人ニ瀆職的犯意アリタルモノトシテ右行爲ヲ刑法第九十七條第一項ニ問擬シタルハ至當ニシテ毫モ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルモノト云フヘカラス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和六年(九)第一四六九號 棄却)

(同七年二月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】

被告人

石川 一郎

外二名

辯護人

秋山 高三郎
星 貢 一

共同被告人ト刑事訴訟法第三百六十七條ノ適用

○判示事項

共同被告人ト刑事訴訟法第三百六十七條ノ適用

○判決要旨

刑事訴訟法第三百六十七條ノ規定ハ刑ノ言渡ヲ受クヘキ被告人ヲ對象トスルモノニシテ從テ同規定ハ共同被告事件ニ在リテモ各被告人ニ付之ヲ適用スヘキモノトス

【参照】刑事訴訟法第三百六十七條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人石川扁一郎ヲ禁錮二月ニ處シ未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ被告人菊谷武平ヲ禁錮一月ニ處シ被告人沼田省太郎ヲ罰金六百圓ニ處シ該罰金不完納ノ場合ニハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘク被告人菊谷武平ヨリ金五百三十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ昭和五年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ孰レモ東京府第七區内ノ選舉人ニシテ被告人石川扁一郎 同沼田省太郎 同高野八五郎 同梅澤生次 同吉川吉愛 同井上寛二等ハ同區ノ議員候補者津雲國利ノ選舉委員トナリ其ノ餘ノ被告人等ハ同候補者ノ選舉運動員タル法定ノ資格ヲ有セサルモノナルトコロ

第一 被告人石川扁一郎ハ犯意ヲ繼續シテ

(一) 被告人沼田省太郎ト共謀ノ上同月一日頃東京府西多摩郡五日市町仲町所在津雲候補者ノ選舉事務所ニ於テ字津木林藏ヨリ同候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬及投票買收費等トシテ金二千圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

- 一 被告人沼田省太郎ト共謀ノ上同月中旬頃被告人市倉英一ヲ介シ被告人森嘉重方ニ於テ同人ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ
- 二 同月中旬頃二回ニ亙リ八王子市八日市町三十番地岩崎嶽一方ニ於テ被告人菊谷武平ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金九百圓ヲ供與シ
- 三 同月中旬頃五日市町料理店藤野家方ニ於テ被告人高野八五郎ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金三百圓ヲ供與シ

共同被告人ト刑事訴訟法第三百六十七條ノ適用

四 同月中旬頃判示岩崎鐵一方ニ於テ被告人梅澤生次ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金二百圓ヲ供與シ

第二 被告人沼田省太郎ハ被告人石川扁一郎ト共謀ノ上犯意繼續シテ

(一) 第一ノ(一)ノ如ク宇津木林藏ヨリ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬及投票買收費等トシテ金二千圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 津雲候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月中旬頃被告人市倉英一ヲ介シ被告人森嘉重方ニ於テ同人ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ

(第三乃至第六事實略ス)

第七 被告人菊谷武平ハ犯意繼續シテ

(一) 同月中旬頃二回ニ互リ前示岩崎鐵一方ニ於テ被告人石川扁一郎ヨリ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金九百圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 津雲候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

一 同月中旬頃東京府南多摩郡堺村有樂館ニ於テ被告人小山勘市郎ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金二十圓ヲ供與シ

二 同月中旬頃二回ニ互リ被告人中野芳太郎ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲ス

コトノ報酬トシテ自宅ニ於テ金十圓ヲ及同被告人方ニ於テ金十圓ヲ各供與シ

三 同月中旬頃被告人津田光義方ニ於テ同人ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金三十圓ヲ供與シ

四 同月中旬頃二回ニ互リ自宅ニ於テ被告人吉川吉愛ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金百八十圓ヲ供與シ

五 同月中旬頃數回ニ互リ自宅ニ於テ被告人田中彌三郎ニ對シ同人カ津雲候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ合計金百二十圓ヲ供與シタルモノナリ

(第八事實以下略ス)

法律ニ照スニ被告人石川扁一郎 同沼田省太郎 同菊谷武平ノ判示所爲中金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ衆議院議員選舉法第十二條第四號第一號ニ金錢ヲ供與シタル點ハ同條第一號ニ各該當スルコロ右ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ被告人石川扁一郎 同菊谷武平ニ對シテハ所定刑中禁錮刑ヲ被告人沼田省太郎ニ對シテハ罰金刑ヲ各選擇シ其ノ刑期及罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人等ヲ各主文ノ刑ニ處シ尙被告人石川扁一郎ニ對シテハ刑法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ本刑ニ算入シ被告人沼田省太郎ニ於テ其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞務役場ニ留置スヘク主文掲記ノ追徵金ハ被告人菊谷武平カ

判示犯行ニ因リ收受シタル利益ニシテ孰レモ之ヲ費消シタル爲沒收スルコト能ハサルヲ以テ同選舉法
 第一百四條後段ヲ適用シ同被告人ヨリ之ヲ追徴スヘキモノトス

原審第一回公判ニ被告人二十五名ノ中被告人石川扁一郎及田中彌三郎ハ出頭セス同第二回公判ニ被告
 人沼田省太郎出頭セス第三回公判ニハ被告人森嘉重 市倉英一 飲島筆助 吉澤爲次郎 黒澤角次郎 宮
 川良一 長谷本藤倍 内藤喜一 内田倉治出頭セス裁判所ハ右孰レノ場合ニモ出頭セサリシ被告人ニ對
 スル事件ニ付審理ヲ分離セス而シテ右第二回公判ニ於テハ出頭シタル被告人石川扁一郎ニ對シ審理ヲ
 爲シ又第三回公判ニ於テハ不出頭ノ被告人ニ付刑事訴訟法第三百六十七條ニ依リ不出頭ノ儘審理スヘ
 キ旨ヲ宣シテ其ノ他ノ被告人ニ對スル公判手續ヲ更新シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人秋山高三郎 岸貢一上告趣意書第一點原判決ニハ刑事訴訟法第四百十條第八號ニ該當
 スル法令ノ違反アリ原審第一回公判ニハ被告人石川扁一郎出頭セス其ノ第二回公判ニハ被告人沼田省
 太郎出頭セス其ノ第三回公判ニハ森嘉重外八名出頭セサリシニ拘ラス原審裁判所ハ其ノ何レノ場合ニ
 於テモ出頭セサル被告人ニ對シ審理ヲ分離シ之ヲ後日ニ讓ル旨ヲ宣スルコトナク審理ヲ繼續シ居レリ

殊ニ被告人石川扁一郎ニ對スル場合ニ於テハ刑事訴訟法第三百六十七條ニ謂フトコロノ罰金以下ノ刑
 ニ當ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニシテ後ノ取調ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處ス
 ヘキモノト認メサル場合ニ該當セス而シテ被告人石川扁一郎ニ對スル期日トシテ指定セラレタル公判
 カ缺席シタル同被告人ニ對スル審理ノ分離セラレルコトナクシテ進行シタル以上ハ同被告人ニ對スル
 審理モ亦同被告人缺席ノ儘遂行セラレタルモノト認ムルノ他ナク刑事訴訟法第四百十條第八號ニ該當
 スルノ法令違反アリト爲ササルヲ得ス第三回公判ニ於ケル森嘉重外八名ノ缺席ニ關シテハ公判調書ニ
 「本日不出頭ノ被告人ニツイテハ刑事訴訟法第三百六十七條ニ依リ不出頭ノ儘審理ヲ進ムヘク」トノ
 記載アルト右被告人等カ何レモ罰金刑ヲ以テ處斷セラレ居ル事實ニ徴スレハ缺席ノ儘審理ヲ進メタル
 理由ヲ知り得ヘク第二回公判ニ缺席シタル沼田省太郎ニ關シテモ同人カ罰金刑ヲ以テ處斷セラレ居ル
 コトニ徴シ同一理由ノ下ニ審理ヲ進メタルモノナルコトヲ察知シ得ヘシ然レトモ刑事訴訟法第三百六
 十七條ハ罰金以下ノ刑ニ當ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ト規定セリ本件ノ如
 ク多數共同被告人カ一事件トシテ審判セラレル場合ニ於テ其ノ中ノ缺席シタル被告人カ罰金以下ノ刑
 ニ處スヘキモノト認メラルル場合ト雖該事件中ノ他ノ被告人ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレル者アルトキ
 ハ之ヲ分離セサル以上ハ事件トシテハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ト爲スコトヲ得ス原
 審裁判所ハ第一、二、三回公判共如斯事由存スルニ拘ラス缺席者ニ對スル審理ヲ分離スルコトナク進

行シタルハ右三回ノ公判何レモ不適法ニシテ刑事訴訟法第四百十條第八號ニ謂フトコロノ常ニ上告ノ理由アル場合ニ該當シ全部破毀ヲ免レサルモノナリト思料スト云フニ在リテ

原審各公判調書ノ記載ニ依レハ第一回公判ニハ被告人石川扁一郎出頭セス第二回公判ニハ被告人沼田省太郎出頭セス第三回公判ニハ原審相被告人森嘉重 市倉英一 飯島筆助 吉澤爲次郎 黒澤角次郎 宮川良一 長谷本藤悟 内藤喜一 内田倉治出頭セサリシモ裁判所ハ右執レノ場合ニモ出頭セサリシ被告人等ニ對スル事件ニ付審理ヲ分離スルコトナク其ノ儘出頭シタル被告人ニ付審理ヲ爲シタルコト所論ノ如クナルヲ認メ得ヘシト雖被告人石川扁一郎ハ第二回公判ニ出頭シ裁判所ハ同被告人ニ對スル審理ヲ更新シ同人ニ對スル原判決ノ基礎トナリタル口頭辯論ノ手續ヲ履踐シアルカ故ニ第一回公判ニ於テ同被告人不出頭ノ儘審理ヲ爲シタル點ニ付公判手續ノ違法ヲ云爲スル所論ハ謂ハレナク又原審ハ第三回公判ニ於テモ出頭シタル被告人ニ對シテハ審理更新ノ手續ヲ爲シ同公判ニハ被告人扁一郎省太郎武平等ハ執レモ出頭シタルモノナルカ故ニ同人等ニ於テ所論ノ點ニ關シ原審公判手續ヲ攻撃スルヲ得ルモノニ非ス加之刑事訴訟法第三百六十七條ニ於テ罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得ルモノト規定シタルハ刑ノ言渡ヲ受クヘキ被告人ヲ對象トスルモノナルコト明白ニシテ刑ノ言渡ハ如何ナル場合ニ於テモ個別的ニ

【要旨】

各被告人ヲ對象トスヘキコト亦疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ同條ノ規定ハ共同被告事件ニ在リテモ各被告人ニ付テ之ヲ適用スヘキモノト解スルヲ正當ナリトスルカ故ニ之ト異ナル解釋ニ基キ原審ノ公判手續ニ違法アリト爲ス所論ハ失當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事古田正武關與

○強姦致傷殺人被告事件(昭和六年(れ)第一六五三號 棄却)
(同年二月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 藤本勝一 辯護人 高見澤博
 【第一審】 山口地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

強姦致傷後被害者ヲ殺害シタル場合ノ擬律

強姦致傷後被害者ヲ殺害シタル場合ノ擬律

○判決要旨

犯人が強姦傷害後犯罪ノ發覺ヲ虞レ即時被害者ヲ絞殺シタル場合ニ於テモ強姦行為ト殺人所爲トハ刑法第五十四條ノ關係アリト爲スヲ得ス併合罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

【參照】 刑法第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

同法第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止メ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

同法第五十四條 一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ死刑ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ年少ニシテ父ヲ喪ヒ長スルニ及ヒ異性ニ對スル執着心強ク婦女子ニ對シ屢猥褻行為ヲ爲シ來リ昭和四年初頃ヨリ無賴ノ徒ト交遊シ同年一月二十八日下關區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ因リ懲役六月ニ又昭和五年四月二十二日同裁判所ニ於テ猥褻及詐欺罪ニ因リ懲役十月ニ各處刑ヲ受ケ昭和六年二月

二十五日刑ノ執行ヲ終リ釋放セラレタルモノナルトコロ爾來實母ノ許ニ在リテ他人ニ雇ハレ辛シテ其ノ糊口ヲ凌キ居タルモ間モナク失業スルニ至リ同年三月二十三日早朝其ノ肩書居宅ヲ立出テ職ヲ捜シタルモ仕事口無ク一旦歸宅シタルニ母ヨリ其ノ臍甲斐無キヲ戒メラレタルヨリ同日午前十一時頃再ヒ職ヲ求ムヘク自宅ヲ立出テ同日午後零時三十分頃山口縣豐浦郡彦島町字江之浦縣道堀割ヨリ同所第二尋常高等小學校ニ向ヒ通行中前方約八間ノ路上ニ折柄歸宅ノ途ニ在リシ同町字田ノ首居住下關阿部高等技藝女學校生徒高島千代(大正七年三月十日生)外一名ノ女學生ノ後姿ヲ認ムルヤ忽チ劣情ヲ起シ暴力ヲ以テ右千代ヲ姦淫セント決意シ一旦同女ヲ追越シタルモ故意ニ步調ヲ緩メテ再ヒ同女ヲ先行セシメ密ニ之ニ尾行シ同女カ他ノ女學生ト別レテ同日午後零時五十分頃單身ニテ通行人稀ナル同町字段地ノ山路ニ差蒐リタル際突如同所ニ於テ右千代ノ背後ヨリ同女ヲ抱締メテ路傍ニ仰向ニ引倒シ同女カ驚愕ノ餘悲鳴ヲ擧ケテ救助ヲ求メツツ死力ヲ盡シテ抵抗シタルヲ排撃シ同女ヲシテ遂ニ疲勞ノ極無抵抗ノ状態ニ陥ラシメテ同女ヲ姦淫シ因テ其ノ陰部ニ小裂傷ヲ負ハサシメタル所其ノ儘之ヲ放置セハ同女カ自然ニ氣力ヲ回復シ該犯行ノ露見スルニ至ルヘキヲ恐レ寧ロ此ノ際同女ヲ殺害シテ禍根ヲ絶ツニ如カスト爲シ即時同所ニ於テ同女着用ノ袴止「バンド」ヲ以テ同女ノ頸部ヲ卷絞メ因テ同女ヲ絞殺シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示所爲中強姦致傷ノ點ハ刑法第八十一條第七十七條ニ殺人ノ點ハ同法第九十九

強姦致傷後被害者ヲ殺害シタル場合ノ擬律

條ニ各該當スルトコロ右ハ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十五條ヲ適用スヘク尙犯情ニ依リ右同法第九十九條所定ノ死刑ヲ選擇シ同法第四十六條ニ依リ被告人ヲ死刑ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人高見澤博上告趣意書第二點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリ即チ被告人ノ行爲ヲ以テ刑法第八十一條第七十七條及第九十九條ニ該當シ而シテ併合罪ナルカ故ニ刑法第四十五條ヲ適用シテ同法第四十六條ニ依リ處斷スト云フニアレトモ刑法第八十一條ハ第七十七條ノ内容ヲ包含シ且其ノ結果的責任ヲ規定スルモノナリ果シテ然ラハ被告人ノ強姦行爲ハ刑法第八十一條ニノミ該當スルニ過キササルモノニシテ特ニ刑法第七十七條ヲ適用スヘキモノニアラス若シ原審判決カ被告人ノ姦淫行爲ニ際シテ被害者ノ陰部ニ裂傷ヲ負ハシメタル點カ刑法第八十一條ニ該當スト云フニアラハ其ノ旨ノ事實ノ摘示ナカルヘカラス更ニ原審判決カ被告人ノ二箇ノ行爲ヲ以テ併合罪ニ依リ處斷スヘキモノト目シタルハ從來ノ判例ニ則リ誠ニ妥當ナルカ如シト雖被告人ノ殺人行爲ハ即チ姦淫行爲ノ結果タルコトハ一件記録ニ徴シ明瞭ナルトコロニシテ前行爲ナカリシトセハ後行爲タル殺人行爲モナカルヘキナリ然ラハ即チ刑法第五十四條後段ヲ適用シテ處斷スルヲ以テ適法妥當ナリトセサルヘカラス

而シテ前行爲タル姦淫行爲ハ前述スルカ如ク被告人ノ心神耗弱ニ基クモノトセハ本件犯罪處斷ニ當リテモ刑法第三十九條第二項ノ法意ヲ推及シテ刑ノ量定選擇ニモ充分ノ酌量ヲ爲スヲ以テ法律ノ精神ニ適スルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ノ確定シタル事實ハ被告人ハ前略判示ノ日時場所ニ於テ被害者タル下關阿部高等技藝女學校生徒高島千代(大正七年三月十日生)ニ對シ暴力ヲ以テ姦淫セムト決意シ通行人稀ナル同町字段地ノ山路ニ差蒐リタル際突如右千代ノ背後ヨリ同女ヲ抱締メテ路傍ニ仰向ニ引倒シ同女カ恐懼ノ餘悲鳴ヲ擧ケテ救助ヲ求メツツ死力ヲ盡シテ抵抗シタルヲ排撃シ同女ニ乘掛リ數次手掌ヲ以テ鼻口ヲ強壓シ同女ヲシテ遂ニ疲勞ノ極無抵抗ノ状態ニ陥ラシメテ同女ヲ姦淫シ因テ其ノ陰部ニ小裂傷ヲ負ハシメタルモノナレハ其ノ行爲タルヤ刑法第七十七條ノ強姦罪ヲ犯シタル結果人ヲ傷害ニ致シタルモノニ該當シ同法第八十一條ヲ適用處罰スヘキモノナリトス而シテ此ノ場合ニ於テハ素ヨリ第八十一條ノ一罪ヲ構成スルモノニシテ此ノ外第七十七條ノ罪ヲ構成スルモノニ非スト雖此ノ事實ニ對スル法律ノ適用上第七十七條ヲ併記シテ刑法第八十一條ヲ適用スヘキ法律上ノ理由ヲ明示スルハ毫モ違法ニ非ス原判決ノ趣旨亦之ニ外ナラサルカ故ニ其ノ擬律ニ錯誤アルモノト論スヘキニ非ス又原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ被害者高島千代ヲ強姦シテ傷害ヲ與ヘタル後其ノ儘之ヲ放置セハ同女カ自然ニ氣力ヲ回復シ該犯行ノ露見スルニ至ルヘキヲ恐レ寧口此ノ際同女ヲ殺害シテ禍根ヲ絶ツニ如カスト

【要旨】

強姦致傷後被害者ヲ殺害シタル場合ノ擬律

爲シ殺人ノ意思ヲ以テ即時同所ニ於テ同女着用ノ袴止「バンド」ヲ以テ同女ノ頸部ヲ卷絞メ因テ同女ヲ絞殺シタルモノニシテ此ノ殺人行爲ハ前條強姦ノ行爲ヨリ生シタル當然ノ結果ニ非ス又強姦行爲ハ殺人ノ爲普通ニ行ハルル手段ニ非サルカ故ニ其ノ間ニ第五十四條ヲ適用スヘキ關係アリト爲スヲ得ス果シテ然ラハ原判決カ被告人ノ行爲中強姦致傷ノ點ニ付テハ刑法第百八十一條ヲ殺人ノ點ニ付テハ同法第百九十九條ヲ適用シ二箇ノ併合罪トシテ同法第四十五條第四十六條ヲ適用シタルハ正當ニシテ原判決ノ犯罪事實ニ對スル法令ノ適用ニハ所論ノ如キ不法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事松井和義關與

○醫師法違反被告事件

(昭和六年(九)第一六六三號
 同七年三月二十四日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 井上長作

【第一審】 甲府區裁判所 【第二審】 甲府地方裁判所

○判示事項

鍼術營業者ノ診察ノ限度——醫師法第十一條ノ適用

○判決要旨

- 一 鍼術營業者ハ鍼砭ヲ施スヲ禁忌スヘキヤ否ヲ檢スル限度ニ於テノミ患者ヲ診察スルヲ得ヘキモノトス【要旨第一】
- 二 醫師ノ免許ナキニ拘ラス業トシテ疾病ヲ診察シ之ニ適應スル投藥ヲ爲スニ於テハ其ノ投藥力賣藥ナルト調査藥ナルトヲ問ハス

【參照】 醫師法第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下

ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス
 鍼術、灸術營業取締規則第七條 鍼術又ハ灸術營業者ハ瀉血、切開其ノ他外科手術ヲ行

ヒ若ハ電氣、烙鐵ノ類ヲ用キ又ハ藥品ヲ投與シ若ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人長作ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スル

鍼術營業者ノ診察ノ限度 醫師法第十一條ノ適用

コト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ醫師ノ免許ヲ受ケサルモノナルニ拘ラス

第一 昭和四年十二月頃山梨縣南巨摩郡増穂村字最勝寺深澤已之吉方ニ到リ聽診器檢溫器ヲ使用シテ
同人ヲ診察シ中風症ナリト診斷シ適應藥トシテ「アニゾール」一壺ヲ指示シテ投與シ

第二 同五年四月頃被告人肩書居宅ニ於テ前同様ノ器具ヲ使用シテ深澤よしのヲ診察シ胃腸加答兒ナ
リト診斷シ適應藥トシテ「腸胃散」一袋ヲ指示シテ投與シ

第三 同年八月頃同郡皷澤町新田原田村次郎方ニ到リ前同様ノ器具ヲ使用シテ同人ヲ診察シ胃瘧瘵ナ
リト診斷シ適應藥トシテ「腸胃散」一袋ヲ投與シ

第四 同年十二月頃前同町新田小林うら方ニ到リ前同様ノ器具ヲ使用シテ同人ヲ診察シ坐骨神經痛ナ
リト診斷シ適應藥トシテ「コルメット」一壺ヲ投與シ

第五 同六年三月頃同郡増穂村大春米秋山あき方ニ到リ前同様ノ器具ヲ使用シ同人ヲ胃瘧瘵ニシテ且
風邪ナリト診斷シ風邪ノ適應藥トシテ「オフル」一袋ヲ投與シ

以テ醫業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ醫師法第十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額
範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處スヘク尙刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルト

キハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點鍼灸術モ純然タル一ノ醫行爲ニシテ醫師ト同シク疾病治療ヲ目的トスルモノ
ナル事ハ明治四十四年御院判決例ノ明示スル所ナリ抑モ疾病ナルモノハ其ノ數數百種類ノ多キニ互リ
疾病ヲ治療スルノ法又數種類ヲ算スルト雖其ノ何レノ治療法タルヲ問ハス各其ノ疾病竝症狀ノ異ナル
ニ從ヒ治療ノ手段ヲ異ニスルモノナル事ハ自明ノ理ナルカ故ニ苟モ疾病治療ヲ業トスル者カ有效無害
ナル治療手段ヲ行ハントスルニアタリテハ其ノ疾病ノ何タルカヲ知り現ハレタル症狀ノ程度ヲ按シ以
テ適切ナル治療上ノ處方ヲ選定センカ爲ニ必要ナル範圍ニ於テ診察ヲナササルヲ得サルモノナル事ハ
大正三年御院判決例「疾病ヲ治療スルニハ診察ヲ必要トシ云々」ノ趣旨ニ徵スルモ亦明ナル所ナリ
然リトスレハ鍼術營業者カ獨立セル鍼術灸術營業取締規則ニ依リテ許容セラレタル業權ニ基キ其ノ當
然ノ業務タル疾病治療ヲナサントスルニ當リ其ノ疾病ノ何タルカヲ知り鍼術治療ニ適スルヤ否ヲ按シ
施術(刺鍼)ヲ禁忌スヘキ危險症狀(例ヘハ發熱心臟衰弱等)ノ存セサルヤ否ヲ檢シ然後ニ於テ最
モ有效適切ナル手術(刺鍼)ノ部位使用鍼ノ大小長短刺戟ノ強弱術式等ノ所謂治療上ノ處方ヲ選定シ

鍼術營業者ノ診察ノ限度 醫師法第十一條ノ適用

以テ有效無害ナル治療ヲ施行スルノ必要上特ニ法令ニ依リテ禁止セラレタル事項例ヘハ(鍼灸術營業取締規則第七條ノ禁止事項)ニ類スヘキモノ(例ヘハ探膿計使用検査血液採取検査藥品應用ノ化學的診斷等)ニアラスシテ單ニ聽診器檢溫器等ノ如キ何等危害ヲ生スル恐レナキ器具ヲ使用シテ當然ナササルヲ得サル範圍内ニ於テ簡易ナル診察行爲ヲナスカ如キハ何等差支ナキモノナル事ハ前示御院ノ判決例ニ徴スルモ各府縣ニ於テ毎年施行セラレル鍼灸術試驗ニ病理學ハ固ヨリ鍼灸術ノ禁忌症竝適應症ノ鑑別及症狀ニ依ル處方ノ選定等ヲ問題トシテ試課シツツアル事實竝鍼灸術營業者ヨリ一層下級ナル按摩術營業者取締規則ヲ準用セラレ居ル彼ノ柔道整腹術營業者ノ診察可否ニ對スル行政例(警視廳ヨリノ伺出)ニ於テ「柔道整腹術營業者ハ當然伴フヘキ場合ノ外診察ヲナス事ヲ得ス」トナシ斯ル當然伴フヘキ場合ニ於ケル診察行爲ヲ許容シタル事實等ヨリ推斷スルモ又明ナルノミナラス鍼灸術カ疾病ノ治療行爲ナル以上本件ニ於ケル程度ノ診察行爲ハ當然ナササルヲ得サル前提行爲ニシテ若シ之ヲ不可ナリトスレハ全國五萬餘ノ鍼灸術營業者ハ一日タリトモ營業ヲナス事ヲ得サル絶對的ナルモノナルニ拘ラス前審裁判所ハ鍼灸術營業者ハ絶對ニ診察行爲ヲナスヲ得サルモノナル見解ノモトニ被告人カ小林ら原田村次郎 柳澤正雄 秋山あき 深澤己之吉 深澤よしの等ノ疾患者ニ對シ鍼灸治療ノ前提行爲トシテ爲シタル診察行爲ヲ不可ナリトシ因テ以テ醫師法第十一條ニ該當スルト爲シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナルヘク原判決ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レサルモノナルヘシ尙本件ノ診察

行爲カ果シテ前提行爲トシテ必要ナル範圍ヲ出テタルヤ否ハ本件記録添付ノ諸證據ニ見ルモ明ナル所ナルモ殊ニ柳澤正雄ニ對スル檢事ノ聽取書竝同人カ證人トシテノ公判廷ニ於ケル陳述ニ徴スレハ一層釋然タル所ニシテ初メ治療(施術)ヲ希望シタルモ發熱甚タシカリシカ故ニ治療(施術)ヲ禁忌スヘキモノナル旨ヲ説述シテ治療(施術)ヲ行ハサリシ事實ハ爲ニ起ルヘキ恐レアリシ危險ヲ未然ニ防止シ得タル點ニ於テ如何ニ檢溫器ノ使用カ絶對的必要ナルカヲ推斷セシメ低熱トナルニ及ンテ初メテ治療(施術)ヲ行ヒタル事實ハ本件被告人ノ診察行爲カ前提行爲トシテノ範圍ヲ出テサリシモノナル事ヲ認定スルニ十分ナルモノナルヘシト云フニ在レトモ

【要旨第一】

鍼術營業者ハ醫師ト同シク疾病治療ヲ目的トスルモノナリト雖其ノ術タル鍼砭ヲ施スヲ禁忌スヘキモノナキヤ否ヲ檢スル限度ニ於テノミ患者ヲ診察スルヲ得ヘキモノニシテ免許ヲ受ケタル鍼術ニ關係ナク又ハ其ノ範圍ヲ超越シテ疾病ヲ診察シ之ニ適應スル投藥ヲ爲スニ於テハ其ノ診察ニ際リ使用シタル器具カ聽診器檢溫器ノ如キ何等危害ヲ生スル虞ナキモノナリトスルモ其ノ行爲ハ醫術ノ範圍ヲ犯シタルモノニシテ純然タル醫師ノ行爲ニ外ナラス原判決ノ認メタル事實ハ被告人ハ醫師ノ免許ヲ受ケサルモノナルニ拘ラス深澤己之吉外四名ヲ聽診器檢溫器ヲ使用シテ診察シ適應藥トシテ夫々「アニゾール」「コルメット」「オフル」及腸胃散ヲ投與シ以テ醫業ヲ爲シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ醫師法第十一條ニ該當スルコト洵ニ明ナリ故ニ原判決ニハ所論ノ如ク法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルコト

ナシ論旨理由ナシ

一一八 (一三六)

第二點原審裁判所ハ被告人カ「小林うら其ノ他ノ疾患者ニ對シ適症藥ヲ投與シタリ」ト判定シタルモ吾人ノ知識經驗竝社會通念ニ徵スレハ苟モ醫師法違反タル犯罪構成要素トナリ得ル場合ノ適症藥トハ尠クトモ其ノ疾患者ノ體質竝疾病症狀ニ從ヒ配合藥ヲ選擇シ且其ノ疾病ノ程度竝症狀ノ經過ニ基キ配合量ヲ按配シテ以テ調製シタルモノナラサルヘカラス然ルニ本件ニ於ケルカ如キ通常賣藥ハ調製ノ始メニ於テ如上ノ條件タル疾患者ノ體質症狀ノ程度等ニ適合セシメ以テ調製シタルモノニ非ス故ニ若シ本件被告人カ當該賣藥ノ封皮ヲ破リ其ノ内容(配合藥竝配合量等)ヲ檢シ以テ特定セル疾患者ノ體質竝症狀ノ程度等ニ適合シタルモノト爲シ自己ノ意志ヲ加ヘ以テ授受シタルモノトスレハ自己ノ意志ヲ加ヘタル行爲カ新ニ該藥ヲ調製シタルト理ヲ同シクスルカ故ニ斯ル場合ニ於テハ假令ソレカ賣藥ナリト雖醫業ノ所謂適症藥トナシ以テ醫師法違反ノ構成要素トナリ得ルモノナランモ本件ノ場合ハ然ラスシテ更ニ自己ノ意思ヲ加ヘタル事實ナク完全ニ封皮セラレタルママ單ニ該賣藥ノ包裝ニ記載セラレ居ル主治效能ニ準據シ其ノ包裝ニ表記セラレ居ルカ故ニ然カル症病ニ效果アルモノナラントノ假定ノ下ニ授受シタルモノナルノミナラス疾患者モ亦然カル意志ノモトニ(世常ノ通常賣藥タル事ヲ認識シ)使用若ハ服用シタルモノナルヘキ事ハ本件賣藥カ被告人又ハ被告人ノ妻ノ手ヨリ疾患者ノ手ニ授受セラレタル當時ニ於テ通常賣藥タル形態(原形)ヲ具備シ居リタル事實ヨリスルモ通念上推斷シ得ルカ

故ニ客觀的ニモ又主觀的ニモ斯ル單ナル(何等異ル所ナキ)通常賣藥ニスキサルモノヲ醫業ニ於ケル(醫師法違反構成要素トナリ得ル)適症藥ナリト判示シタルハ誤マレルモ甚シキモノナリ更ニ投與ノ點ニ付テ考フルニ投與トハ疾病治療ノ必要上疾患者カ自發的ニ使用若ハ服用ヲ欲スルト否トヲ問ハス使用若ハ服用ヲ命示シテ與フル行爲ヲ云ヒ其ノ行爲自體カ藥劑其ノモノノ賣商行爲ニ非サルカ故ニ投與若ハ投藥ト稱スルモノニシテ本件ニ於ケルカ如ク被告人ノ妻カ賣藥ヲ許可セラレ居リ販賣中ナリシ賣藥ヲ被告人カ鍼術治療中ナリシ疾患者中服用若ハ服用ヲ欲スル者ノミノ求メニヨリ包裝ニ表記セラレタル正當定價ヲ以テ賣渡シ正當定價ニ基ク料金ヲ收受シタルニ過キサレ行爲ハ社會通念上ノ所謂賣商(營業)行爲ニシテ投與若ハ投藥ト云フヲ得サルモノナル事ハ自明ノ理ナルノミナラス被告人ハ否認スルモ假ニ被告人カ記錄ニ現ハレタル如ク深澤己之吉 原田村次郎等ノ疾患者ニ對シ頭痛腰痛等疾患者ノ訴ヘニ適スヘキ(頭痛腰痛等)ヲ主治效能トシテ表記シアル(賣藥ノ存スル事ヲ告ケ使用若クハ服用スル事ニ因リテ豫想セラレル利得ヲ說述シ尙使用若ハ服用セントスル疾患者ニ對シ使用若ハ服用方法ヲ説明シタリトスルモ使用若ハ服用スル事ニ因リテ通念上豫想セラレル利得ヲ說述シ使用若ハ服用(即買求メヲ)ヲ勸ムル如キハ本件被告人ニ限ラス一般賣藥請賣業者竝其ノ使用人家族等ノ間ニ慣用セラレル所爲ニシテ一ノ營業政策トシテ當然ナスヘキ事アルヘキモノナル事ハ各賣藥請賣業者カ種々ナル手段(廣告宣傳等)ヲ勞シ多額ナル費用ヲ投シテマテモ自己營業賣藥ノ眞價ヲ例舉シ販路擴張

收益ノ増加ニ寧日ナキ現世常ヨリスルモ是認シ得ラルルノミナラス更ニ該賣藥ノ包裝ニ表記セラレタル用法ノ文字ヲ解説(即チ使用若ハ服用方法ヲ説明)スルカ如キモ賣藥請賣業者ニ對シ買求メタル賣藥ノ使用又ハ服用法ニ付テ説明ヲ求メ營業者モ又之レニ説明ヲ與フル如キハ世上ノ慣習タルヘキモノナル事ヲ社會生活上推認シ得ラルル所ニシテ營業心理竝人情ノ然ラシムルトコロナリ故ニ例ヘハ斯ノ如クナシタリトスルモ買受クルト否トハ(使用若クハ服用スルトセサルトハ)患者ノ自由ナルカ故ニ此ノ行爲自體ヲシテ投與若クハ投藥ナリト斷スルヲ得サルハモトヨリスノ如キ世常ノ慣習ニシテ營業政策トシテ當然ナスヘキ事アル行爲ノ伴ヘルカ故ニ投與又ハ投藥ナリト斷シ以テ斷罪ノ資トナスカ如キハ法ノ精神トスルトコロニアラサルヘシ若シ又原審裁判所カ被告人カ鍼術營業者ナルカ故ニ鍼術治療ノ前提行爲トシテナシタル診察行爲ヲ賣藥ヲ授受センカ爲ニナシタル診察ナリト認定シ診察行爲ト賣藥授受行爲トハ不可分ナル一ノ行爲ナリト見ナシ因テ適症藥ナリトシ投與ナリトノ見解ニ出テ以テ斷罪ノ資トナシタルモノトスレハ此ハ餘リニ事實ノ真相ヲ阻却シ重大ナル錯誤アル違法ナル認定タルヲ免レス何トナレハ被告人カナシタル診察行爲カ賣藥ヲ授受センカ爲ニナシタル診察ナリト認定ハ鍼術營業者ハ診察行爲ヲナスヲ得サルモノナリトノ誤リタル見解ヲ前提トシテナサレタル認定ナルカ故ニ既ニ錯誤アル事ハ明ニシテ從テ診察行爲ト賣藥授受行爲トヲ不可分ナル一ノ行爲ナリト見ナシタル認定モ亦自ラ覆ヘサルヘカラサルカ故ニ之ヲ以テシテモ尙本件賣藥トナシ本件ノ賣藥授受行爲ヲ

投與又ハ投藥ナリト云フヲ得サルモノナレハナリ故ニ原審判決ハ適症藥ナラサルモノヲ適症藥ナリトシ投與ナラサルモノヲ投與ナリト判定シタル違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テモ到底破毀ヲ免カレサルモノナルヘシト云フニ在レトモ

【要旨第二】

疾病ヲ診察シ之ニ適應スル投藥ヲ爲スコトハ醫術ノ範圍ニ屬スルヲ以テ苟モ醫師ノ免許ナキニ拘ラス業トシテ敍上ノ行爲ヲ爲スニ於テハ其ノ投藥カ賣藥ナルト調査合藥ナルトヲ問ハス醫師法第十一條ニ該當スルコト言フ埃タス原判決ノ認メタル事實ハ第一點所掲ノ如クナレハ假ニ被告人ノ妻カ賣藥請賣業ヲ營ミ本件賣藥カ其ノ手ヨリ患者ノ手ニ授受サレタリトスルモ記録上被告人ノ行爲ト分割シテ觀察スヘカラサル事實關係ナレハ右ハ原判示犯罪ノ成否ニ消長スル所ナキモノトス更ニ記録ヲ精査スルモ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルヲ見ス論旨理由ナシ

第四點本件ノ如キハ鍼術營業者ノ業務上ノ事犯ナルカ故ニ必スシモ醫師法ヲ適用スルヲ要セサルモノニシテ內務省令第十一號鍼術灸術營業取締規則ノ存スル以上同取締規則ヲ適用スヘキモノナルヘシ故ニ若シ本件ノ如キ事犯ヲ科罰スルノ必要アリトスレハ同取締規則第七條ノ「鍼術灸術營業者ハ業務上瀉血切開外科手術ヲ行ヒ電氣烙鐵ヲ使用シ藥品ヲ投與シ若クハ指示ヲナス事ヲ得ス」ノ禁止事項ヲ侵犯スルモノナルヤ否ニ付審判スヘキモノナルニ拘ラス原審裁判所ハ漫ラニ醫師法ニ適用シ以テ審理ヲ了シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノナルヘク原判決ハ此ノ點ニ於テモ又破毀ヲ至當トスルモノナル

ハシト云フニ在レトモ

原判決ノ認メタル事實ハ第一點ニ掲記ノ如クニシテ醫師法第十一條ニ該當スルコト疑ナキ所ナレハ鍼術營業ヲ前提トシテ法律ノ適用ヲ云爲スルハ畢竟原判示ニ副ハサル主張ニ歸ス更ニ記録ニ徵スルモ原審ニハ審理不盡ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與

1111 (120)

○偽證教唆被告事件

(昭和六年(れ)第一五四九號
同七年二月二十五日第一刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 河内

外一名 兼 辯護人 (龜山 原高次)

【第一審】 山口地方裁判所

【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

勾留期間更新決定ノ送達

○判決要旨

勾留期間更新決定書カ刑務所ノ首長ニ送達セラレタル以上ハ在監ノ被告人ニ適法ニ送達セラレタルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第八十條 書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ
民事訴訟法第六十八條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

○事實

原審相被告人山下民治同尾崎善吉ニ對スル昭和五年十二月二十六日附各勾留期間更新決定書ニハ執レモ同日附ノ山口刑務所受付印ノ押捺アリ且其ノ翌二十七日午前十一時執行濟ナル旨ノ記載ト共ニ看守長阿部年吉ノ署名捺印アリ

○主 文

勾留期間更新決定ノ送達

1111 (121)

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人河内薫辯護人龜山要上告趣意書第三點原判決ハ無効ノ證據ヲ適法ナリトシテ採用シ且審判ノ公開ニ關スル規定ニ背反シタル違法アリト信ス原判決ハ有罪ノ證據トシテ第一審被告人山下民藏同尾崎善吉ノ陳述ヲ採用セリ然レトモ右ハ孰レモ違法ノ取調ニ對スル陳述ニシテ無効ナリト謂ハサルヲ得ス然ルニ原判決ハ此ノ無効ノ證據ヲ採用シテ有責行爲ヲ判斷シタルハ違法ナリ一件記録ヲ閱スルニ右被告人民藏善吉ハ共ニ昭和五年十一月六日勾留ヲ受ケタルヲ以テ昭和六年一月六日ヨリ勾留更新ノ決定ヲ爲ササルヘカラス然ルニ第一審裁判所ニ於テハ更新ノ決定ハ之ヲ爲シタルモ被告人ニ對シ該決定ヲ示サス又之ヲ送達シタル形跡ナシ然レトモ單ニ更新ノ決定ヲ爲シタルノミニテ之ヲ被告人ニ示サス又送達セサルハ則チ刑事訴訟法第五十條ノ規定ニ違背シ結局不法ニ拘束シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ原審公判調書ニ依レハ右被告人兩名ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケサル旨記載アルモ根本ニ於テ不法ノ拘束ヲ受ケ出廷ヲ餘儀ナクセラレ不得止シテ陳述スルニ至リタルモノナレハ其ノ陳述ハ當然無効ニシテ證據力ナキモノナルノミナラス又審判ノ公開ニ關スル規定ニモ違背セルモノト謂ハサルヲ得ス左レハ原判決ハ此ノ點ニ於テモ亦違法ナリト云フニ在レトモ

本件記録中所論ノ原審相被告人山下民藏 尾崎善吉兩名ニ對シ昭和六年一月六日ヨリ勾留期間ヲ更新

【要旨】

スル旨ノ同五年十二月二十六日附各勾留期間更新決定書ヲ檢スルニ何レモ同五年十二月二十六日附ノ山口刑務所受付印ノ押捺竝看守長阿部年吉ノ署名捺印ヲ以テ同人ニ於テ其ノ翌二十七日午前十一時執行濟ナル旨ノ記載アルヲ以テ是ニ依リ右決定書ハ同刑務所ノ首長ニ送達セラレ以テ刑事訴訟法第八十條ニ依リ準用セラルル民事訴訟法第六十八條ノ規定ニ從ヒ右兩名ニ對スル適法ノ送達アリタルモノナルコトヲ知ルニ足ルカ故ニ所論ノ如キ右兩名ニ對スル不法拘束ノ事實ハ之ヲ認ムルヲ得ス從テ其ノ不法拘束ノ事實ヲ前提トシテ原判決ノ探證其ノ他ノ違法ヲ云爲スル所論ハ採用スルニ由ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松井和義關與

○偽證教唆被告事件(昭和六年(九)第一六八二號 棄却)

(昭和七年二月二十六日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 館田 謙吉 辯護人 中村 豐司

【第一審】 青森地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

豫審禁屬中爲シタル陪審請求ノ效力——偽證教唆ノ趣旨ト偽證ノ趣旨

○判決要旨

一 豫審禁屬中陪審ノ請求アリタルトキハ該請求ハ被告事件力豫審終結決定ニ依リ公判ニ付セラレ且其ノ事件力陪審法第三條ニ掲クルモノニ該ルトキハ效力ヲ生スヘキ停止條件付請求ナリト認ムヘキモノトス【要旨第一】

二 偽證教唆者八月收七百圓ナル旨證言スヘシト教唆シタルニ拘ラス偽證者八月收四五百圓ナル旨供述シタルトキハ兩者ノ趣旨ハ其ノ金額ニ於テ差異アリト雖偽證者力月收ニ付全然知ルトコロナキ場合ナルニ於テハ偽證教唆者ハ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得

ス【要旨第二】

【参照】 陪審法第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

同法第五條 第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第六十一條第一項 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處シ未決勾留日數九十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ青森地方裁判所所屬辯護士トシテ大正十年頃ヨリ肩書地居宅ニ事務所ヲ設ケ其ノ事務ニ從事中

第一 昭和四年八月頃原審相被告人瓜田金作ノ父和作ヨリ原告東海久吉被告瓜田和作間ノ弘前區裁判所昭和四年(ハ)第四五五號雇料前渡金請求事件(和作ノ娘ノ内縁ノ夫工藤茂男ハ昭和四年一月二日東海久吉ノ前主タル三浦豊太郎ヨリ和作連帶保證ノ下ニ豊太郎經營ノ北海道ノ漁場ニ於テ同年三

豫審禁屬中爲シタル陪審請求ノ效力 偽證教唆ノ趣旨ト偽證ノ趣旨

月五日ヨリ六月三十日迄勞務ニ從事スヘキ約定ニテ金六十圓ヲ借受ケナカラ逃亡シテ右履行ヲ爲ササルコトヲ理由トシテ提起セラレタル訴訟ノ訴訟代理ヲ委任セラルルヤ虚偽ノ事實ヲ構ヘ有利ナル判決ヲ得ンコトヲ圖リ同年十一月頃金作ヲシテ知人原審相被告人成田兼次郎ニ其ノ證人タルヘキコトヲ依頼セシメ翌日被告人ノ事務所ニ於テ兼次郎ニ對シ右事件ニ付證人トシテ弘前區裁判所法廷ニ出頭シタルトキハ「自分ハ工藤茂男ヲ知り居ルモノナルカ昭和四年一月二日獨狐ノ櫻庭辰三郎方ニ行ク途中工藤カ石渡カラ獨狐ニ至ル道路ヲ歩キナカラ其ノ友人ニ三浦豊太郎カラ金ヲ借リルコトニ付話ヲシテ居ルノヲ其ノ後カラ行キ同人等ニ追付キ聞キタリ其ノ話ト云フノハ工藤カ火事ノコトヲ警察カ喧シキ爲此ノ地ニ居ルコトカ出來ヌカラ何處カヘ逃ケテ行カウト思ツテ居ルカソレニ付テハ旅費カ入用タカ幸自分ハ未タ入籍シテ居ラス子供モ私生子トシテ戸籍ニツイテ居ルカラ瓜田ヲ欺シテ子供ノ籍ヲ入レルカラト云ツテ判ヲ借リ借用證書ニ押捺シテ金ヲ借リ其ノ金ヲ何處カヘ逃ケテ行カウト思ツテ居ルト申シ其ノ友人ハ工藤ニ對シ其ノ不心得ヲ意見シ居リタル旨」同人ノ全然聞知セサル且虚偽ノ事實ヲ證言スヘキコトヲ申聞ケ以テ偽證スヘキコトヲ教唆シ

同年十一月二十日右訴訟代理人トシテ兼次郎ヲ右事件ノ證人トシテ申請シ同年十二月十八日兼次郎ヲシテ弘前區裁判所ニ於テ證人トシテ宣誓ノ上其ノ旨虚偽ノ陳述ヲ爲サシメ

第二 昭和四年十二月二十七日頃弘前新聞ニ稀代ノ色魔辯護士人妻ヲ死ニ至ラシム云々ト題シテ被告

人カ事件依頼ノ爲知合トナリタル中津輕郡高杉村小枝勇ノ内縁ノ妻菊池タヨト弘前市大字東長町萬歳餅屋ニ於テ醜關係ヲ結ヒ居リタルヲ右勇ニ發見セラレタル爲右タヨハ同月二十四日縊死シタル旨其ノ他之ニ關スル記事掲載セラルルヤ右ハ勇カ社會ニ公言流布シタルニ因ルモノニシテ被告人ノ名譽ヲ毀損セラレタルモノナリトシ辯護士中村豊司ヲ訴訟代理人トシ同日勇ニ對シ名譽毀損ニ基ク損害金五百圓ノ請求訴訟ヲ提起シ弘前區裁判所昭和四年(ハ)第七六六號損害賠償請求事件トシテ繫屬スルヤ

(一) 昭和五年一月二十九日先右訴訟代理人ヲシテ原審相被告人木村其吉ヲ證人トシテ申請セシメ置キ其ノ頃前記事務所ニ於テ其吉ニ對シ右事件ノ證人タルコトヲ依頼シ證人トシテ出廷シタルトキハ被告人ノ月收ハ七百圓アル旨同人ノ全ク知ラサル且虚偽ノ事實ヲ證言スヘキコトヲ依頼シ以テ偽證スヘキコトヲ教唆シ因テ其吉ヲシテ同年二月二十六日弘前區裁判所ニ於テ右事件ノ證人トシテ宣誓ノ上被告人ノ月收ハ四五百圓ナル旨同人ノ知ラサル且虚偽ノ事實ノ陳述ヲ爲サシメ

(二) 同年二月二十六日更ニ右訴訟代理人ヲシテ原審相被告人瓜田金作ヲ證人トシテ申請セシメ其ノ頃前記事務所ニ於テ金作ニ對シタヨノ自殺原因ニ付菊池タヨカ生前肺病ナリシ噂アリタルニヨリ之ニ虚構ノ事實ヲ附加シ證人トシテ出廷シタルトキハ「タヨハ被告人勇カタヨヲ其ノ肺病ノ爲離縁スルト云フ噂アリタルニヨリソレヲ悲觀シテ死ンタト思フ被告人トタヨトノ醜關係ニ付勇ハ

其ノ現場ヲ見タ譯テモナイカラ證據不十分タト云ヒ居リタル旨」金作ノ全ク關知セサル虛偽ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ依頼シ以テ僞證スヘキコトヲ教唆シ因テ金作ヲシテ同年三月十九日弘前區裁判所ニ於テ右事件ノ證人トシテ宣誓ノ上「タヨカ自殺シタ原因ハ同人ハ肺病テ世間テハ被告人勇カソレカ爲ニ同人ヲ離縁スル噂アリシヨリソレヲ悲觀シテ死ンタト思フタヨカ死ンタ原因ハ原告トノ醜行關係ヲ被告人ニ發見セラレタ爲タト出タ新聞ノ記事ニ付テハ被告人ハ其ノ現場ヲ見タ譯テモナイカラ證據不十分タト自分及成田兼次郎ノ面前テ申シ居リタル旨」陳述セシメ

第三 右訴訟カ被告人ノ敗訴トナリ更ニ前記弘前新聞ニ其ノ後數回ニ互リ社會ヲ毒スル色魔辯護士ノ正體云々等ト題シテ被告人ノ素行等ニ關スル種々ノ記事カ掲載セラルルヤ被告人ノ名譽及信用ヲ毀損シタルモノト爲シ昭和五年四月一日同新聞ノ發行人櫻田清芽同編輯人兼印刷人石戸谷録輔該記事ノ編輯擔當者松本克己ノ三名ニ對シ金千圓ノ損害賠償請求ノ訴ヲ提記シ弘前區裁判所昭和五年(ハ)第二四二號事件トシテ繫屬スルヤ同年四月十五日頃事務所ニ於テ前記兼次郎ニ對シ該事件ノ證人トナリ出廷ノ上「自分ハ勇ヨリ聞キタルカ同人カタヨニ向ツテ原告ト御前カ同衾シタノテハナイカト聞キ糺シタル處タヨハ同衾セスト申シタル由ナリ尙勇ハ原告トタヨト關係シタコトニ付別ニ證據ハナイト話シ居リタリタヨカ縊死シタノハ同人カ肺病ヲ寢テ居リタル由故多分右病氣ヲ苦ニシテ縊死ヲ遂ケタルモノト思フ勇カ溝江三上中村等八名ノ辯護士カ自分ヲ應援シテ居ルト云フコトヲ話シ

居タルヲ聞キタル旨」兼次郎ノ全然關知セサル且虛構ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ依頼シ以テ僞證スヘキコトヲ教唆シ翌十六日兼次郎ヲ該事件ノ證人トシテ申請シ因テ同人ヲシテ同年五月七日同裁判所ニ於テ宣誓ノ上右同趣旨ノ陳述ヲ爲サシメ因テ右何レモ僞證ヲ爲サシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ各刑法第六十九條第六十一條第一項ニ該當スル所併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニヨリ犯情最モ重キ判示第三ノ刑ニ法定加重ヲ施シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處シ同法第二十一條ニヨリ未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス

本件ハ當初被告人外數名ニ對スル僞證及僞證教唆被告事件ニシテ青森地方裁判所弘前支部豫審ニ繫屬中被告人ヨリ陪審ノ請求書ヲ提出シタルモ豫審判事ハ事件ヲ右弘前支部公判ニ付スル旨ノ決定ヲ爲シ同裁判所ハ公判期日ヲ定メタルニ右期日ニ至リ之ヲ公判準備期日ニ變更シ被告人ノミニ付事件ヲ分離シ犯罪事實ヲ自白スルヤ否ヲ訊問シ自白セザリシヲ以テ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシテ青森地方裁判所ノ公判ヘ送致ノ手續ヲ爲シタリ然ルニ被告人ハ同日陪審請求ノ取下ヲ爲シ青森地方裁判所ハ普通事件トシテ之ヲ審判シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

豫審繫屬中爲シタル陪審請求ノ效力 僞證教唆ノ趣旨ト僞證ノ趣旨

辯護人中村豊司上告趣意書第一點右被告人ハ昭和五年六月二日右被告事件ニ對シ陪審裁判ヲ請求シタルニ拘ラス昭和五年九月二十九日係豫審判事ハ其ノ豫審終結決定ニ於テ右被告事件ヲ青森地方裁判所弘前支部ノ公判ニ付スト裁判シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

被告人ヨリ被告事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキ旨ノ請求ヲ爲シ得ヘキ始期ニ付テハ陪審法中何等規定スルトコロナキモ同法第五條乃至第七條等ハ孰レモ公判ヲ基礎トシテノ規定ナレハ是等立法ノ精神ニ稽フレハ右請求ハ被告事件公判裁判所ニ移リタル後該裁判所ニ對シテ之ヲ爲シ得ヘキ趣旨ナリトス蓋シ被告事件ヲ普通事件トシテ取扱フト陪審事件トシテ取扱フトハ孰レモ公判裁判所ノ手續ニ外ナラスシテ檢事ノ起訴豫審手續ニ於テハ兩者ヲ區別シテ其ノ取扱ヲ異ニスルトコロナケレハ畢竟事件ヲ取扱フヘキ裁判所ニ對シテ之カ請求ヲ爲スヘキモノトスルヲ至當トスヘケレハナリ然レトモ被告事件豫審繫屬中ト雖陪審ノ請求書ノ提出アリタルトキハ之ヲ受理スルニ妨ナキモ此ノ場合ニ於テ其ノ請求ハ被告事件カ豫審終結決定ニ依リテ公判ニ付セラレ且其ノ事件カ陪審法第三條ニ掲クルモノニ該ルトキハ效力ヲ生スヘキ停止條件付請求ナリト認ムヘキモノトス然ラハ青森地方裁判所弘前支部豫審判事カ被告人ニ對スル偽證教唆被告事件ノ審理中被告人ヨリ陪審ノ請求書ノ提出アリタルニ拘ラス豫審終結決定ニ於テ被告事件ヲ弘前支部ノ公判ニ付シタルハ正當ニシテ何等違法ノ點アルコトナシ論旨理由ナシ同第二點而シテ右弘前支部裁判所ニ於テ右豫審終結決定後右被告人ニ對シ昭和五年十月二十四日刑事

【要旨第一】

訴訟上ノ公判期日ヲ定メタル後更ニ他ノ刑事共同被告人ヨリ分離手續ナクシテ右被告人一人ニ對シテノミ同日準備公判期日ヲ定メ右期日ニ於テ被告人ニ對シ被告事件ノ犯罪事實ヲ自白スルヤ否ヲ審問シ其ノ調書ニ被告人ヲシテ署名捺印セメシタルハ違法ナリト云ヒ」同第三點右支部裁判所ニ於テ本件被告人ニ對シ公判期日ヲ定メタルニ拘ラス何等ノ裁判ヲ爲ササルハ違法ナリト云フニ在レトモ青森地方裁判所弘前支部ハ被告人等ニ對スル豫審終結決定後昭和五年十月二十四日ヲ公判期日トシテ指定シタルコト所論ノ如シト雖記録ニ依レハ被告人ハ本件被告事件ノ豫審繫屬中陪審ノ請求書ヲ提出シタルヲ以テ裁判所ハ被告人カ犯罪事實ヲ自白スルヤ否ヲ審問スル便宜上他ノ共同被告人ニ對スル事件ト分離シ右公判期日ヲ變更シテ準備公判期日ト定メ被告人ニ對シ犯罪事實ノ審問ヲ爲シタルニ自白セサリシヲ以テ同日被告人ニ對スル事件ヲ陪審ノ評議ニ付スル爲青森地方裁判所へ送致ノ手續ヲ採リタルコト明カナリ而シテ事件ノ分離期日ノ變更ハ裁判所ノ職權ニ屬スルトコロナルノミナラス既ニ事件ヲ青森地方裁判所ニ送致スル以上最初指定シタル公判期日ニ於テ何等ノ裁判ヲ爲ササリシハ固ヨリ當然ニシテ毫モ違法ノ點アルコトナシ論旨理由ナシ

同第四點右支部裁判所ニ於ケル公判準備期日ニ於テ被告人ノ管轄違申立及右辯護人ノ證人申出ニ對シテ何等ノ決定ヲ爲ササルハ違法ナリト云フニ在レトモ

所論管轄違ノ申立ノ趣旨ハ本件ニ付陪審ノ請求ヲ爲シタルヲ以テ陪審ノ評議ニ付スル爲事件ヲ青森地

方裁判所ノ公判ニ付スヘク弘前支部ニ於テ審理スヘキモノニ非スト謂フニ在リ然ルニ前項説明ノ如ク弘前支部ノ事件ヲ青森地方裁判所ニ送致セル以上管轄違ノ申立ニ對シ特ニ決定ヲ爲スノ要ナキニ至リタルヲ以テ何等ノ決定ヲ與ヘサリシニ過キス又弘前支部ハ辯護人中村豊司ヨリ申立タル證據調ニ付決定ヲ與ヘサリシコト所論ノ如シト雖記録ニ依レハ青森地方裁判所ニ對シ同辯護人及小林剛ヨリ同一ノ證據調ノ申出アリテ裁判所ハ其ノ一部ヲ許可シ他ハ却下シタルコト明白ナルヲ以テ證據調手續上何等違法ノ點存セス論旨理由ナシ

同第五點右支部裁判所ニ於テハ甲號支部ナルヲ以テ陪審事件ニ付何等ノ管轄權限ナキニ拘ラス本件請求陪審事件ニ付爾後ノ手續ヲ停止スルコトナク(昭和三年七月二十五日刑事局秘第一一二三號地方裁判所長檢事正宛司法大臣訓令)却テ決定ヲ以テ本廳タル青森地方裁判所ニ移送シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

弘前支部カ本件ヲ青森地方裁判所ヘ送致スル旨ノ決定ヲ爲シタルハ單ニ事件ヲ送致スル手續ヲ表示シタルモノニ過キスシテ何等違法ノ點アルコトナシ論旨理由ナシ

同第十點判示第二ノ(一)ノ事實ニ付キ原審判決ニ依レハ偽證犯人木村其吉ハ本件被告人ヨリ同人ノ月收ハ七百圓ナル旨教唆セラレタリトアルモ右其吉ハ月收四五百圓ト證言シタルハ之レ偽證教唆犯ヲ構成スルモノニアラス從テ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アリト云フニ在レトモ

【要旨第二】

偽證罪ハ自己ノ知ラサル事實ヲ知レリトシテ陳述スルコトニ依リテモ成立スルモノナレハ偽證教唆ノ趣旨ト偽證ノ趣旨ト多少異ナル點アリトスルモ被教唆者ノ全然知ラサル事實ヲ陳述セシムルニ於テハ偽證教唆罪ノ成立スルコト言フ俟タス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人ハ木村其吉ニ對シ被告人ノ月收七百圓ナル旨證言スヘシト教唆シ其吉ヲシテ被告人ノ月收四五百圓ナル旨同人ノ知ラサル且虛偽ノ陳述ヲ爲サシメタリト謂フニ在ルヲ以テ其吉ノ證言ト被告人ノ教唆ノ趣旨トハ其ノ金額ニ於テ多少ノ差異アリト雖其吉ハ元來被告人ノ月收ニ付全然知ルトコロナキニ拘ラス恰モ月收四五百圓アルカ如ク供述シタルハ畢竟被告人ノ教唆ニ基キタルモノナレハ被告人ハ偽證教唆ノ責任ヲ免ルルヲ得ス原審カ之ヲ偽證教唆罪ニ問擬シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ

同第十二點原審判決判示第三ノ事實タル偽證犯人成田兼次郎ハ右判示第二ノ(二)ノ事實ヲ供述セル右偽證犯人瓜田金作ノ證言ヲ傍聽(昭和五年二月二十六日)セル際右判示事實ト同趣旨ノ事實ヲ知悉セル者ナリ從ツテ既ニ右兼次郎ノ聞知セル事實ヲ更ニ教唆(昭和五年四月十六日)スルハ不可能事ナリ從ツテ之レニ付本件被告人ニ之レカ教唆犯ノ罪責ヲ科スル原審判決ハ擬律不法タルヲ免レスト云フニ在レトモ

成田兼次郎カ弘前區裁判所公判廷ニ於テ瓜田金作ノ供述ヲ傍聽シタルコトハ原判決ノ認定セサルトコロナルノミナラス縱令右事實アリタリトスルモ金作ノ供述ニ係ル事實ノ眞偽ハ兼次郎ニ於テ全然知ラ

サルトコロナルヲ以テ被告人カ兼次郎ヲ教唆シ判示第三ノ如キ供述ヲ爲サシメタルハ即兼次郎ヲシテ其ノ眞僞ヲ知ラサル事實ヲ眞實ナルカ如ク虚僞ノ陳述ヲ爲サシメタルモノニシテ右事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足り記録ニ徴スルモ右事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ從テ原審カ被告人ニ僞證教唆ノ責任アリトシ之ヲ處斷シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事南部金夫關與

○森林竊盜被告事件

(昭和六年(九)第一六八五號 棄却)
同七年二月二十六日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 玉川 利吉 辯護人

水野吉太
小藤盛太郎
伊藤一
佐竹晴記

【第一審】 高知區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

共犯ノ場合ノ森林法第八十四條ノ罰金額

○判決要旨

數人共同シテ森林法第八十四條各號ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ同條ニ依リ其ノ各自ニ對シ科スヘキ罰金ノ額ハ孰レモ贓額全額以上二倍以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス

共犯ノ場合ノ森林法第八十四條ノ罰金額

- 【参照】 森林法第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贓額以上贓額二倍以下ノ罰金ニ處ス
- 一 根株ヲ掘採、毀壞、燒毀若ハ隱蔽シ其ノ他罪跡ノ隠滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ
 - 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
 - 三 贓物ヲ燃料トシテ礦物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
 - 四 贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶車輛若ハ槓ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ
 - 五 保安林ニ於テ犯シタルトキ
 - 六 森林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ
 - 七 二人共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ
 - 八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ
 - 九 差押ノ贓物ヲ隱匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ
 - 十 夜間犯シタルトキ

○ 事 實

第二審ニ於テハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人玉川利吉 吉村傳馬ヲ各懲役三月及罰金三百五十圓被告人松岡龜次 吉村鹿次 下村豐馬 下藤繁次 明神爲清 酒井岩平 川田實之助 吉村隆男ヲ各懲役二月及罰金三百五十圓ニ處シ孰レモ三年間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫シ罰金完納不能ノ場合ハ

罰金額二圓ヲ一日ニ換算シ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人等ハ昭和三年十月共同シテ大正營林署ヨリ高知縣高岡郡橋原村字大中山横尾山及赤瀧山ノ各國有林内ニ生立スル茸木二千三百七十六本ノ拂下ヲ受ケタルモノナルトコロ右拂下茸木伐採ニ該リ共謀ノ上犯意ヲ繼續シ同年同月頃ヨリ昭和五年十月頃迄ノ間ニ數回ニ互リ前記國有林内ニ生立スル拂下以外ノ立木檜樫椎シケノブ栗合計一千二百四十二本(時價合計三百四十一圓四十二錢)ヲ盜伐シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ刑法第六十條森林法第八十四條第七號前段刑法第五十五條刑法施行法第十九條第一項第二十條第二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑及罰金額ノ範圍内ニ於テ各被告人ヲ夫々主文ノ如ク量定處斷シ諸般ノ情狀ニ鑑ミ懲役刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條ヲ適用シ各被告人ニ對シ本裁判確定ノ日ヨリ孰レモ三年間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫シ尙同法第十八條ニ則リ右各罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置日數ヲ主文ノ如ク定ムヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○ 理 由

各被告人辯護人水野吉太郎 小林盛義 伊藤一郎 佐竹晴記上告趣意書第一點原審判決ハ各被告人ニ對

共犯ノ場合ノ森林法第八十四條ノ罰金額

シ各々罰金三百五十圓ヲ科シタルハ本件贓物ノ價額ヲ金三百四十一圓四十二錢ト認定シ森林法第八十四條ニ依リ右贓額以上贓額二倍以下ノ範圍ニ於テ三百五十圓ヲ相當トシ之レヲ各被告人別ニ科セラレタルモノナリ由來普通刑罰法ニ於テ科スヘキ罰金額ヲ定メタル時ハ之レヲ各被告人ニ科スヘキハ勿論ナリト雖森林法ニ於テハ其ノ贓額ヲ基本トシテ罰金額ヲ定ムルコトトセリ蓋シ低級ナル山林地帯ノ被告人等カ計算上ノ利害ニ執著シテ犯罪ヲ敢テセンコトヲ慮リ被告人ヲシテ利得ヲ僥倖スルコトヲ得サラシムルノ主旨ニ出テタルヤ明ナリ果シテ然ラハ本件各被告人カ其ノ犯行ニ因テ得タル利得ノ總額ハ金三百四十一圓四十二錢ナルカ故ニ各被告人カ科セラルヘキ罰金ノ總額モ亦右三百四十一圓四十二錢ノ二倍ヲ超ユヘカラサルヤ勿論ニシテ原審判決ノ如ク共犯十名ノ各被告人ニ對シ各々三百五十圓ヲ科スル時ハ其ノ總額三千五百圓ノ巨額トナリ森林法第八十四條ノ規定ヲ設ケタル主旨ニ背馳スルコトトナルヘシ即チ贓額三百四十一圓四十二錢ノ二倍以下ノ範圍ニ於テ適當ナル金額ヲ定メ該金額ヲ各被告人ニ分擔科罰スヘキモノニシテ原判決ハ前記法條ノ主旨ニ違背セル違法ノ判決ナリトスト云フニ在レトモ

【要旨】

森林竊盜ニシテ森林法第八十四條各號ノ場合ニ該當スルトキハ同條ノ刑ヲ以テ處斷セラルヘク同條ハ贓額ヲ以テ罰金額ノ範圍ヲ定ムル標準トナスモノニシテ共犯ノ場合ト雖各自所定ノ懲役刑並斂上ノ標準ニ依リ定マル罰金刑ノ範圍内ニ於テ處斷セラルヘキハ當然ナリ其ノ共犯者間ニ罰金ヲ分擔科罰スヘ

シトナスカ如キハ何等謂ナキ議論ニシテ採用スヘキニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事南部金夫關與

○傷害及不法逮捕被告事件 (昭和六年(九)第一七〇六號 棄却)
 (同七年二月二十九日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 中村長一郎 辯護人

高島春二
 大泉信
 阪口亮人

【第一審】 長岡區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

不法逮捕罪ト繼續犯

不法逮捕罪ト繼續犯

○判決要旨

不法逮捕罪ノ成立ニハ自由ノ束縛力多少ノ時間繼續スルヲ必要トス

【参照】刑法第二百二十條第一項 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ全國農民組合高柳支部長ナルトコロ昭和六年七月十九日施行ノ新潟縣刈羽郡高柳村大字漆島ノ區長選舉ニ際シ右農民組合支部ノ組合員ヨリ推薦ヲ受ケテ立候補シ地主側ノ候補者米山稔ト競争運動中同組合員ニシテ右米山稔ノ分家ニ當ル米山角治カ昭和六年四月施行セラレタル農會代議員ノ選舉ニ當リ地主側ノ候補者ニ應援シ同組合ニ對シ背信的行爲ヲ執リタルノミナラス右區長選舉ニ際シテモ米山稔ノ爲ニ運動シ裏切的行動ヲ爲シ居ルモノト思惟シ同年七月十六日夜同大字青年俱樂部二階ニ於テ角治ニ對シ其ノ不信ヲ責メ足ヲ掛ケテ同人ヲ押倒シ拳骨ヲ以テ同人ノ頭部顔面部等ヲ殴打シタル上尙同所ニ於テ不法ニモ藁繩ヲ以テ角治ノ兩足ヲ縛リ約五分間制縛シテ引摺リ廻シ因テ同人ニ對シ全治五日乃至七日位ヲ要スル右顛頂部ヨリ顛顛部ニ互ル腫張右顛頂部ニ二錢銅貨大ノ腫張左右肘關節後側

ニ縱走セル爪痕左足下端外顆上ニ腫張等ノ傷害ヲ負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中傷害ノ點ハ刑法第二百四條ニ不法逮捕ノ點ハ同法第二百二十條第一項ニ各該當スルトコロ以上ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大泉信 阪口亮人 高島春二上告趣意書第一點上告人ハ昭和六年七月十六日ノ夜新潟縣刈羽郡高柳村大字青年俱樂部二階ニ於テ被害者米山角治ニ對シ農民組合員トシテノ背信行爲ヲ責メタル際上告人カ興奮ノ餘リ被害者米山角治ノ頭部其ノ他ヲ拳骨ニテ殴リ且同人ノ兩足ヲ繩ヲ以テ縛シ同人ノ頭部其ノ他ニ僅カニ腫張ノ傷害ヲ與ヘタル所爲ニ對シ原審ニ於テハ上告人ノ所爲中傷害ノ點ハ刑法第二百四條ニ不法逮捕ノ點ハ同法第二百二十條第一項ニ各該當スルトコロ以上ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段同法第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ云々ト斷シ上告人ヲ懲役三月ニ處シタリ按スルニ上告人ノ所爲ハ被害者米山角治ニ對シ其ノ背信行爲ヲ責メ

不法逮捕罪ト繼續犯

タル際興奮ノ餘リ暴行ヲ加ヘタル上繩ヲ以テ兩足ヲ縛シタルモ直ニ解キタルモノニシテ所謂不法逮捕罪ノ構成要件タル被害者ノ自由ノ拘束タル時間ノ觀念ナルモノヲ認ムルコトヲ得サルナリ故ニ右上告人ノ所爲ハ原審ノ斷スル如ク重キ傷害ノ罪ト不法逮捕ノ罪ノ二罪ニ該當スル所爲ニ非スシテ輕キ單純暴行ノ一罪ヲ構成スルニ過キサレハ原審公判廷ニ於ケル上告人ノ犯意ノ供述及其ノ結果ノ輕微ナル點等ヨリ明ナリ然ルニ原審ニ於テハ之ヲ右ノ如ク二罪ト判定シ刑法第五十四條第一項前段同法第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ニ從ヒ處斷シタルハ法令ニ相反シタルモノナリト云フニ在リ

【要旨】

按スルニ逮捕ニハ多少ノ時間繼續シテ自由ヲ束縛スルノ觀念ヲ包含スルモノニシテ單ナル一瞬時ノ拘束ハ暴行罪ヲ構成スルコトアルヘキモ逮捕罪ノ成立ヲ見ルコトナシ而シテ原判決カ證據ニ依リ認メタル事實ハ被告人ハ不法ニモ藁繩ヲ以テ米山角治ノ兩足ヲ縛リ約五分間制縛シテ引摺リ廻シタリト云フニ在リテ論旨ニ所謂被告人ハ角治ノ兩足ヲ縛リタルモ直ニ解キタリトノ事實ノ如キハ原判決ノ認メサル所ナリ即チ右判示事實ニ依レハ被告人ハ數分間繼續シテ角治ノ身體ノ自由ヲ拘束シタルコト明ナルヲ以テ其ノ行爲ハ刑法第二百二十條第一項ノ不法逮捕罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス然ラハ其ノ不構成ヲ前提トシテ原判決ヲ攻撃スル論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事岩松玄十關與

○公私文書偽造行使詐欺被告事件

(昭和六年(九)第一七四〇號
同七年三月四日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 沖本 重度 辯護人 松本 慧

【第一審】 廣島地方裁判所尾道支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

印鑑ノ作成名義人ノ變改ト印鑑及印鑑證明書ノ偽造

○判決要旨

印鑑證明書ニ援用セル印鑑力同一用紙ニ顯出セラレアル場合ニ於テ其ノ印鑑ノ作成名義人ヲ擅ニ變改スルトキハ印鑑偽造ト印鑑證明書偽造トノ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトス

【參照】 刑法第一百五十五條第一項 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ

印鑑ノ作成名義人ノ變改ト印鑑及印鑑證明書ノ偽造

署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第五十九條第一項 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ニ於テハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中五十日第二審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス押收品中金子借用證書一通(證第七號)借用證書四通(證第八號乃至第十一號)抵當權設定金借用證書一通(證第六號)登記申請書(證第四號中)ノ各偽造部分及委任狀(證第四號中沖本一眞名義ノモノ)ハ何レモ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和五年十一月頃其ノ實弟沖本一眞ヨリ金百圓許リノ金借周旋ノ依頼アリタルヲ奇貨トシ一眞ノ爲ニ金借スルモノノ如ク裝ビテ他人ヨリ金員ヲ騙取シテ自己ノ遊興費ニ充テントコトヲ企テ(第一乃至第四省略)

第五 同年五月上旬頃仲介人西本仁平ヲ介シ同郡木ノ江町岸本牛太郎ニ對シ一眞所有ノ前記土地及外

二筆ノ不動産ヲ同人ニ於テ擔保ト爲スコトヲ承諾セル如ク虛偽ノ事實ヲ告ケシメ一眞ノ爲金七百圓ヲ借入ルルモノノ如ク申込マシメ其ノ貸與方ノ承諾ヲ得タル後行使ノ目的ヲ以テ其ノ登記ニ要スル一眞名義ノ印鑑證明書ヲ偽造センカ爲其ノ頃肩書被告人方ニ於テ豫テ被告人カ交付ヲ受ケ居リタル短冊形用紙ニテ豊田郡西野村長ノ署名捺印ヲ爲シテ被告人名義ノ印鑑證明ヲ爲シアリタル印鑑證明書中印刷文字以外ノ村吏員手記ノインキニテ記載シアル文字ヲ洗濯曹達水ニテ洗落シ其ノ用紙表面被告人ノ印鑑ヲ押捺シアル下部ニ一眞ノ住所氏名生年月日ヲ記載シテ上部ノ印鑑ヲ一眞ノ印影タル如ク偽造シ且裏面村長名義ノ既存ノ印鑑證明文書ヲ利用シ之ヲ前證明ト別異ノ效力アル西野村長ノ署名捺印アル一眞名義ノ印鑑證明タル效力アル文書ノ如ク偽造シタル上同年同月九日同郡木ノ江町ニ於テ情ヲ知ラサル代人竹本一雄方ニ於テ

(イ) 一眞ヨリ小川政之進ニ對シ前掲不動産ニ付抵當權設定登記申請ヲ委任スル旨ノ委任狀一通(證第四號中)

(ロ) 一眞ノ代理人タル小川政之進名義ニテ該不動産ニ付抵當權設定登記ヲ爲スヘキ旨ノ登記申請書一通(證第四號中)

(ハ) 借主一眞ヨリ牛太郎宛金七百圓ノ抵當權設定金借用證書一通(證第六號)
ヲ各代書セシメ(イ)(ハ)ノ文書ニ付テハ各一眞名下ニ前各項記載ノ印ヲ押捺シ又(ロ)ノ文書

印鑑ノ作成名義人ノ變改ト印鑑及印鑑證明書ノ偽造

ニ付テハ政之進ノ押印ヲ爲サシメ依テ右各文書ノ偽造ヲ完成シタル上同日右委任狀申請書七百圓ノ借用證書ヲ偽造印鑑證明書ト共ニ竹原區裁判所木ノ江出張所ニ同時ニ一括シテ提出行使シ情ヲ知ラサル登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ其ノ旨ノ抵當權設定登記アリタル旨不實ノ記載ヲ爲サシメテ即時之ヲ同所ニ備付行使セシメタル後牛太郎ヲシテ該登記ハ一眞ノ承諾ノ下ニ適法ニ爲サレタルモノノ如ク誤信セシメテ欺罔シ因テ同日同町植田料理店ニ於テ牛太郎ノ代理人タル仁平ノ手ヨリ金七百圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタルモノナリ

而シテ右所爲中私文書ノ偽造其ノ行使詐欺ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス法律ニ照スニ被告人ノ右所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第五百九條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百九條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ公文書偽造ノ點ハ同法第五百五十五條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十五條第一項ニ登記簿原本ニ不實記載ヲ爲サシメタル點ハ同法第五百五十七條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十七條第一項ニ各該當スルトコロ判示第五ノ偽造公私文書ノ行使ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ依ルヘク右偽造私文書行使ノ所爲ト判示第一乃至第四ノ偽造私文書行使ノ所爲判示第一乃至第五ノ私文書偽

造ノ所爲判示第一乃至第五ノ詐欺ノ所爲ハ何レモ夫々連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ各一罪ト爲シ以上公私文書ノ偽造其ノ行使登記簿原本ニ不實記載ヲ爲サシメタル點其ノ行使及詐欺ノ點ハ相互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ主文ノ如ク處斷シ尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日當審ニ於ケル同勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ各算入スヘク押收品中主文特記ノモノハ何レモ本件偽造私文書行使罪ノ組成物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ據リ何レモ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人松本慧上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由第五ニ於テ「被告人カ豫テ交付ヲ受ケ居リタル短冊形用紙ニテ豊田郡西野村長ノ署名捺印ヲ爲シテ被告人名義ノ印鑑證明ヲ爲シアリタル印鑑證明書中印刷文字以外ノ村吏員手記ノインキニテ記載シアル文字ヲ洗濯曹達水ニテ洗落シ其ノ用紙表面被告人ノ印鑑ヲ押捺シアル下部ニ一眞ノ住所氏名年月日ヲ記載シテ上部ノ印鑑ヲ一眞ノ印影タル如ク偽造シ且裏面村長名義ノ既存印鑑證明文書ヲ利用シ之ヲ前證明ト別異ノ效力アル西野村長ノ署名捺印アル一眞

印鑑ノ作成名義人ノ變改ト印鑑及印鑑證明書ノ偽造

名義ノ印鑑證明タル効力アル文書ノ如ク偽造シタル旨判示シ之ニ對シ刑法第五十五條第一項ヲ以テ處斷セラレタリ然レトモ右被告人ノ所爲ハ刑法第五十五條第一項ノ公文書偽造ニアラスシテ刑法第五十九條第一項ノ私文書ノ偽造ニ該當スルモノナリ即原判決ハ此ノ點ニ於テ擬律ノ錯誤ニ依リ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリ抑モ印鑑證明ハ印鑑用紙ニ特定人カ自己ノ使用スル印章ノ影迹ヲ紙上ニ顯出セシメ其ノ印章ハ自己ノ印章ニ係ル旨ヲ表示スル一種ノ私文書ニシテ之ヲ當該公務員ニ提出シ公務員カ右印影ハ提出者カ届出テアル印章ノ印影ト相違ナキコトノ證明ヲ與フルモノニシテ其ノ印章並其ノ印章ニ掲記セル氏名等ト當該公務員ノ證明部分トハ各獨立的存在並効力ヲ有シ兩者ヲ合シテ一箇ノ公文書ト見做スヘキモノニアラス蓋斯ノ如キ文書ニ在リテハ其ノ私文書的部分ハ公文書ノ内容ヲ爲スモノナリト雖文書ニ示サレタル意思表示ノ性質ヨリ論スレハ其ノ文書ハ私文書ト公文書トノ兩者ヲ併セタルモノト謂ハサルヘカラス從テ公務員ノ證明部分ハ公文書ナリト雖夫レ以外ノ印章並署名等ノ部分ハ私文書ト見ルヘキモノニシテ假令公務員ニ於テ證明以外ノ部分ヲ手記シ之ニ對シ證明ヲ附與スル場合ト雖公文書ノ一部ニ化體スルモノニアラス故ニ他人カ印章並署名ヲ偽造シ不法ニ印鑑證明書ヲ作成スル行爲ハ私文書偽造ヲ以テ論スヘキモノナリ而シテ本件被告人ノ所爲ハ西野村長ノ與ヘタル證明部分ヲ存置シ單ニ署名部分ノミヲ改變シタルモノナルカ故ニ私文書ノ偽造ニシテ公文書ノ偽造ニアラス然ルニ原院ハ之ヲ以テ公文書ノ偽造ナリト斷シ刑法第五十五條第一項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯

誤ニシテ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨】

按スルニ印鑑ハ個人カ其ノ提出セル印影ハ自己ノ實印ナル旨ノ意思ヲ表示セル私文書ニシテ又印鑑證明書ハ相當公務員ニ於テ個人ノ提出ニ係ル印影カ其ノ實印ニ相違ナキコトヲ證明スル公文書ナレハ縱令印鑑カ別紙ニ存スルト印鑑證明書中ニ顯出セラレアルトヲ問ハス印鑑ハ證明書トハ全ク別箇ノ文書ニシテ印鑑カ證明書ニ化體スルモノニ非サルコトハ洵ニ所論ノ如シ然レトモ印鑑證明書ハ其ノ證明事項トシテ右印鑑文書ノ内容ニ屬スルモノヲ援用セルモノニ外ナラサレハ既存印鑑證明書ノ援用セル印鑑ノ名義人ヲ擅ニ他人名義ニ變改シ新ナル印鑑ト爲スニ於テハ之レ即チ印鑑ノ偽造タルト同時ニ印鑑證明書ノ援用事項ハ變更セラレ變更前ノ證明書ト全然別異ノ證明力ヲ有スルニ至ルヲ以テ其ノ行爲ハ既存證明書ニ存スル公務員ノ署名印章ヲ不正ニ使用シテ新ニ一ノ印鑑證明書ヲ偽造シタルモノト云ハサルヘカラス今之ヲ本件ニ付査スルニ原判示第五ノ事實ハ被告人カ豫テ交付ヲ受ケ居リタル短冊形用紙ニテ廣島縣豊田郡西野村長ノ署名捺印ヲ爲シテ被告人名義ノ印鑑證明ヲ爲シアリタル印鑑證明書中印刷文字以外ノ村吏員手記ノインキニテ記載シアル文字ヲ洗濯曹達水ニテ洗落シ其ノ用紙表面被告人ノ印影ヲ顯出シアル下部ニ沖本一眞ノ住所氏名生年月日ヲ記載シテ上部ノ印影ヲ一眞ノ印影タル如ク偽造シ且裏面村長名義ノ既存ノ印鑑證明文書ヲ利用シ之ヲ前證明ト別異ノ効力アル西野村長ノ署名捺印アル一眞名義ノ印鑑證明タル効力アル文書ノ如ク偽造シタリト云フニ在リテ原判決ハ印鑑ノ偽造及

印鑑證明書ノ偽造ヲ共ニ認定シタルコト明ナルノミナラス其ノ擬律ノ部ヲ查スルニ右印鑑ノ偽造ニ對シテハ刑法第五十九條第一項ヲ右印鑑證明書偽造ニ對シテハ同法第五十五條第一項ヲ夫々適用セラルコト判文自體ニ徴シテ明ナリ然ラハ原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

同第二點原判決ハ其ノ理由第五ニ於ケル前述ノ所爲ニ對シ刑法第五十五條第一項ヲ以テ處斷セラレタリ然レトモ印鑑證明カ全體トシテ公文書ナリトスルモ被告人ノ所爲ハ同條第一項ノ偽造ニアラスシテ同條第二項ノ變造ニ該當スルモノナリ即チ原判決ハ此ノ點ニ於テ擬律ノ錯誤ニ依リ罪種ノ判斷ヲ誤リタル違法アリ抑モ文書ノ偽造トハ真正ナル文書ヲ基礎トセスシテ他人ノ作成名義ヲ詐リ新ニ不法ナル文書ヲ作成スルコトヲ謂ヒ文書ノ變造トハ既存ノ真正ナル文書ヲ基礎トシ之ニ對シ其ノ文書ノ本質ヲ變更セサル範圍内ニ於テ不法ニ其ノ内容ニ變更ヲ加フルコトヲ謂フモノニシテ其ノ内容變更ノ手段方法如何ハ之ヲ問ハス抹消訂正挿入貼付洗滌其ノ何レタルニモセヨ既存ノ文書ノ本質ヲ改變セサル限リ又其ノ既存ノ文書カ效力ヲ消滅シテ廢紙ニ歸シタルモノニアラサル限リハ其ノ内容ヲ増減變換シテ其ノ文書ノ證明力即チ其ノ文書ノ内容タル權利關係其ノ他ノ效力態様ヲ如何ニ變更スルモ之ヲ文書變造ヲ以テ論スヘキモノナリ然ラハ本件被告人ノ所爲ニ付テ之ヲ觀ルニ被告人ノ所爲ノ目的物タル印鑑證明書ハ正式ニ作成權アル公務員ヨリ下付セラレタル真正ノ文書トシテ印鑑證明書トシテ有效ナル文

書タリ而シテ被告人ハ之ヲ其ノ本質即チ印鑑證明書タル性質ヲ變更スルコトナク且作成者タル公務員即チ豊田郡西野村長ノ作成名義ヲ變更スルコトナク單ニ其ノ内容タル被證明者ノ氏名住所生年月日等ヲ變更シタルニ止マリタルモノニシテ之ヲ變更ト論スルノ適切ニシテ何等文書偽造ト見ルヘキモノニアラス之ヲ要スルニ本件被告人ノ所爲ハ公文書ノ變造ニシテ偽造ニアラス然ルニ原院ハ之ヲ偽造ト誤判シ法律ヲ適用スルニ刑法第五十五條第一項ヲ以テシタルハ科刑ノ範圍ニ於テハ偽造トノ間彼是何等ノ差異ナシト雖擬律ノ錯誤アリ原判決ハ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

文書偽造罪ハ他人ノ作成名義ヲ詐ハリ新ニ文書ヲ作成シタル場合ノミニ成立スルモノニ非スシテ縱令既存正當ノ文書ヲ變更スル場合ト雖作成名義若ハ其ノ他重要ナル點ヲ變更シ爲ニ其ノ變更前ノ文書ト全然別異ナル證明力ヲ有スル文書ト爲ストキハ文書ノ偽造ニシテ變造ニ非ス而シテ原判決ノ認定セル所ハ前點ニ於テ說示セル如クニシテ被告人ハ本件既存印鑑證明書ヲ援用セル既存印鑑ノ名義人ヲ擅ニ他人名義ニ變改シ新ナル印鑑ト爲スコトニヨリ右印鑑證明書ヲシテ全然別異ノ證明力ヲ有スルニ至ラシメ其ノ變更前ノ文書ト全然別箇獨立ナル一ノ新ナル文書ト爲シタルモノナレハ被告人ノ該行爲ハ敍上ノ理由ニ依リ印鑑證明書ノ偽造罪ヲ構成スルコト洵ニ明白ナリトス然レハ原判決カ被告人ノ右行爲ニ對シ刑法第五十五條第一項ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事南部金夫關與

○科料納付命令ニ對スル疑義竝異議申立事件ニ對スル抗告事件

(昭和七年(一)第一〇號 棄却)
同年三月八日第四刑事部決定

【被告人】 山村清作

【原 審】 廣島控訴院

○判示事項

裁判所構成法第五十條第一ノ(ロ)ノ適用

○決定要旨

地方裁判所ノ第二審判決ニ對スル疑義又ハ裁判ノ執行ニ關スル檢

事ノ處分ニ對シ異議申立アリテ同裁判所之ニ對シ決定ヲ爲シタル
場合該決定ニ對スル抗告裁判所ハ裁判所構成法第五十條第一ノ(ロ)
ノ規定ニ依リ大審院ナリトス

【参照】 刑事訴訟法第五百六十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルト

キハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

同法第五百六十二條 裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人、若ハ夫執行

ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申

立ヲ爲スコトヲ得

同法第五百六十四條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決

定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判所構成法第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(ロ) 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令並ニ控訴院ノ決定及命令ニ

對スル法律ニ定メタル抗告

○事實

抗告人ハ抗告人ニ對スル石川縣令活動寫眞取締規則違反被告事件ニ付金澤地方裁判所カ第二審トシテ
爲シタル判決ニ基ク裁判ノ執行ニ關スル同裁判所檢事ノ處分ニ對シ同裁判所ニ異議竝疑義ノ申立ヲ爲
シタル所同裁判所ハ該申立ヲ理由ナシトシテ棄却シタリ因テ抗告人ハ該決定ニ對シ名古屋控訴院ニ即

裁判所構成法第五十條第一ノ(ロ)ノ適用

時抗告ノ申立ヲ爲シタル所同院ハ右決定ニ對スル抗告裁判所ハ大審院ナリトシテ之ヲ棄却シタリ

○主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

抗告人ハ當院ニ宛テタル上告申立書ト題スル書面ヲ名古屋控訴院ニ提出シ該書面ニハ抗告人ハ金澤地方裁判所檢察局ノ發シタル科料納付命令ニ對シ異議アリ曩ニ名古屋控訴院ニ抗告シタル所昭和七年一月三十一日抗告棄却決定ノ送達ヲ受ケタルニ因リ不服ニ付上告スル旨ノ記載アレトモ右抗告ニ對スル決定ニ對シテハ即時抗告ハ之ヲ爲シ得ルモ上告ヲ爲シ得ヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ上告ノ申立トシテハ不合法タルヲ免レス然レトモ當院ハ右上訴ノ趣旨ハ之ヲ即時抗告ニ在リト解シ一件記録ニ付之ヲ査スルニ本件ハ抗告人カ曩ニ抗告人ニ對スル石川縣令活動寫真取締規則違反被告事件ニ付金澤地方裁判所檢察ノ爲シタル處分ニ對シ同裁判所ニ異議竝疑義ノ申立ヲ爲シ其ノ理由トシテ抗告人ハ抗告人ニ對スル前示被告事件ニ付昭和六年九月十一日言渡サレタル右裁判所ノ第二審判決ニ對シ同月十二日上告ノ申立ヲ爲シタル所當院ヨリ同年十一月二十一日午前十時公判開廷ノ通知アリタルヨリ同月一日上告趣意書ヲ提出シタリ然ルニ其ノ後何等判決又ハ決定ヲ受ケサル内同年十二月四日右金澤地方裁判所檢察局ヨリ科料金五圓裁判費用金二圓八十錢ノ納付命令ヲ受ケタルヲ以テ檢察ノ右處分ニ對シ疑義竝異議

ノ申立ヲ爲ス旨主張シタル所同裁判所ハ右被告事件ノ上告事件ハ既ニ昭和六年十二月二日當院ニ於テ上告棄却ノ判決アリ確定シタルコト檢察總長ヨリ金澤地方裁判所檢察正宛書面ノ謄本ニ依リ明白ナルヲ以テ右異議申立ハ理由ナシトシテ之ヲ棄却シ抗告人ハ該決定ニ對シ原院ニ即時抗告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ原院ハ本件ハ當院ノ管轄ニ屬シ原院ノ管轄ニ非ストシテ之ヲ棄却シタルモノナリ仍テ原院ノ爲シタル右決定ノ當否ヲ按スルニ裁判ノ解釋ニ付テノ疑義又ハ裁判ノ執行ニ關スル檢察ノ處分ニ對スル異議申立ハ本案ニ付有罪ヲ言渡シタル判決ヲ基礎トスルモノナルヲ以テ金澤地方裁判所カ第二審トシテ前示被告事件ノ本案ニ付判決ヲ爲シタル以上ハ之ニ關スル疑義又ハ異議ノ申立ニ付爲シタル決定モ亦第二審トシテ與ヘタルモノト云フヘク從テ該決定ニ對スル抗告裁判所ハ裁判所構成法第五十條第一ノ(ロ)ノ規定ニ依リ當院ナルニ拘ラス原院ニ抗告ヲ爲シタルハ失當ナルヲ以テ之ヲ棄却シタル原決定ハ相當ナリトス然レハ該決定ニ對スル本件抗告ハ固ヨリ其ノ理由アルコトナシ仍テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ依リ主文ノ如ク決定ス

【要旨】

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和七年(九)第一二二號 棄却)

(同年三月十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 安永徳次郎 辯護人 (三) 鶴田英夫

【第一審】 福岡區裁判所 外十五名 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

特定ノ政黨ヨリ立候補スヘキ者ニ對スル投票ノ依頼等ト衆議院議員選舉法第二百二十九條第一百十二條ノ犯罪ノ成立

○判決要旨

特定ノ選舉區ニ於テ或政黨ヨリ議員候補者トシテ立候補スヘキ者不日確定スヘキ場合ニ於テ其ノ者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ投票ヲ依頼シ響應ヲ爲シタルトキハ衆議院議員選舉法第二百二十九條第一百十二條第一號ノ犯罪成立シ情ヲ知りテ其ノ響應ヲ受ケタル選舉人ニ對シテハ同法第一百十二條第四號ノ犯罪成立ス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此

ノ限ニ在ラス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四

條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込者ハ約束ヲ爲シ又ハ響應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、響應接待ヲ受ケ若ハ要求シ第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人徳次郎 久次郎ヲ各罰金七十圓被告人卯一郎 良助 榮作ヲ各罰金四十圓被告人惣次郎 宅次 又三郎 文吉 喜八郎 政吉 嘉十 喜一郎 七郎 佐七郎 稔ヲ各罰金二十圓ニ處ス 右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間各被告人ヲ勞役場ニ留置ス 被告人惣次郎 宅次 又三郎 文吉 喜八郎 政吉 嘉十 喜一郎 七郎 佐七郎 稔ヨリ各金六十七錢ヲ追徴ス 右被告人惣次郎以下十一名ニ對シテハ衆議院議員選舉法第三百七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

特定ノ政黨ヨリ立候補スヘキ者ニ對スル投票ノ依頼等ト衆議院議員選舉法第二百二十九條第一百十二條ノ犯罪ノ成立

第一 被告人安永徳次郎及林久次郎ハ昭和六年九月二十二日施行セラレタル福岡縣縣會議員選舉ニ付同被告人等ノ選舉區タル同縣早良郡ニ於テハ政友會ヨリ土斐崎三右衛門 柴戸徳太郎ノ兩名ノ内孰レカ一名カ立候補スヘキコトヲ豫期シ近日立候補届出ヲ爲スヘキ右兩者ノ内一名ノ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ酒食ノ饗應ヲ爲シ同候補者ヘノ投票ヲ依頼センコトヲ協議シ被告人林久次郎ハ其ノ旨ヲ以テ被告人梶原榮作ト談シ其ノ結果ニ基キ榮作ヨリ更ニ被告人結城卯一郎及結城良助ニ對シ其ノ旨ヲ語ラヒ何レモ意思ノ一致ヲ見茲ニ以上ノ被告人五名ハ順次ニ通謀ノ上同月一日ノ夜早良郡脇山村字志水ナル被告人結城喜八郎方ニ選舉人ナル同被告人及被告人林惣次郎宮島宅次 結城又三郎 梶原文吉 結城政吉 結城嘉十 結城喜一郎 結城七郎 結城佐七郎 結城稔ノ十一名ノ者ヲ招待シ其ノ席上ニテ同人等ニ對シ右選舉ニハ政友會ヨリ立候補スヘキ議員候補者ニ投票セラレタキ旨依頼シ自己等ノ分ヲモ併セテ總計金十二圓九十錢相當ノ酒食ノ饗應ヲナシ

第二 被告人林惣次郎 宮島宅次 結城又三郎 梶原文吉 結城喜八郎 結城政吉 結城嘉十 結城喜一郎 結城七郎 結城佐七郎 結城稔ノ十一名ハ孰レモ前記縣會議員選舉ノ選舉人ナルトコロ前項記載被告人安永徳次郎等五名ヨリ前記ノ日前記場所ニ於テ前記依頼ノ趣旨ノ下ニ爲セルモノナルコトノ情ヲ知リテ前記酒食ノ饗應ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人安永徳次郎 林久次郎 結城卯一郎 結城良助 梶原榮作ノ判示所爲中饗應ノ點ハ各

刑法第六十條府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ該當シ尙右立候補届出以前ノ無資格選舉運動ナルヲ以テ其ノ點ハ各府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一百二十九條ニ該當スルトコロ以上ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ孰レモ重キ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ノ刑ニ從フヘク其ノ他ノ各被告人ノ所爲ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ニ該當スルヲ以テ以上各被告人ニ對シテハ夫々所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ニ付テハ刑法第十八條ニ則リ其ノ期間ヲ定メ被告人林惣次郎 宮島宅次 結城又三郎 梶原文吉 結城喜八郎 結城政吉 結城嘉十 結城喜一郎 結城七郎 結城佐七郎 結城稔ノ十一名ニ對シテハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百四條ヲ適用シ同被告人等ヨリ各金六十七錢ヲ追徴スヘク尙右十一名ノ被告人ニ對シテハ情狀ニ因リ選舉權及被選舉權ヲ停止セサルヲ相當ト認メ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三十七條第二項ニ則リ同條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ宣告ヲ爲スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

特定ノ政黨ヨリ立候補スヘキ者ニ對スル投票ノ依頼等ト衆議院議員選舉法第一百二十九條第一百十二條ノ犯罪ノ成立 一六一 (九九)

各被告人辯護人鶴田英夫 三好彌六上告趣意書第二點原審判決事實第二トシテ被告人林惣次郎 宮島宅次 結城又三郎 梶原文吉 結城喜八郎 結城政吉 結城嘉十 結城喜一郎 結城七郎 結城佐七郎 結城稔ノ十一名ハ孰レモ前記縣會議員選舉ノ選舉人ナルトコロ前記被告人安永徳次郎等五名ヨリ前記日前記場所ニ於テ前記依頼ノ趣旨ノ下ニ爲セルモノナルコトノ情ヲ知リテ前記酒食ノ饗應ヲ受ケタルモノナリト判示シ同被告等ニ於テ該饗應カ被告人安永徳次郎 林久次郎 梶原榮作 結城卯一郎 結城良助等ヨリ判示趣旨ノ下ニ爲サレタルコトノ情ヲ知リテ之ヲ受ケタルモノナリトノ點ニ關スル事實認定ノ證據トシテ被告人惣次郎同宅次同又三郎同文吉同喜八郎同政吉同嘉十同喜一郎同七郎同佐七郎同稔ニ對スル檢事ノ各聽取書(但喜八郎 政吉 嘉十 稔ニ對シテハ各第一二回聽取書) 及判示第一ノ事實認定ニ引用シタル全證據ヲ各引用スト雖一、判示第一事實中共謀ノ點ニ付原審判決ニ理由不備ノ點アルコトハ第一點ニ於テ既ニ説明セル所ナルヲ以テ右點ニ關シ引用セラレタル全證據カ從テ亦被告人惣次郎以下十一名カ判示ノ如キ依頼ノ趣旨ノ下ニ爲セルモノナルコトノ情ヲ知リタリト云フ證據タリ得可ラサルコト茲ニ重複説明ノ要ナシニ、被告人惣次郎以下十一名(但喜八郎 政吉 嘉十 稔ニ對シテハ各第一二回聽取書)ノ檢事聽取書記載供述中知情ノ點ニ關スル陳述ノ要旨ハ大體原審判決ノ此ノ點ニ關スル證據摘示ノ如ク饗應ノ前記日時場所ニ於テ林久次郎カ今度ノ選舉ニハ政友會ニ入レテ吳レヌカ又ハ政友會ノ候補ニ入レテ吳レト謂フカ如キ趣旨ノ供述ニシテ判示事實ノ如キ政友會ヨリ土斐崎三右衛門

柴戸徳太郎ノ兩名ノ内孰レカ一名カ立候補スヘキ場合同候補ヘノ投票ヲ依頼センカ爲ノ饗應ナルコトノ情ヲ知リタリト云フ事實認定ノ證據トナラス蓋後ニモ説明スルカ如ク假ニ政友會ヨリ該選舉區ニ於テ立候補スヘキモノアリトスルモ(立候補ナキ場合モアリ得ヘシ)果シテ何人カ立ツカ又果シテ何名立ツカ豫測シ得可ラサル場合ニ於テ單ニ「政友會ノ候補ニ投票シテ吳レ」ト云フカ如キ供述ヲ以テ直ニ或特定ノ候補者ヘ對スル投票依頼ノ證據トナシ得サルコトハ理論上洵ニ明ナリト信ス果シテ然ラハ原審判決ハ前顯事實ノ認定ニ於テ證據ニ據ラサル理由不備ノ點アリト謂ハサル可カラスト云フニ在レトモ

原審判決示第二事實ノ趣旨ハ被告人惣次郎 宅次 又三郎 文吉 喜八郎 政吉 嘉十 喜一郎 七郎 佐七郎 稔ノ十一名ハ昭和六年九月二十二日施行セラレタル福岡縣縣會議員選舉ニ際シ孰レモ選舉區早良郡内ノ選舉人ナルトコロ被告人徳次郎 久次郎 榮作 卯一郎 良助ヨリ同月一日夜被告人喜八郎方ニ於テ右選舉ニハ右選舉區ニ於テ政友會ヨリ立候補スヘキ議員候補者ニ投票セラレタキ旨ノ依頼ヲ受ケ判示酒食ノ饗應ヲ受ケタリト云フニ在リテ所論ノ如ク被饗應者タル被告惣次郎外十名カ政友會ヨリ土斐崎三右衛門 柴戸徳太郎ノ兩名ノ内孰レカ一名カ立候補スヘキ場合同候補ヘノ投票ヲ依頼セラレタルノ情ヲ知リテ饗應ヲ受ケタル事實ヲ認メタルモノニ非サルコト原判文上明瞭ナリ而シテ右判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ理由不備ノ違法アルモノニ

非ス論旨ハ畢竟原判決ノ事實ノ認定ヲ誤解シ之ヲ根據トシテ原判決ヲ攻撃スルモノニシテ理由ナシ
 第三點原審判決ハ判示選舉區ニ於テ判示事實ノ日時迄政友會ニ屬スル立候補者ナキコトヲ一面認定シ
 ナカラ判示事實ニ付衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ノ規定ヲ以テ適用處斷セリ然レトモ該規定ノ
 趣旨ハ候補者自ラ當選ヲ得又ハ候補者ヲシテ當選ヲ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ爲サレタル場合
 ニ限ル謂ニシテ所爲者ニ於テ當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ確立シタル意思ノ存在ヲ必要トス
 即所謂目的罪ナルカ故ニ一、判示ノ如ク當該選舉區ニ於テ未タ政友會ニ屬スル候補者定ラス果シテ何
 人カ立候補スルカ又果シテ幾名立候補スルカ未確定ノ場合ニ於テ換言スレハ當選ヲ得シム可キ目的タ
 ル候補者スラ不定ノ場合ニ於テ當選ヲ得シム可キ的確ナル意思發動ヲ爲シ得サルコト洵ニ明ナルトコ
 ロナリト信ス二、若シ夫レ將來立候補スヘキ者ノ中ヨリ孰レカヲ特定シテ其ノ者ニ當選ヲ得シムル意
 思ヲ以テ作爲ナシタル場合ナリトセハ前顯被告人林久次郎第三回檢事聽取書第五項記載供述ノ如ク被
 告人安永徳次郎ヨリ投票依頼ノ當ノ目的タル候補者ノ特定ヲ更ニ他ノ各被告人ニ對シ通告セサル可ラ
 ス茲ニ於テ初テ完全ニ該法條ノ適用ヲ受ク可キ所爲アリタリト言フヲ得ヘキナリ然ルニ原審判決ハ斯
 ノ點ニ關スル判斷ニ付判示ヲ遺脱セリ三、却テ被告人林久次郎ニ對スル檢事ノ第三回聽取書中ノ一節
 ニヨリ(原審判決引用部分)被告人久次郎 卯一郎 良助 榮作カ判示ノ如キ酒食ノ饗應ヲ畫策シタル目
 的ハ結城與七郎ニ對スル反感ノ報復手段ニ供スル爲ト村道改修ノ促進ヲ期スル目的ノ下ニ政友會ニ投

票スルコトヲ申合セタルモノナリト證據上解釋セサル可ラス而シテ政友會ニ投票スルト言フ意ハ政友
 會派ニ屬スル以上候補者カ何人タルハ之ヲ問ハサルトコトナリ即特定ノ候補者ニ當選ヲ得シムルコト
 カ究極ノ目的ニ非ラスシテ政友會ニ屬スル者ナレハ立候補者ノ何人タルヲ問ハス投票シ又他ノ被告人
 ヲシテ投票セシメ以テ反感報復ノ手段ノ達成ト村道改修ノ促進トヲ併セ遂ケンコトヲ唯一ノ目的トナ
 セルモノナリト證據上解セサル可ラス果シテ然ラハ原審判決ハ右ノ如ク擬律錯誤ニヨル不備ノ點及判
 決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル點アルト同時ニ又重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル可キ顯著
 ナル事由アリト謂ハサル可ラスト云フニ在レトモ

【要旨】

縣會議員ノ選舉ニ際シ特定ノ一選舉區ニ於テ或政黨ヨリ議員候補者トシテ立候補スヘキ者未タ確定セ
 サルモ不日立候補スヘキ者アルコト必然ノ情勢アル場合ニ於テ其ノ者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選
 舉人ニ對シ投票ヲ依頼シ酒食ノ饗應ヲ爲シタルトキハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ縣會議員ノ選
 舉ニ準用スヘキ衆議院議員選舉法第九十六條第二百二十九條及同法第一百十二條第一號ノ犯罪ヲ構成シ情
 ヲ知リテ其ノ饗應ヲ受ケタル選舉人ニ對シテハ同法第一百十二條第四號ノ犯罪成立スルコト勿論ニシテ
 更ニ投票依頼者タル饗應者ヨリ投票ヲ得シメント欲スル候補者ヲ指定シテ被依頼人タル選舉人ニ通告
 スルコトヲ要スルモノニ非ス蓋シ右饗應者カ被饗應者タル選舉人ニ對シ投票ヲ依頼シテ當選ヲ得シメ
 ント企圖スル者ハ特定ノ選舉區ニ於テ特定ノ政黨ヨリ立候補ノ届出ヲ爲ス議員候補

特定ノ政黨ヨリ立候補スヘキ者ニ對スル投票ノ依頼等ト衆議院議員選舉法第一百
 二十九條第一百十二條ノ犯罪ノ成立

者ニ限定セラレ之カ當選ヲ目的トシテ選舉人ニ對シ投票ヲ依頼シテ響應ヲ爲スハ所謂特定ノ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ爲シタルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ原判決カ證據ニ依リ認定シタル事實ハ被告人徳次郎及久次郎ハ昭和六年九月二十二日施行セラレタル福岡縣縣會議員選舉ニ際シ同被告人等ノ選舉區タル同縣早良郡ニ於テハ政友會ヨリ土斐崎三右衛門 柴戸徳太郎ノ兩名ノ内孰レカ一名カ立候補スヘキコトヲ豫期シ近日立候補ノ届出ヲ爲スヘキ右兩名ノ内一名ノ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ酒食ノ響應ヲ爲シ同候補者ヘノ投票ヲ依頼センコトヲ協議シ被告人榮作 卯一郎 良作ト通謀ノ上同月一日夜被告人喜八郎方ニ選舉人タル被告人喜八郎 惣次郎 宅次 又三郎 文吉 政吉 嘉十 喜一郎 七郎 佐七郎 稔ノ十一名ヲ招待シ其ノ席上ニ於テ同人等ニ對シ右選舉ニハ政友會ヨリ立候補スヘキ議員候補者ニ投票セラレタキ旨依頼シ自己等五名ノ分ヲモ合セテ總計金十二圓九十錢相當ノ酒食ノ響應ヲ爲シ右被告人喜八郎以下十一名ハ情ヲ知リテ右酒食ノ響應ヲ受ケタリト云フニ在ルヲ以テ被告徳次郎 久次郎 榮作 卯一郎 良助ノ行爲ハ前記第九十六條第百二十九條及第百十二條第一號ニ該當シ右被告人喜八郎以下十一名ノ行爲ハ同條第四號ニ該當スルコト前顯ノ說明ニ照シ明ナレハ原判決カ所論通告ノ有無ニ付判斷ヲ與フルコトナク被告人等ノ行爲ニ對シ敍上法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ何等違法ノ廉アルコトナク記錄ニ依ルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト認メ難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
 檢事岩松玄十關與

○橫領被告事件 (昭和六年(九)第一七七六號 棄却)
(昭和七年三月十一日第四刑事部判決)

【上告人】 坂本 金藏 辯護人 長砂 鹿藏

【第一審】 倉吉區裁判所 【第二審】 鳥取地方裁判所

○判示事項

既登記不動産ノ二重賣渡ト橫領罪

○判決要旨

既登記不動産ニ付賣買契約成立シ未夕所有權移轉ノ登記ヲ了セサ

既登記不動産ノ二重賣渡ト橫領罪

ル限り當事者間其ノ登記ニ要スル書類ノ受授アリタルト否トヲ問ハス賣渡人カ更ニ其ノ不動産ヲ第三者ニ賣渡ストキハ横領罪ヲ構成ス

【参照】 刑法第二百五十二條第一項 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處シ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ豫テ東伯郡八橋町佐伯太一ニ對シ金一萬千三百餘圓ノ債務ヲ負擔シ居リタルトコロ内金五千圓ノ辨濟ニ充ツル爲メ昭和五年二月二十日別紙第一目錄記載ノ不動産ヲ金五千圓ニテ右太一ニ賣渡シ代金ハ前記五千圓ノ債務ト相殺シ且其ノ頃右賣渡不動産ノ所有權移轉登記手續申請ニ必要ナル被告人名義ノ委任狀ヲ太一ニ交付シ置キタルトコロ偶同人ニ於テ其ノ登記ヲ怠リ居リテ登記簿上未タ該不動産カ被告人ノ所有名義ナルヲ奇貨トシ犯意ヲ繼續シテ

第一 昭和五年四月二十二日同不動産中別紙第二目錄記載ノ不動産ヲ竹村辨吉ニ

第二 昭和六年六月二十八日別紙第三目錄記載ノ不動産ヲ三好きみニ

各賣渡シ當時何レモ倉吉區裁判所赤碕出張所ニ於テ右兩名ノ爲メ各所有權取得ノ登記ヲ完了セシメ以テ同不動産ヲ横領シタルモノナリ

(別紙目錄ハ省略ス)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百五十二條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ訴訟費用ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人長砂鹿藏上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ昭和五年二月二十日佐伯太一ニ對スル債權額金一萬千三百五圓ノ辨濟ニ充當スル爲被告人所有ノ不動産ヲ賣渡シ所有權移轉登記手續申請ニ必要ナル書類ヲ交付セルニ不拘佐伯太一カ其ノ登記ヲ爲サズ登記簿上被告人ノ所有名義ナルヲ利用シ該不動産ノ一部ヲ昭和五年四月二十二日竹村辨吉(第一)及昭和六年六月二十八日三好きみ(第二)ニ各賣渡シ所有權移轉登記ヲ完了シ同不動産ヲ横領セル事實ヲ認メ懲役六月ニ處セラレタリ然ルニ本件佐伯太一ニ對スル債務額金一萬千三百五圓ハ被告人先代友藏カ借受ケタル元本若干ニ利息ヲ繰入加算シ殆ト

既登記不動産ノ二重賣渡ト横領罪

元本ニ三倍スル多額トナリ被告人ハ相續ニ依リ該債務ヲ承繼シ全然無擔保ナリシモ近年不景氣ノ爲物價ハ下落シ且養蠶業不振ノ爲益々窮乏ヲ加ヘ到底斯ル多額ノ債務ヲ一時ニ辨濟スルコト能ハサル状態ニ在リ加フルニ土地ノ賣却處分等困難ナリシヲ以テ河本亦市ヲ介シ所有不動産全部ヲ賣價ヲ定メテ債務ニ充當シ不足金ハ年賦拂トスルコトヲ交渉ノ結果佐伯太一ノ承諾ヲ得タルモノ也從テ全不動産ノ代物提供ト不足額ノ年賦支拂トハ佐伯太一ニ對スル全債務解決上絶對不可分ノ關係ニ在リテ佐伯太一ニ於テ不足額ノ年賦支拂ヲ承諾セサル限り被告人ニ於テ全不動産ノ代物提供ヲ承諾スヘキモノニアラス畢竟被告人カ全不動産ヲ提供シ無資産トナルコトヲ辭セサリシ所以ノモノハ不足額ニ付一時ノ支拂取立ヲ免カレ年賦支拂即チ無利息割拂ニ依リ破産ヨリ脱スルコトヲ得タルカ故ニ外ナラス年賦支拂契約ノ成否ニ不拘該契約ト別箇獨立ニ全不動産ノ代物提供契約ヲ締結スルカ如キコトハ社會通念上全然肯認シ得サルコトニ屬シ無擔保債務ニ全不動産ヲ代物的ニ提供セルコトハ當然ニ不足額ノ年賦支拂ヲ條件トシ不可分のニ兩者ハ解決契約ノ内容ヲ爲スモノト謂ハサルヲ得ス之ヲ以テ被告人カ不動産ノ代物提供ヲ實行セサル限り不足額ノ年賦支拂ニ付佐伯太一ハ之ヲ破棄シテ全額ノ一時請求ヲ爲シ得ヘク佐伯太一ニ於テ不足額ノ年賦支拂ヲ破棄シ其ノ全部又ハ一部ヲ請求スルニ於テハ被告人ニ於テ不動産ノ代物提供ヲ破棄シ實行ノ責任ヲ有セス更ニ殘額ノ年賦支拂證書ニ新ニ設立セル合資會社ノ代表者又ハ實父中西友藏ノ保證加印ヲ要求セルモ之ニ應セサルヲ以テ年賦支拂契約カ不成立ニ歸シタルモノトセ

ハ以上債務解決ノ契約條件タル不動産ノ提供契約モ亦不成立ニ歸シタルモノニシテ前者カ不成立ナルニモ不拘獨リ後者ノミ成立ヲ認ムルコトハ兩者カ解決契約ノ雙互條件タル性質上當然ノコトニ屬ス加之合資會社ノ代表者又ハ實父中西友藏ノ保證加印ハ最初ヨリ年賦支拂契約ニ附帶セル條件ニアラスシテ契約成立後即チ昭和五年三月十二日合資會社中西商店ノ設定登記及實父中西友藏ノ分家手續ニ依リ佐伯太一ハ初メテ兩者ノ保證加印ヲ要求スルニ至レルモノナレハ被告人ノ責ニ依リ年賦支拂契約ヲ不成立ナラシメタルモノニアラスト雖其ノ保證加印カ契約ノ成立條件ナルト否トニ不拘佐伯太一カ年賦支拂契約ノ不成立ヲ以テ債務額ノ全部又ハ一部ノ支拂請求乃至取立行爲ニ出ツル以上被告人ハ佐伯太一カ右年賦支拂契約ヲ破棄セルモノト認メ不動産提供契約ヲ破棄シ其ノ實行ヲ爲スニ及ハサルコト極メテ明白也即チ本件ニ於テ佐伯太一ハ年賦支拂契約ヲ不成立ト認メ債務ノ一部ニ付支拂請求ニ及ヒタルカ故ニ被告人ハ該契約ハ佐伯太一ニ於テ破棄セルモノナレハ當然不動産ノ提供契約モ破棄シ實行ノ必要ナキモノト認メタル結果該不動産ノ一部ニ付處分行爲ヲ爲シタルモノナレハ該處分行爲ハ何等犯罪ヲ構成スルカ如キ違法性ヲ有スルモノナラス假ニ被告人ノ處分行爲カ當然法規ニ照シ其ノ方法乃至處分ニ於テ缺クル所アリトスルモ法律不知ノ爲メニシテ被告ハ其ノ適法且正當ナルモノト信シ其ノ行爲ニ出テタルモノナレハ客觀的ニ違法性ヲ認ムヘキモノトスルモ主觀的ニ違法性ニ對スル認識ヲ缺如セルモノニシテ犯意ヲ認ムル能ハス尙本件不動産ニ付被告人ノ處分行爲カ横領罪ヲ構成スル一條件ハ

提供不動産ニ對スル所有權移轉登記手續ニ必要ナル書類即チ賣買證書及委任狀ヲ佐伯太一ニ交付セルコトヲ要ス若シ被告人カ不動産ノ提供契約ニ基キ所有權移轉登記手續ヲ實行セス又ハ實行ニ必要ナル登記手續書類ヲ交付セサルニ於テハ契約不履行ノ民事責任ヲ生スルニ止リ斷シテ刑事責任ノ問題ヲ生セス從テ右登記手續書類交付以後ニ於テ所謂占有ノ一條件ヲ構成スヘキモノナルカ故ニ該登記手續書類交付ノ時期ハ犯罪成否ノ分岐點ニシテ本件橫領罪構成ノ重心ニ屬ス本件ニ於テ被告人カ登記手續書類ヲ佐伯太一ニ交付セルハ昭和五年七月ニシテ其ノ以前ニアラス該書類中ノ土地賣渡證書ノ作成日附昭和五年二月二十日ハ該日附ノ日時ニ記入セルモノニアラスシテ被告人ヨリ右登記手續書類ノ交付ヲ受ケタル上右日附ヲ遡記セルモノナルコト從テ右登記手續書類ノ交付ヲ受ケタル日時ハ右日附以後ノコトニ屬スルモ其ノ日時ハ記憶セストノ佐伯太一ノ供述ニ徴シ右作成日附昭和五年二月二十日以後ニ於テ交付セルモノナルコトハ兩者一致スル處ナルモ其ノ日時ニ於テ佐伯太一ハ記憶セスト供述シ被告人ハ昭和五年七月ナリト辯解ス假ニ被告人ノ辯解ハ自己ノ責任ヲ回避スル疑アルモノトスルモ佐伯太一自體ノ記憶セサル日時ノ供述カ直チニ被告人ノ辯解スル昭和五年七月以前ノコトニ屬スト斷スヘキ何等ノ根據ヲ認ムル能ハス況ンヤ被告人ノ辯解セル昭和五年七月ニアラストノ反證ナキ限り一應被告人ノ辯解カ眞實ナルコトヲ認ムヘキモノトス殊ニ本件登記手續書類交付ノ時期カ橫領罪構成ノ一要件ナルカ故ニ其ノ時期ヲ立證スル日時ノ確證ナキ限り被告人ノ提供不動産ニ對スル處分行爲カ右書類ノ

交付後ニ爲サレタルモノナリヤ又ハ交付前ニ爲サレタルモノナリヤ確認スルコト能ハサルヲ以テ結局橫領罪構成ノ一要件ヲ缺如シ犯罪ノ證明十分ナラサルモノニ屬スヘシ以上之ヲ要スルニ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

凡ソ或不動産ニ付賣買契約成立シ未タ所有權移轉ノ登記ヲ了セサル間ハ其ノ所有權ハ移轉セリト雖登記簿上依然賣渡人ノ所有名義ニ在ルヲ以テ當事者間ニ登記手續ニ必要ナル書類ノ受授アリタルト否トニ關セス刑法第二百五十二條第一項ノ適用上該不動産ハ賣渡人ノ占有スル他人ノ物ニ外ナラサレハ擅ニ之ヲ他ニ賣却スル賣渡人ノ行爲ハ橫領罪ヲ構成ス左レハ斯ル書類ノ交付時期如何ニ依リ本件犯罪ノ成否ニ影響アリトナスカ如キ論旨ハ採用ノ價值ナシ而シテ判示事實ハ判示證據ニ憑リ優ニ之ヲ認メ得ヘク記録ヲ精査スルニ原判決ノ事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨並判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○詐欺被告事件(昭和六年(九)第九三〇號 破毀自判)

(昭和六年三月十四日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 原 哲 外二名 辯護人 (鳩澤總明 岡崎熊三郎)

【第一審】 名古屋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

犯罪供用物ノ所有者タル共犯者ノ死亡ト沒收

○判決要旨

犯罪供用ノ物力共同被告人タル共犯者中ノ一人ノ所有ニ屬シタル場合ト雖其ノ者カ公訴ノ繫屬中死亡シ相續人ノ所有ニ歸シタルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得サルモノトス

【參照】 刑法第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行為ヲ組成シタル物
- 二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物
- 三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

○事實

本件公訴ハ前記上告人三名及第二審相被告人原廣助並第一審相被告人西脇慶太郎伊藤弘之ノ六名ニ對シ提起セラレタルモノニシテ第二審判決ハ本判決ト同様右六名ヲ詐欺賭博ノ共同正犯ト認メ尙證第一號賭具ヲ本件犯罪供用ノ物件ニシテ共犯者中ノ一人ナル右原廣助ノ所有ニ屬スルモノト認メ刑法第十九條ニ依リ沒收シタルカ廣助ハ上告中死亡シ其ノ長男光一家督ヲ相續シタルヲ以テ當院ハ本判決末尾記載ノ理由ニ依リ之ヲ沒收セサルモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人哲ニテ懲役二年被告人健三ヲ懲役一年被告人善三郎ヲ懲役八月ニ各處ス

○理 由

各被告人辯護人鳩澤總明上告趣意書第一點第二點第五點ハ理由アルコト當院カ昭和六年十月十五日爲シタル事實審理開始ノ決定ニ於テ説明セルカ如クナルヲ以テ更ニ被告事件ニ付審按スルニ被告人三名ハ原審相被告人原廣助及第一審相被告人西脇慶太郎伊藤弘之ト共謀シ俗ニ所謂「インチキ賭博」ノ方法ニ依リ他人ヲ欺罔シ金員ヲ騙取センコトヲ企テ名古屋市西區島田町三丁目三番地林直

犯罪供用物ノ所有者タル共犯者ノ死亡ト沒收

三及同市中區南桑名町三丁目十番地不破延一ヲ相手トシテ花札(證第一號)ヲ使用シ俗ニ「八八」又ハ「京カブ」ト稱スル博奕ヲ爲スニ當リ被告人哲二ハ手中ニ花札ヲ隠シ居リテ巧ニ之ヲ他ノ花札ト取替ヘ被告人健三八俗ニ釣ト稱スル方法ニテ竊ニ手掌ニ花札ヲ持テ居リ巧ニ之ヲ利用シ被告人善三郎ハ花札ヲ切ル際役札等二三枚ヲ揃ヘテ巧ニ之ヲ切り交セ該役札ヲ共謀者ニ與ヘ或ハ之ヲ自己ニ取り廣助其ノ他ノ前審相被告人等ハ客ヲ裝ヒ手合ヲ爲スニ拘ラス被告人等ハ該事實ヲ祕シ普通ノ方法ニ依リ手合ヲ爲スカ如ク裝ヒ右林及不破ヲシテ真正ニ輸贏ヲ決スルモノノ如ク誤信セシメ斯ル方法ニ依リ末尾添付ノ明細表中「犯時」及「犯行ノ場所」欄記載ノ日時場所ニ於テ「犯罪實行ノ任ニ當リタル者ノ氏名」欄ニ記載シタル被告人及前審相被告人等ハ夫レ夫レ「被害者ノ氏名」欄ニ記載シタル者ト前記方法ニ依ル賭博ノ手合ヲ爲シタル上同人等ヨリ十六回ニ互リ「被害」欄ニ記載シタル合計約二萬餘圓ヲ現金又ハ手形ニテ受取り騙取シタルモノニシテ右詐欺行爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

(明細表ハ之ヲ省略ス)

被告人哲二ハ昭和二年八月五日名古屋控訴院ニ於テ詐欺罪ニ依リ懲役一年(昭和三年勅令第二七〇號ニ依リ懲役九月七日ニ變更)ニ處セラレ昭和四年三月其ノ執行ヲ終リタルモノトス

法律ニ照スニ各被告人ノ行爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條第六十條ニ該リ被告人哲二ハ前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ依リ累犯加重ヲ爲シ各被告人ヲ夫レ夫レ主文記載ノ刑ニ處

スヘキモノトス

【要旨】

押收ノ證第一號賭具ハ本件犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ共犯ノ一人ナル原廣助ノ所有ニ屬シタルモノナルコト被告人哲二健三等ノ當公廷ニ於ケル供述ニ依リ明ナルモ廣助ハ上告中昭和六年十二月二十七日死亡シ當院ニ於テ公訴棄却ノ決定ヲ爲シタルコト記録ニ徴シ明瞭ナルノミナラス鶴澤辯護人提出ノ廣助ノ除籍謄本ニ依レハ廣助ノ長男光一ニ於テ廣助ノ家督相續ヲ爲シタルコト明ナレハ證第一號賭具ハ右相續ニ因リ犯人以外ナル光一ノ所有ニ歸シタルモノト認ムヘキヲ以テ沒收スルコトヲ得サルニ至リタルモノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
 檢事岩松玄十關與

○治安維持法違反被告事件 (昭和六年(九)第一七九二號 棄却)

(昭和七年三月十五日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 加藤 秀雄 辯護人

市 施長 治
大 森 詮 夫
河 合 盛 雄
青 柳 盛 雄

【第一審】 函館地方裁判所 【第二審】 札幌控訴院

○判示事項

日本共産黨ノ目的ヲ宣傳スル雜誌ノ讀者ヲ増加セシムル行爲ト治安維持法第一條第一項第二項各後段

○判決要旨

日本共産黨ハ國體ノ變革及私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ナルコトト雜誌戰旗ハ同黨ノ目的綱領ヲ宣傳スル記事ヲ掲載スル雜誌ナルコトトヲ知りナカラ日本共産黨ノ主義目的ニ共鳴スル同黨支持者ノ増加ヲ圖リ同雜誌ノ讀者ヲ増加セシメタル行爲ハ治安維持法第一條第一項第二項各後段ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ該當ス

【参照】 治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又

ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
前二項ノ未遂罰ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ治安維持法第一條第一項後段第二項後段刑法第五十四條第一項前段第十條第五十五條第二十一條ヲ適用シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

日本共産黨ハ勞農露西亞ニ其ノ本部ヲ有スル國際共産黨ノ一支部ニシテ革命手段ニ依リ我國家成立ノ大本タル立憲君主制ヲ撤廢シテ我國體ヲ變革シ且凡ユル生産機關ノ私有ヲ禁シ之ヲ社會ノ公有ニ移行シテ我國現行私有財産制ヲ否認シ以テ無産階級獨裁ノ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル秘密結社ニシテ戰旗社發行ニ係ル月刊雜誌戰旗ハ全日本無産者藝術團體協議會(略稱ナツプ)ノ機關雜誌トシテ日本共産黨ヲ支持シ同黨ノ目的綱領ヲ宣傳煽動スル記事ヲ掲載頒布シ因テ同黨ノ擴大強化ヲ圖ルコトヲ

日本共産黨ノ目的ヲ宣傳スル雜誌ノ讀者ヲ増加セシムル行爲ト治安維持法第一條 第一項第二項各後段 一七九 (119)

目的トスル左翼的雜誌ニ屬シ從來屢内務大臣ヨリ發賣頒布ヲ禁止セラレ殊ニ昭和五年ニ於テハ一月號及四月號ヲ除キ全部其ノ禁止ヲ見ルニ至レルモノナルトコロ

(第一事實省略)

第二 被告人加藤秀雄ハ昭和三年三月函館商業學校ヲ卒業シ其ノ後第一銀行函館支店ニ就職シタルカ其ノ頃ヨリプロレタリア文藝ニ親ミ雜誌戰旗等ヲ耽讀スルニ連レ我カ國現時ノ社會組織ニ不滿ヲ懷クニ及ヒタル折柄交友伊月剛三等ノ感化ニ依リ次第ニ左傾シ昭和五年三月頃ヨリ共產主義ヲ信奉スルニ至リ茲ニ冒頭ニ掲ケタル日本共產黨ノ目的綱領及戰旗出版ノ使命等ニ關スル事實ヲ知悉シナカラ同人等ト協力シテ戰旗讀者網ヲ確立シ以テ日本共產黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ニ資スルトコロアラントシ其ノ目的ノ下ニ犯意ヲ繼續シ

(一) 同年四月頃以降數回ニ互リ函館市東雲町久保ミツ方ニ開カレタル戰旗讀者會ニ毎回出席シテ前述ノ如ク伊月剛三外數名ノ同志ト共ニ讀者獲得ノ協議ヲ爲シ其ノ手段トシテ戰旗函館支局ヲ確立ノ上戰旗本社ト連絡ヲ取り班組織ニ結成シ且支局ニユースヲ發刊スヘキコトヲ謀リ

(二) 同年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間ニ三吉良太郎、苗代正吉、木田孝藏及中島正已等ヲ勸誘シテ戰旗讀者ヲ獲得シ且同年七月中後ニ確立スヘキ支局銀行班ノ組織ニ努メ木田孝藏ヲ其ノ班員ニ獲得シ

- (三) 同年七月二十二日ノ夜函館市谷地頭小學校宿直室ニ開催セラレタル戰旗函館支局第一回支局委員會ニ參加シテ前述ノ如ク伊月剛三外數名ノ同志ト共ニ支局ヲ確立シ之ヲ班組織ニ結成シ班員(支局員)竝讀者獲得ノ方策ヲ樹テ役員推薦ノ結果支局常任委員竝支局銀行班ノ責任者ト爲リ其ノ後同年十月迄ノ間ニ互リ同小學校又ハ前記齋藤松雄方其ノ他ニ於テ屢開催セラレタル支局委員會常任委員會ニ毎回出席シテ班員竝讀者獲得ノ協議ヲ爲シ其ノ間前記(第二審判決ハ第一ノ(二)ニ於テ相被告人伊月剛三カ雜誌戰旗ノ讀者ヲ増加セシムル目的ヲ以テ激勵的又ハ煽動的文詞ヲ列ネタル函館支局ニユース及檄ヲ數回發刊シタル事實ヲ判示セリ)支局ニユース檄ノ發刊配布ニ協力シ且同年八月頃柿本一夫及渡部廣一ヲ支局銀行班員ニ獲得シ又其ノ頃支局遞信班ノオルガナイザートシテ鈴木明 谷口重雄 三吉良太郎及中島正已等ヲ糾合ノ上同班ヲ組織結成シ
- (四) 同年九月中伊月剛三外數名ノ同志ト共ニ戰旗函館支局内ニ北海漁業勞働組合闘争委員會ヲ組織シテ其ノ教育出版部長ト爲リ同組合ヲ支持應援スルト共ニ闘争ニ乘シテ支局班員竝讀者ノ獲得ニ努メ
- (五) 同年十月中伊月剛三ニ代リテ戰旗函館支局常任書記ト爲リ同年十一月迄戰旗本社トノ連絡竝支局ノ統制ニ當リ其ノ間前記齋藤松雄方其ノ他ニ於テ數回支局委員會及常任委員會ヲ開キテ班員竝讀者獲得ノ協議ヲ爲シ又支局學校班ノ責任者朝井喜一郎ヲ通シテ函館商業學校内ニ於ケル教員

排斥運動ヲ指導シ其ノ機ニ乘シテ班員竝讀者ノ獲得ニ努メ又戰旗本社ヨリ同年十一月發刊ノ戰旗
數十部ノ密送ヲ受ケ其ノ一部宛ヲ各班ノ責任者ヲ通シテ約五十名ノ讀者ニ各配布シテ閱讀セシメ
以テ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ノ要旨ハ原審裁判長ハ獨斷ト混亂セル見解トノ下ニ吾々ノ披瀝スル正シキ辯明ヲ理
解セス濫リニ吾々ノ辯論ヲ妨害干渉シタルノミナラス本件ヲ治安維持法違反タラシムル爲ニ事實ニ付
認識不十分ナルニ拘ラス重要觀點ヲ歪曲シテ最都合ヨキ論理ノ輕業ヲ演シテ有罪ト爲シタリ吾々ハ第
一ニ吾々ヲ窮地ニ陥ルル此ノ論理ノ輕業ヲ徹底的ニ釋明シ同時ニ日本共產黨ヲ目指シテノ特殊ノ彈壓
法タル治安維持法ノ即時撤廢ヲ要求シ第二ニプロレタリヤ文化運動ノ必然性ヲ強調スルコトニ依リ吾
々ノ即時無罪ノ判決ヲ要求シ第三ニ第二審ニ於ケル吾々ノ言論ニ對スル干渉ヲ判然セシムルコトニ依
リテ分離的暗黒裁判ニ反對スル第一我々ハ何ノ目的テ戰旗支局ヲ樹立シタカトイハハ雜誌戰旗ハ無茶
苦茶ニ每號發行禁止トナリブルシヨアの取次所書籍店ヨリソノ姿ヲ沒スル爲戰旗社獨自ノ經營ノ下ニ
アル取次所ヲ必要トシタカラテアル吾々ノ支局カ警察ノ認可ナシニ存在シタノハ事實テアルカソハイ

ヤ應ナク干渉サレ蹴散サレルコトハ判リキツテ居タカラテアル戰旗ハプロレタリア大衆ニ正シイ階級
的啓蒙教育ヲ與ヘ彼等ヲシテ正シキ擁護ノ爲ノ方法ヲ執ラシムル爲階級運動一般ニ驅リ立テ且ブルジ
ヨアの阿片雜誌ヨリ彼等ヲ切離スル爲ノ大衆的啓蒙雜誌テアル從ツテ其ノ記事ハ文化的啓蒙的教育的
テアツテ絶對ニ黨ノ指導書類又ハ勞動組合ノ指令檄文テアツタリスルモノテハナイ戰旗支局ハ唯雜誌
戰旗ノ組織的販賣配付ニ依ル支局ノ擴大強化ヨリ以上ノ任務ヲ有セスプロレタリア全階級運動ノ代表
團體ナラサルハ勿論勞動組合テモ共青同盟テモナイ戰旗支局ハ組織サレタル個人カ他ノ組織ニ動員サ
レ組織サレ様トモ夫レハ我々ノ組織ニ何等ノ關係ハナク支局カ或ル程度迄發展スレハ勞動組合組織又
ハ政黨組織ニ轉化シタリスルテアロト考ヘルノハ我々ノ階級組織ノ如何ナル部分ニモ表ハレテイナ
イ右ノ如ク考ヘルノハ合法的組織ヲ治安維持法ニヒツカケル爲ニ凡俗ナ論理ノ輕業ヲ爲ス所ノ司法官
ノ頭ノ中ニノミ存スルコトタ我々ハ勞動者農民及一般被壓的民衆ノ何等カノ利益擁護ノ爲ニ戰旗支局
ヲ組織シタケレトモ共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ組織シタノテハナイ戰旗支局ノ擴大強化ト他ノ組
織ノ擴大強化トヲコツチャニ考ヘテハナラヌ吾々ハ斷乎トシテ確言スル「斯々云々ノ行爲ヲナシ……
……日本共產黨ヲ擴大強化セリ」トノ判決ハ正シク無理無道ナル治安維持法違反捏造ノ爲ノ日本支配
階級ノ意圖ノ反映ニシテ俗惡ナル論理ノ輕業ニ過キナイ我々ヲ同法違反ノ陷穽ニ突落スノハ全ク不當
テアル吾々ハ無罪テナケレハナラヌ第二、一九二九——一九三〇年ハ世界的經濟恐慌益深刻化シ工場

日本共產黨ノ目的ヲ宣傳スル雜誌ノ讀者ヲ増加セシムル行爲ト治安維持法第一條
第一項第二項各後段

閉鎖合併管理ノ數ヲ増加シ賃金引下操短時間延長大量減首極度ナル勞働強化ト次々ニ行ハレ失業者群ハ増大シ新企業ハ縮少シ無産階級ノアラエル生活條件ハ低下シ小作爭議ハ暴動化シ勞働者ハストライキヘト驅リ立テラレタリブルジョア文化ハ形式的トナリ反動的的色彩ヲ濃厚ナラシメタリ無産大衆ハ自己ノ周圍ニ惹起スル諸現象ノ正シキ本質ヲ知ラント要望ス斯カル時ニ於テ函館戰旗支局ハ如上眞摯ナル無産大衆ノ要望ニ因リ必然的ニ生レタルナリ社會上必然ノ存在ナル以上到底形式の否定ヲ以テ形付ケラルヘキモノニ非ス又有罪タルヘキモノニ非ス即時無罪ノ判決ヲ要求ス第三、第二審ニ於テ共犯者伊月剛三ハ美事ナル改悛振ヲ示シ我々ノ組織ノ爲ニ正シキ主張ヲ爲サス依テ自分ハ伊月ノ誤謬ヲ正シ我々ノ組織ニ對シ正シキ釋明ヲ爲サントシタルニ裁判長ハ「伊月ノ事ハ言ハナイテモイ」ト再三再四被告人ノ辯明ヲ妨害シタリ之ハ明白ニ分離裁判テアリ組織ヲ裁クニ非スシテ個人ノ裁判ナリ吾々ハ個人的分離裁判ニハ絶對反對ナリ被告ノ言論ヲ干涉妨害スルコトハ絶對反對ナリ尙豫審調書ハ暗黒分離裁判ニシテ組織ノ統一的裁判ニ依ル調書ニ非サルヲ以テ之ヲ否認ス吾々ハ統一裁判ヲ希望ス又第二審ニ於ケル自分ノ主張及同志野村勝治ノ證言及同人ノ調書ニ信ヲ措クト云フニ在レトモ

原判決ハ日本共產黨ハ我國體ヲ變革シ且私有財産制度ヲ否認シ無産階級獨裁ノ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ニシテ雜誌戰旗ハ同黨ヲ支持シ同黨ノ目的綱領ノ宣傳煽動スル記事ヲ掲載頒布スル左翼的雜誌ニ屬シ屢内務大臣ヨリ發賣頒布ヲ禁止セラレ殊ニ昭和五年ニ於テハ一月號及四月號ヲ除キ

全部其ノ禁止ヲ命セラレタルモノナル處被告人ハ昭和五年三月頃ヨリ日本共產黨ノ主義ニ共鳴スルニ至リ敍上同黨ノ目的ト戰旗ハ敍上ノ如キ雜誌ナルコトヲ知リナカラ原審相被告人伊月剛三等ト協力シテ同雜誌ノ讀者網ヲ確立シ日本共產黨ヲ支持シ以テ其ノ擴大強化ニ資スル所アラントシ其ノ目的ノ下ニ犯意ヲ繼續シテ原判示第二ノ(一)乃至(五)ノ如ク同年四月以降數回同志ト共ニ雜誌戰旗ノ讀者ノ獲得戰旗支局ノ確立戰旗本社トノ連絡班組織ノ結成及支局ニユースノ發刊ニ付協議ヲ爲シ支局常任委員支局銀行班ノ責任者トナリ爾來三吉良太郎外數名ノ讀者ヲ獲得セル外敍上協議セル各事項ヲ遂行シ同年十月中戰旗函館支局ノ常任書記ト爲リ戰旗本社トノ連絡班支局ノ統制ニ當リ益々讀者ノ獲得ニ努メ同年十一月發刊ノ戰旗數十部ノ密送ヲ受ケ其ノ一部宛ヲ各班責任者ヲ通シテ約五十名ノ讀者ニ配付シテ閱讀セシメタル事實ヲ認定シタルモノニシテ原判決舉示ノ證據ニ依レハ右事實ヲ認ムルヲ得ヘク記録ニ徵スルニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ而シテ右被告人ノ行爲ハ日本共產黨ノ主義目的ニ共鳴スル同黨支持者ノ増加ヲ圖ルモノニシテ即同黨ノ目的遂行ニ資スルノ行爲ナリト謂フヘキヲ以テ治安維持法第一條第一項第二項各後段ニ該當スルモノトス然レハ原判決カ敍上事實ヲ認定シ同法條ニ問擬シタルハ正當ナリ被告人カ所論ノ如ク同法ノ即時撤廢ヲ要求シ又被告人カ無産大衆ノ要望ニ副フノ意思ヲ以テ本件行爲ニ及ヒタルモノトスルモ之カ爲ニ其ノ責ヲ免レ得ヘキモノニ非ス論旨第一第二ハ其ノ理由ナク又假ニ原審裁判長カ論旨第三ニ摘示スルカ如キ言辭

【要旨】

日本共產黨ノ目的ヲ宣傳スル雜誌ノ讀者ヲ増加セシムル行爲ト治安維持法第一條第一項第二項各後段

ヲ以テ被告人ニ注意ヲ與ヘタル事實アリトスルモ這ハ被告人ノ陳述カ自己ノ行爲ニ關スル辯明以外ニ涉リタルカ爲ニ外ナラサルコト其ノ言辭自體ニ依リ明白ニシテ記録ニ徵スルニ所論ノ如ク被告人カ爲サントシタル正當ナル辯明ヲ阻止シタリト認ムヘキ何等ノ形迹ナキヲ以テ其ノ措置ハ違法ニ非ス又豫審ニ於ケル取調ハ被告人各別ニ爲スヲ本則トシ且之ヲ公行スヘキモノニ非サルコト言フ俟タサレハ豫審調書カ統一的裁判ニ依ラス分離的祕密ノ取調ニ成リタルコトヲ云爲シテ之ヲ攻撃スル論旨部分ハ甚其ノ謂ハレナキモノニシテ論旨第三モ亦總テ其ノ理由ナシ

辯護人布施辰治 大森詮夫 河合篤 青柳盛雄上告趣意書第一點原判決カ被告人ノ所爲トシテ摘示シタル第一乃至第五ノ所爲ニ對シ治安維持法第一條ヲ適用シタルハ左記ノ點ニ於テ事實關係ニツキ重大ナル事實ノ誤認若クハ擬律錯誤ノ不法アルコトヲ免レサル失當ヲ彈劾セラルヘキモノテアル治安維持法第一條ニ所謂目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ内容ニツキ大審院判決(昭和五年十一月十七日言渡)ハ國體ノ變革又ハ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ノ存在スルコトヲ知リ該結社ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ハ畢竟結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ナリト判示シタ然レトモ右判決ハ毫モ目的遂行ノタメニスル行爲ノ實質ヲ説明シタルモノテハナクタタ單ニ法文ノ字句ヲ更ニヨリ以上ニ抽象的言辭ヲ以テ置キ換ヘタニスキナイ問題ハ依然トシテソノ謂フ所ノ擴大強化ヲ圖ル行爲トハ如何ナル實質的行爲ヲイフカトイフ點ニ殘ツテキル此ノ點ニ關スル辯護人ノ見解ハ右判決ト根本的ニ異ルカ暫ク目的遂行

ノタメニスル行爲トハ右判例ニ所謂擴大強化ヲ圖ル行爲ナリト假定的ニ前提シテ左ニソノ行爲ノ要件ヲ述ヘル苟モ組織又ハ所謂結社ノ擴大強化トハ(一)主觀的ニソノ行爲者ニ於テ組織ノ存在及其ノ目的ヲ認識スルノミナラスソノ組織ノ内容ヲ知リ又組織ノ擴大方法ニツイテ知悉シテキナケレハナラス更ニ加之ニ行爲ノ際組織ノ擴大強化ヲ圖ルトイフ一定ノ目標ヲ有スル意思ヲ必要トスル(二)客觀的ニハ行爲カ組織ノ擴大又ハ強化トイフ結果ヲ生スヘキ實質ヲ具備シナケレハナラス而シテ組織ノ擴大トハ組織構成員ノ數的増大ヲ謂ヒ強化トハ組織構成ノ高度化緊密化統制化例ヘハ切斷セラレタル連絡ノ回復セクト的行動ノ克服等ヲ指スモノテアルコトハコノ言葉ノ常識的從ツテ標準的解釋テアル而シテソノ行爲ハ何等カノ點ニ於テ組織又ハ團體ト組織上ノ關係アルコトヲ必要トスルコトハ論ヲ俟タナイ本件ニツキ原判決ノ認定シタル被告人ノ行爲ハ全然右ノ要件ヲ欠缺シテキル第一主觀的ニ被告人カソノ目的遂行ノ爲ニ行動シタリト認定セラレタ日本共產黨ノ組織内容又ハ組織擴大方法(組織員ハ獲得ニ關スル諸他ノ嚴密ナル要件注意順序手續等々)ニツキテ何等ノ知識ヲ有シテ居ナカツタシ又有スヘクモナカツタコトハ明白テアル組織ニ關係ナキ者ニ於テコノ點ニ關スル認識ヲ持ツコトハ凡ソ不能事テアル況ンヤ被告人ニ於テ行爲ノ當時日本共產黨ノ組織擴大強化ヲ圖ルトイフカ如キ特定の目標ヲ有スル意思ヲ有シテ居ナカツタ點ハ一件記録被告人訊問調書ニ明白ナルニ於テヲヤテアル第二被告人ノ行爲ヲ客觀的ニ見ルトキ亦擴大強化ノ要件ヲ全然欠缺シテキル(一)雜誌戰旗ハ日本共產黨ヲ支

持シ同黨ノ目的綱領ヲ宣傳煽動スル記事ヲ掲載頒布シ因テ同黨ノ擴大強化ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノナリトイフ原判決ノ認定ハ單ナル事實無根以上ノ無知ト獨斷ト曲解ノ上ニ立ツテキル雜誌戦旗ハ一九二八年五月プロレタリア藝術運動ノ爲ノ純粹ナ藝術雜誌ヲ標榜シテ全日本無産者藝術團體協議會(ナツプ)ニヨツテ合法的雜誌トシテ届出發刊サレタノテアル其ノ後一九二九年十一月ナツプヨリ獨立シテ組織的存在ヲ有スルニ至ツタ戦旗社ノ獨自的發行ニカカル雜誌トナツタカソノ目的ハプロレタリア文化ノ宣傳普及ノ爲テアツテ被告人カ頒布シタリト認定セラレタ當時ノ戦旗ハ此ノ意味ニ於ケル勞働者農民ノ大衆的雜誌テアツタ雜誌戦旗ハタトヒ頻繁ニ發賣禁止ノ行政處分ヲ受ケタリトハ言ヘ其ノ發行ニツイテハ當初ヨリ新聞紙法ニ準據シテ届出タ合法的雜誌テアツタ事實ハ明白テアルソノ雜誌ニシテ若シ原判決ノイフ如ク日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トスルモノナリトセハ如何ニシテヨク今日ノ日本ノ司法並行政權力カソノ合法的存在ヲ保ツコトヲ許シタテアラウカ又コノ雜誌ニシテ合法的存在ヲ保ツツ如何ニシテ日本共產黨ノ擴大強化ヲ圖ルコトカ出來タテアラウカ凡ソカカルコトハ推問スルモノモ愚カナコトテハアル況ンヤコノ雜誌ノ配布行爲カ日本共產黨ノ擴大強化トイフ結果ヲ生スルトイフ認定ニ至ツテハ常識的推論ノ範圍ヲ逸脱シテキル(二)被告人ノ組織シタル戦旗支局ノ任務ハ雜誌戦旗ノ取次配布ヲスルコト以上以外ノ何モノテモナイ既ニ戦旗ノ實質ニシテ前述ノ如シ所謂支局ノ組織活動タル購讀者ノ獲得輪讀研究會カ日本共產黨ノ擴大強化トノ間ニ持ツ關係的距離ハ天地

ト雲泥ノ間隔ヲ遙カニ超越シテキルニモ拘ラス原判決カ漠然被告人ノ行爲ニツキ治安維持法第一條ヲ適用シタルコトハ斷然不當ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノテアルト云フニ在レトモ

被告人カ原判示ノ如ク日本共產黨ハ國體ノ變革及私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ナルコト及雜誌戦旗ハ同黨ノ目的綱領ヲ宣傳煽動スル記事ヲ掲載スルモノナルコトヲ知リナカラ同黨ノ主義ニ共鳴シ同黨ヲ支持スル目的ヲ以テ同雜誌ノ讀者ヲ増加セシメ各讀者ニ同雜誌ヲ配布閱讀セシメタル行爲アル以上治安維持法第一條第二項各後段ノ犯罪ヲ構成スルコト被告人ノ上告論旨第一第二ニ付説明シタルカ如クニシテ右犯罪ノ成立ニ付敘上事實以外更ニ所論ノ如ク被告人カ日本共產黨ト組織上ノ關係ヲ有シ且詳細ニ同黨ノ組織ノ内容又ハ組織擴大方法ヲ知悉シタルコトヲ要スルモノニ非ス又雜誌戦旗カ新聞紙法ニ準據シテ届出ヲ爲シアルモノナレハトテ之カ爲ニ右犯罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ然レハ原判決カ敘上事實ヲ認定シ前示法條ニ問擬シタルハ相當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘカラス尙記録ニ徵スルニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反及恐喝被告事件

(昭和六年(九)第一八二四號 棄却)
同七年三月十八日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 久木久治

外一名 護辯人

(黒田壽男
菊地養之助)

【第一審】 秋田地方裁判所

【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

共謀關係ナキ第三者ノ行爲ニ因ル害惡ノ告知ト恐喝罪ノ成立

○判決要旨

犯人カ組合員多衆ノ威力ニ依リ小作人ノ爲ニ其ノ地主ヲ恐喝シ因テ小作人ヲシテ不法ニ財産上ノ利益ヲ得シメンコトヲ圖リ地主ニ對シ組合員等ノ行爲ニ因ル害惡ノ來ルヘキコトヲ告知シ地主ヲ畏

怖セシメ因テ小作人ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメタル以上ハ恐喝罪ハ成立シ犯人ト右組合員等トノ間ニ共謀關係ノ存スルコトヲ必要トセス

【參照】 刑法第二百四十九條

人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲

役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得シメタル者亦同シ

○事實

第二審ニ於テハ左ノ如ク事實認定及法律適用ヲ爲シ被告人久治ヲ懲役一年ニ被告人照雪ヲ懲役六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人久治ハ全國農民組合秋田縣聯合會山本郡出張所主任被告人照雪 榮貞 武治ハ平素農民運動ニ從事スル闘士被告人長次郎ハ右全國農民組合下岩川支部副支部長被告人專助ハ同組合員被告人雄治郎 寅之助ハ孰レモ其ノ父ニ代リテ右組合ニ關係シ居ル者ナル處

第一 昭和五年八月末頃同組合下岩川支部ニ於テ山本郡内小作人ノ爲各地主ニ對シ稻架用杭ノ給與方ヲ要求シタルニ同村地主内藤カウ及同人ノ顧問ヲ爲シ居ル地主寺山名右衛門カ容易ニ之カ承諾ヲ爲ササリシヲ以テ同年九月八日被告人久治及組合員等ニ於テ右地主等ニ交渉シタル結果内藤ヨリハ翌

共謀關係ナキ第三者ノ行爲ニ依ル害惡ノ告知ト恐喝罪ノ成立

九日之承諾否ノ回答ヲ爲スヘキ旨ノ言明ヲ得タルトコロ同日名右衛門カ内藤ヲシテ右ノ回答ヲ延期セシメタルヨリ被告人久治竝組合幹部ハ名右衛門カ内藤ノ意ニ反シテ小作人ニ不利益ナル處置ヲ執ルモノト爲シ深く同人ニ反感ヲ懷キ此ノ上ハ組合員多衆名右衛門方ニ押掛ケ右ノ措置ヲ詰責スルト共ニ之カ威力ニヨリ同人ヲ畏怖セシメテ前示要求ヲ承諾セシメントシ被告人久治 榮貞 熙雪 武治 長次郎 雄治郎 專助ハ孰レモ右目的ヲ以テ同年九月九日夕刻ヨリ多數組合員ト共ニ相前後シテ秋田縣山本郡下岩川村ナル名右衛門ノ住居ニ到リ同人ニ對シ前記回答延期ノ處置ノ不都合ナルヲ難詰スルト共ニ即時稻杭給與ヲ承諾スヘキ旨強要シ折柄同家内外ニ殺到シタル農民ノ多數カ同人ニ對シ惡罵怒號シテ承諾ヲ迫リ或ハ農民歌ヲ高唱シテ喧噪シ或ハ同家硝子戸ヲ破壊シテ暴行ヲ爲シタルニ乘シ前記被告人等ハ孰レモ同人ノ身邊ニ肉薄シ就中被告人武治ハ札ヲ叩キ被告人熙雪ハヤツテ仕舞ヘト言ヒ被告人專助ハ名右衛門ヲ蹴リ其ノ肩ヲ押シ顔面ヲ毆打シ被告人雄治郎ハ支部旗竿竹ヲ名右衛門ノ面前ニ突出シ被告人榮貞ハ其ノ場ニ來合セタル同村農會技術員三浦仙三ヲ押倒ス等ノ暴行ヲ爲シ名右衛門ノ身體等ニ危害ノ及フヘキ氣勢ヲ示シ因テ同人ヲシテ畏怖ノ餘即夜弟三八郎ヲ介シ小作地一反歩ニ付稻杭五本宛ヲ其ノ小作人等ニ給與スヘキ旨ノ承諾ヲ爲サシメ右小作人等ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

第二 同郡上岩川村ノ地主岡正太郎モ亦稻架用杭給與ノ要求ニ應セサリシニヨリ被告人久治ハ前同様

組合員多衆ノ威力ニヨリ同人ヲ畏怖セシメテ之カ承諾ヲ爲サシメントシ昭和五年九月二十一日午後六時半頃組合員數名ト共ニ正太郎方ニ至リタルカ同人カ病氣ノ故ヲ以テ面會ヲ避ケタルヨリ其ノ妻サキヲ介シテ同人ニ交渉中同夜九時過頃迄ノ間ニ組合員等數十名同家ニ押寄セ來リ或ハ宅内ニ押入り承諾ヲ迫リテ惡罵シ或ハ戶外ニ在リテ農民歌ヲ高唱シツツ板塀ヲ叩キテ其ノ一部ヲ破壊シ或ハ庭先ノ門ヲ乘越エテ宅裏ニ到リ寢室ノ雨戸ヲ叩ク等暴行喧噪ヲ極メタルニ乘シ被告人久治ハ斯ノ如キ形勢ナルヲ以テ遷延スルニ於テハ多衆ハ尙暴行ヲ加フルニ至ルヘシト告ケテ正太郎ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ前同様其ノ小作人等ニ對スル稻杭給與方ヲ承諾セシメ以テ右小作人等ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメ

第三 同郡下岩川村ニ田地百餘歩ヲ有スル地主辻兵吉ノ管理人ナル同村地主板倉富之助ハ平素小作人等ニ對シ冷酷ナル爲深ク恨マレ居リシカ同組合下岩川支部ニ於テ同年九月上旬頃ヨリ同人ニ對シ毛見ヲ願出テ居リタルモ容易ニ之カ取計ヲ爲ササリシヨリ被告久治 雄治郎 寅之助ハ此ノ際組合員等ト共ニ多衆ノ威力ヲ示シ富之助ヲシテ右管理人ヲ辭任セシメントシ同年同月二十三日組合員數十名ト共ニ同村寺院見性寺ヨリ俗ニ「だみ」ト稱スル柩ヲ載スル葬具ヲ持出シ富之助方ニ擔込ミ多衆ノ威力ヲ示シ同人ニ對シ管理人辭任ノ書面ノ提出方ヲ迫リ同人カ之ニ應セサルヤ被告人久治ハ組合員等ニ對シ暴行開始ノ意味ヲ以テ「料理セヨ」ト命シ富之助ノ手ヲ捕ヘ被告人寅之助ハ後方ヨリ富之助

ヲ押シ座敷ヨリ引出サントシ以テ暴行ヲ爲シ

タルモノニシテ被告人久治ノ判示第一第二ノ所爲ハ繼續セル犯意ニ出テタルモノトス
 法律ニ照スニ被告人久治 照雪 榮貞 武治 長次郎 雄治郎 專助ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十九條第二項第一項第六十條ニ被告人久治ノ判示第二ノ所爲ハ同法第二百四十九條第二項第一項ニ各該當シ被告人久治 雄治郎 寅之助ノ判示第三ノ所爲ハ大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當スルヲ以テ右各被告人等ニ對シ孰レモ懲役刑ヲ選擇シ被告人久治ノ第一第二ノ所爲ハ連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ一罪トナシ之ト同被告人ノ第三ノ所爲及被告人雄治郎ノ第一第三ノ所爲ハ夫々第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ恐喝ノ罪ニ付定メタル刑ニ同法第四十七條但書ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲ施シ以上各所定期範圍内ニ於テ被告人等ニ對シ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷シ尙被告人久治 照雪ヲ除ク爾餘ノ被告人等ニ對シテハ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認メ同法第二十五條ヲ適用シ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ就レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人黒田壽勇 菊地養之輔上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由第二ニ於テ「同郡上岩川村ノ地主岡正太郎モ亦前示稻架用杭給與ノ要求ニ應セサリシヨリ被告人久治ハ前同様組合員多衆ノ威力ニ依リ同人ヲ畏怖セシメテ之カ承諾ヲ爲サシメントシ昭和五年九月二十一日午後六時半頃組合員數名ト共ニ正太郎方ニ至リタルカ同人カ病氣ノ故ヲ以テ面會ヲ避ケタルヨリ其ノ妻キサヲ介シテ同人ニ交渉中同夜九時過頃迄ノ間ニ組合員等數十名同家ニ押寄せ來リ或ハ宅内ニ押入り承諾ヲ迫リテ惡罵シ或ハ戶外ニ在リテ農民歌ヲ高唱シツツ板塀ヲ叩キテ其ノ一部ヲ破壊シ或ハ庭先ノ門ヲ乘越ヘテ宅裏ニ到リ寢室ノ兩戸ヲ叩ク等ノ暴行喧噪ヲ極メタルニ乘シ被告人久治ハ斯ノ如キ形勢ナルヲ以テ遷延スルニ於テハ多衆ハ尙暴行ヲ加フルニ至ルヘシト告ケテ正太郎ヲ畏怖セシメテ同人ヲシテ前同様其ノ小作人等ニ對スル稻架用杭給與方ヲ承諾セシメ以テ右小作人等ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメト認定シ被告人久治ヲ恐喝罪ニ問擬シタリ然レトモ右認定ニ依レハ被告人久治ハ判示ノ日午後六時半頃ヨリ正太郎ノ妻キサト交渉中午後九時過ニ至リ同家ニ押寄せ來リタル數十名カ暴行ヲ爲シタル爲被告人久治ハ右キサニ對シ若シ稻架用杭給與方ノ回答ヲ遷延スルニ於テハ之等暴民ハ如何ナル暴行ヲ加フルカ圖ラレスト告ケテ正太郎ヲ畏怖セシメタリト云フニ在ルモ午後九時過同家ニ來リテ暴行ヲ爲シタル農民等ト被告人久治トノ間ニ何等ノ連絡ナキ本件ニ於テハ被告人久治ノ行爲ハ目前ニ迫レル事實ヲキサニ告ケテ是等農民ノ暴行ヲ未前ニ防クヘキ注意ヲ與ヘタルモノニ係リ恐喝罪ノ構成要件タル害惡

共謀關係ナキ第三者ノ行爲ニ依ル害惡ノ告知ト恐喝罪ノ成立

ノ通告ヲ爲シタルモノニアラスシテ却テ利益ノ注意ヲ與ヘタルコトトナリ被告人久治ノ右行爲ハ恐喝罪ヲ構成スルモノニアラサルナリ故ニ本件ノ場合被告人久治ヲ同罪ニ問擬スルニハ午後九時過同家ニ押寄セ來リタル農民等ト被告人久治トノ間ニ如何ナル共謀關係アリタルモノナリヤヲ明ニセサルヘカラサルモノナリトス然ルニ原判決ハ何等此ノ事實關係ヲ明ニセス輒ク被告人久治ヲ同罪ニ問擬シタルハ事實理由不備ノ違法アルカ又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

苟モ不法ニ人ヲ畏怖セシムルニ足ルヘキ害惡ヲ告知シ因テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得シメタル以上ハ其ノ害惡ノ告知カ犯人ニ於テ直接ニ危害ヲ加フヘシト云フニ非スシテ第三者ノ行爲ニ因ル害惡ノ來ルヘキコトヲ通告スルニ在ル場合ト雖恐喝罪ハ成立シ而モ此ノ場合ニ於テ犯人ト該第三者トノ間ニ共謀關係アルコトヲ必要トスルモノニ非ス今原判決第二事實ノ摘示ヲ閱スルニ其ノ判示ハ秋田縣山本郡上岩川村ノ地主岡正太郎ハ同郡内小作人ヨリノ稻架用杭給與ノ要求ニ應セサリシヨリ全國農民組合秋田縣聯合會山本郡出張所主任タル被告人久治ハ同組合員多衆ノ威力ニヨリ右正太郎ヲ畏怖セシメテ之カ承諾ヲ爲サシメントシ昭和五年九月二十一日午後六時半頃組合員數名ト共ニ正太郎方ニ到リタルカ同人カ病氣ノ故ヲ以テ面會ヲ避ケタルヨリ其ノ妻キサヲ介シテ正太郎ニ交渉中同夜九時過頃迄ノ間ニ組合員等數十名同家ニ押寄セ來リ或ハ宅内ニ押入り承諾ヲ迫リテ惡罵シ或ハ戶外ニ

在リテ農民歌ヲ高唱シツツ板塀ヲ叩キテ其ノ一部ヲ破壊シ或ハ庭先ノ門ヲ乘越エテ宅裏ニ至リ寢室ノ兩戸ヲ叩ク等ノ暴行喧噪ヲ極メタルニ乘シ被告人久治ハ斯ノ如キ形勢ナルヲ以テ遷延スルニ於テハ多衆ハ尙暴行ヲ加フルニ至ルヘシト告ケテ正太郎ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ其ノ小作人等ニ對スル稻架用杭給與方ヲ承諾セシメ以テ右小作人等ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメタリト云フニ在リテ被告人久治カ右組合員等ノ暴行ヲ利用シ斯ノ如キ形勢ナルヲ以テ若シ稻架用杭給與ノ承諾ヲ遷延スルニ於テハ此等組合員等ハ尙暴行ヲ加フルニ至ルヘキ旨告知シ正太郎ヲ畏怖セシメ因テ敍上ノ如ク小作人等ヲシテ財産上不法ノ利益ヲ得シメタル事實ヲ認定シタルコト明ニシテ記録ニ徵スルモ原判決ノ該認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ然レハ被告人久治ト右暴行組合員等トノ間ニ共謀關係アルト否トヲ問ハス上敍ノ理由ニ依リ同被告人ノ右判示行爲カ恐喝罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルコトナク又何等事實理由不備ノ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事溝淵孝雄關與

○放火被告事件(昭和六年(九)第一五六一號
同七年二月二十五日第一刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 村田由之助 辯護人 (大明地豊平
結方幸弘
赤井幸夫)

【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

鑑定書添付ノ寫眞ノ證據調

○判決要旨

瓦斯焔爐ノ瓦斯ヲ放出シテ點火シフライパンニ入レタル溶解セル
ヘットヲ之ニ濺キ掛ルトキニ於ケル引火状態ニ關スル鑑定書ニ付
證據調ヲ爲スニ當リ右鑑定書ニ添付シタル瓦斯焔爐ノ形状ヲ示セ

鑑定書添付ノ寫眞ノ證據調

ル寫眞ヲ展示セザリシトスルモ其ノ寫眞ナクシテ鑑定ノ要旨ヲ知
リ得ル場合ニハ右證據調ハ適法ナリ

【參照】 刑事訴訟法第三百四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ

又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風説又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ

朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限り其ノ要旨ヲ告ク

ヘシ

同法第三百四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要

旨ヲ告クヘシ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第百八條第二十一條刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用
シテ被告人ヲ懲役五年ニ處シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ全部
被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和五年一月十八日當時妻子等ト共ニ居住シ飲食店ヲ營ミ居タル自己所有名義ノ大阪府泉北
郡高石町南千九十七番地上木造瓦葺二階建住宅及木造スレート葺平家建本家各一棟ノ家屋並動産ニ付

大北火災海上運送保險株式會社及東神火災保險株式會社ト保險金合計六千五百圓ノ火災保險契約ヲ締
結シタルトコロ曩ニ實父松之助ヨリ右家屋買入ノ爲ニ千圓ノ出金ヲ受ケ昭和五年六月迄ニ返却ヲ約定
シタルニ拘ラス之ヲ履踐セサリシヨリ豫テ被告人ト不和ノ間柄ナル右松之助ハ其ノ返還ヲ嚴促セル結
果之カ金策ニ苦慮ノ餘リ同年十一月二十三日現ニ被告人カ妻子雇人等ト共ニ住居ニ使用セル前記建物
ヲ燒燬シテ保險金ヲ取得セムコトヲ決意シ同日午前三時過頃同家料理場ノ瓦斯焔爐ノ瓦斯ヲ放出シ燐
寸ヲ以テ之ニ火ヲ點シ更ニ附近ニ在リシフライ鍋内ノ料理用油ヲ之ニ注キテ火勢ヲ煽リ以テ其ノ上方
ナル板棚ニ引火セシメテ放火シ因テ前記家屋ヲ全燒セシメ近隣ノ松川シケ居住ノ木造スレート葺平家
建住宅一棟ヲモ延燒セシメテ其ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

第二審裁判所ハ其ノ第二回公判ニ於テ辯護人ノ申請ニ基キ其ノ申請事項タル瓦斯焔爐ノ瓦斯ヲ放出シ
點火シフライパンニ入レタル溶解セルヘットヲ焔爐ノ片側ヨリ徐々ニ灑キ掛クルトキニ於ケル引火ノ
状態ニ付鑑定ヲ命スヘキ決定ヲ爲シ第五回公判ニ於テ鑑定人ヲ訊問シタルトコロ鑑定人ハ鑑定ノ結果
ハ鑑定書ヲ以テ上申スヘキ旨答申シ其ノ後鑑定書ナル書面ヲ提出シタルカ右鑑定書ニハ其ノ最後ニ瓦
斯焔爐ノ形狀ヲ撮影シタル寫眞ヲ添付セリ然ルニ第二審裁判所ハ其ノ後ノ公判ニ於テ右鑑定書ハ之ヲ
朗讀シ被告人ノ意見辯解ヲ求メタレトモ同時ニ添付ノ寫眞ヲ公判ニ顯出セシメサリキ

○主文

鑑定書添付ノ寫眞ノ證據調

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人緒方弘 赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由中「被告人ハ昭和五年一月十八日當時妻子等ト共ニ居住シ飲食店ヲ營ミ居タル自己所有名義ノ大阪府泉北郡高石町南千九十七番地上木造瓦葺二階建住宅及木造スレート葺平家建本家各一棟ノ家屋竝動産ニ付云々火災保險契約ヲ締結シタルトコロ云々同年十一月二十三日現ニ被告人カ妻子雇人等ト共ニ居住ニ使用セル前記建物ヲ燒燬シテ保險金ヲ取得センコトヲ決意シ同日午前三時過頃云々放火シ因テ前記家屋ヲ全燒セシメ近隣ノ松川シケ居住ノ木造スレート葺平家建住宅一棟ヲモ延燒セシメテ其ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ」ト判示シ其ノ證據説明中「豫審判事ノ強制處分ニ於ケル被疑者村田由之助ニ對スル訊問調書（昭和五年十一月二十四日附）中同人ノ自分ハ父松之助ト判示家屋ヲ共ニ飲食店ヲ營ミ居リシモ云々自分カ右建物ヲ引取り其ノ代リニ父ニ二千圓ヲ渡スコトニシテ別居スルコトト爲リシカ云々昨二十三日ノ夜明ニ眠リ難ク云々右家屋ニハ云々火災保險ヲ附シアルコトヲ想起シ云々右家屋ニ放火スル決心ヲ致シタル次第ナリ云々」ノ記載アリト説示シタリ仍テ同訊問調書ヲ閱スルニ「問此ノ事實ニ付陳述スヘキ事カアルカ此ノ時豫審判事ハ昭和五年十一月二十四日附被疑者ニ對スル強制處分請求書記載ノ被疑事實ヲ讀聞ケタリ答只今御讀聞ケノ事實ハ其ノ通り相違アリマセヌ問被疑者カ左様ナ放火ヲ致スニ至ツタ事情ヲ陳ヘヨ

答私ハ只今御讀聞ケノ建物ヲ父松之助ト一絡ニ飲食店ヲ致シテ居リマシタカ云々私カ其ノ建物ヲ引取り其ノ代リニ父松之助ニ二千圓ヲ渡スコトニシテ父ト別居シ云々昨日則チ本年十一月二十三日ノ夜明私ハ什ウシテモ眠レナイノテ云々右家屋竝動産ニ火ヲ點ケテ燒イテ仕舞フト云フ決心ヲシタノテアリマス云々」ノ記載アリテ之ニ依レハ上告人カ保險ニ附シ置キ上告人ノ燒燬セントシテ放火シタル家屋ハ右訊問ニ際シ讀聞ケラレタル昭和五年十一月二十四日附強制處分請求書記載アル家屋ナリト云フニ止マリ同訊問調書ノミニヨリテハ右家屋ハ原判決ニ所謂判示家屋即チ大阪府泉北郡高石町南千九十七番地上木造瓦葺二階建住宅及木造スレート葺平家建本家各一棟ノ家屋ナリトコトハ之ヲ知ルヘカラス之ヲ知ルニハ右訊問ニ際シ被疑者ニ讀聞ケタリトセラルル昭和五年十一月二十四日附檢事ノ強制處分請求書記載ト相對照セサルヘカラス左レハ右訊問調書ニ右摘示ノ如ク「判示家屋」即チ大阪府泉北郡高石町南千九十七番地ノ木造瓦葺二階建住宅及木造スレート葺平家建本家各一棟ノ家屋ニ上告人カ保險ヲ附シ置キ而モ昭和五年十一月二十四日夜明頃之ヲ燒燬セント決意シ之ニ放火シタリ」トノ記載アリトシテ斷罪ノ資料ニ供セントスルニハ原審ニ於テハ其ノ公判廷ニ於テ右訊問調書ト同時ニ前示強制處分請求書ヲモ朗讀シテ其ノ意見辯解ヲ求メサルヘカラサリシモノナリトス然ルニ原審公判調書ヲ閱スルニ右訊問調書ハ之ヲ朗讀シタルモ同時ニ強制處分請求書ヲモ朗讀シタル事跡ナキヲ以テ原判決ハ所謂虛無ノ證據ヲ引用シタルカ若クハ適法ナル取調ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違

法アリ破毀ヲ免レサルモノト信ス(御院昭和六年(れ)第六一三號事實審理決定理由昭和五年(れ)第一八六二號同上昭和二年(れ)第九七四號同上等參照)ト謂フニ在リ

按スルニ原判決カ證據トシテ引用シタル豫審判事ノ強制處分ニ於ケル被疑者村田由之助ニ對スル訊問調書ニハ所論ノ如キ問答ノ記載アリテ其ノ問答ノミニテハ所謂建物ノ何タルヤハ之ヲ知ルコトヲ得サルコト所論ノ如クニシテ從ツテ右訊問調書中ニ其ノ所謂建物カ判示建物ニ該當スル趣旨ノ供述記載アリトシ之ヲ證據トシテ舉示シタル原判決ニハ證據説明ニ瑕疵アリト謂ハサルヘカラス然レトモ本件火災ニ罹リタル建物カ判示ノ如キ建物ナルコト被告人カ右建物買入ニ付實父松之助ヨリ金二千圓ノ出金ヲ受ケ昭和五年六月マテニ之カ返還ノ約ナリシモ其ノ後未タ返還ヲ爲ササリシコト及被告人カ右建物ニ付判示ノ如キ火災保險契約ヲ締結シタルコトハ被告人ノ原審公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ之ヲ認メ得ルコト原判決證據説明ノ如クナルヲ以テ右ノ證據ト前示訊問調書中ノ供述記載トヲ綜合考察スレハ右訊問調書ニ所謂建物カ判示ノ建物ナルコトハ容易ニ之ヲ認メ得ヘク敢テ右調書中ノ前記供述記載ヲ俟タサルカ故ニ前示證據説明ノ瑕疵ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササルモノト認ムヘク之アルカ爲原判決ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス論旨引用ノ本院判例ハ孰レモ所論ノ瑕疵カ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキモノト認メラレタル場合ニ係ルモノニシテ本件ト其ノ例ヲ同シウセサルヲ以テ證據スルニ足ラス從ツテ論旨ハ理由ナシ

同第二點原審第二回公判ニ於テ辯護人ノ申請ニ基キ其ノ申請事項ノ鑑定ヲ命スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ第五回公判ニ於テ鑑定人ヲ訊問シタル處同鑑定人ハ鑑定ノ結果ハ鑑定書ヲ以テ上申スヘキ旨答申シ同鑑定人ハ其ノ後鑑定書ナル書面ヲ提出シタリ而シテ右鑑定書ナル書面ヲ見ルニ其ノ最後ニ寫真一葉ヲ添付シアリテ右鑑定書中ニ右寫真ヲ引用シテ其ノ鑑定ノ趣旨ヲ明ナラシメタルモノナルヲ以テ(鑑定書中ノ一節ニ曰ク(前略)同コック場ニ於テ瓦斯焔爐ノ下ニ板ヲ置キ瓦斯焔爐ノ瓦斯ヲ放出シ點火シフライバンニ入レタル溶解セルヘットヲ瓦斯焔爐ノ片側ヨリ徐々ニ灑キ掛ルトキハヘットノ掛リタル火口(添付寫真ノ朱點ニ示セル點)消火スルモノアリ又消火セサルモノアリテ消火セサル火口ヨリ燃エツツアル火ハ轟ニヘットノ附著セル火口ハ直チニ燃エ移ル云々)其ノ後ノ公判ニ於テハ右鑑定書ヲ朗讀スルト同時ニ右寫真ヲモ被告人ニ展示スルニアラスンハ以テ右證據決定ヲ完全ニ履行シタルモノト謂フヘカラサルモノトス然ルニ原審其ノ後ノ公判調書ヲ閱スルニ右鑑定書ハ之ヲ朗讀シタルモノ之レト同時ニ右添付ノ寫真ヲ公判ニ顯出シタル事跡ナキヲ以テ原審ニ於テハ其ノ爲シタル證據決定ヲ完全ニ施行セサル違法アリ從ツテ斯ル違法ノ手續ニ基キテ下サレタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信ス(大正十三年(れ)第二三八七號事實審理決定等參照)ト謂フニ在リ

【要旨】 所論鑑定書ニハ寫真ノ添付アルコト所論ノ如ク而シテ原審公判調書ニ依レハ原審裁判長ハ右鑑定書ヲ朗讀シ被告人ノ意見辯解ヲ求メタル事實ヲ認ムルニ足ルモ右寫真ニ付テハ之カ展示ヲ爲シタル事跡ナ

キコト亦所論ノ如シ然レトモ裁判所カ證據書類ニ付證據調ヲ爲スニハ其ノ要旨ヲ告クルコトニヨリテ爲シ得ヘキコト刑事訴訟法第三百四十條第一項ノ示ストコロニシテ其ノ理ハ寫真ノ如キ展示ヲ要スル物カ證據書類ニ添付セラレ之ト一體ヲ成セル場合ニ於テモ同一ナリト謂フヘク即右添付ノ寫真ニシテ證據書類ノ要旨ニ關セサルモノニ付テハ特ニ之ヲ展示スル必要ナシト謂ハサルヘカラス本件鑑定書ヲ見ルニ添付ノ寫真ハ單ニ本文ノ趣旨ヲ一層明確ナラシムル爲添付セラレタルモノニシテ右鑑定ノ要旨ハ右寫真ナクトモ完全ニ之ヲ知り得ルモノト認ムヘキカ故ニ右鑑定書ハ之ヲ朗讀スルコトニ依リ完全ニ其ノ要旨ヲ告ケタルモノト認ムヘク特ニ添付ノ右寫真ヲ展示セサリシトスルモ右證據調ノ施行ニ缺クルトコロアリト謂フヲ得ス從ツテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事南部金夫關與

○公文書偽造行使詐欺未遂被告事件(昭和六年(九)第一六七〇號 同七年二月二十五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 大木 智 辯護人 井上松治郎

【第一審】 千葉地方裁判所八日市場支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

郵便貯金通帳ニ於ケル受入又ハ一部ノ即時拂ニ關スル虚偽ノ記載ト公文書偽造罪ノ箇數

○判決要旨

郵便貯金通帳ニ於ケル受入又ハ一部ノ即時拂ニ關スル各記載ハ各一箇ノ公文書ヲ成シ其ノ偽造ハ各記載毎ニ公文書偽造罪ヲ構成ス

【参照】 刑法第五百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ金ニ處ス

郵便貯金通帳ニ於ケル受入又ハ一部ノ即時拂ニ關スル虚偽ノ記載ト公文書偽造罪ノ箇數

郵便貯金規則第四十六條 郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額
預入年月日其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ主務者調印シ且日附印ヲ捺捺シテ之ヲ證
明ス

同規則第七十八條 貯金預ケ人貯金ノ即時拂ヲ請求セントスルトキハ郵便局所ニ於
テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ
差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領證ニ捺捺シタル印影ト通帳ニ押
捺シアル印影ト對照シ相違ナキヲ認メタル上請求人ニ拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻
ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

郵便貯金取扱規程第五條 郵便局所又ハ貯金原簿所管處(以下單ニ原簿所管處ト稱ス
ニ於テ通帳ニ貯金ノ受入又ハ拂出ヲ記入シタルトキハ其ノ相當欄ニ主務者印(第一
號雜形)及日附印ヲ捺捺スヘシ但シ原簿所管處ニ於テ證券利子又ハ貯金利子ヲ記入
シタル場合及別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同規程第八十五條 郵便局所ニ於テ原簿所管處ノ現在高證明ニ係ル貯金又ハ自局所
記入ノ貯金ニ對シ預ケ人ヨリ即時拂ヲ請求ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 貯金拂戻金受領證用紙(貯第十一號)ヲ與ヘ之ニ通帳記號番號拂戻金額拂戻請求
人ノ住所氏名等ヲ記載シ且受領證印ノ部ニ捺印ノ上通帳ト共ニ差出サシムヘシ

二 前號ノ書類ヲ受取リタルトキハ左ノ事項ヲ調査スヘシ
(イ) 通帳ト受領證トニ記載セル預ケ人ノ住所氏名ハ符合スルヤ否
(ロ) 通帳ノ印影ト受領證ノ印影ト符合スルヤ否但シ通帳ノ印影ニ改印ノ形跡ア

リテ舊印影ニ郵便局所ノ日附印捺捺ナキモノニアリテハ特ニ其ノ事由ヲ調査
シ正當本人タルコトヲ確ムヘシ
(ハ) 通帳中ニ即時拂請求金額ヲ拂渡スニ足ルヘキ原簿所管處ノ現在高證明ニ係
ル貯金又ハ自局所記入ノ貯金現在スルヤ否

(ニ) 全拂ノ請求ニ係ルモノナルトキハ其ノ請求金高ヲ通帳ニ記載シタル受入合
計高ヨリ拂出合計高ヲ控除シタル殘額ニ符合スルヤ否
(ホ) 通帳ニ斷片綴合等ノ作爲ナキヤ否

(ヘ) 通帳中預拂金額等ニ改描ノ痕跡ナキヤ否
三 前號ノ調査ニ依リ總テ適當ト認メタルトキハ通帳ニ拂戻年月日及拂戻金額ヲ
記載シ其ノ金高記載ノ上欄ニ「即時拂」ノ文字ヲ附記シタル上請求人ニ拂戻金ヲ交
付シ尙一部拂ノモノニアリテハ通帳日附印欄ト受領證ノ上部トニ日附印ヲ以テ

契印ヲ施シタル上通帳ハ之ヲ請求人ニ返付スヘシ
前項ノ手續ヲ了シタルトキハ受領證ニ依リ拂渡簿ニ拂渡年月日金額等ヲ式ノ如
ク記入シ受領證ハ其ノ相當欄ニ拂渡日附印ヲ捺捺シ且全拂ニ係ルモノナルトキ
ハ通帳ノ餘白ニ「即時全拂」ノ文字ヲ朱記シ受領證ハ通帳ニ緊綴シタル上計算規程

ノ定ムル所ニ從ヒ監督局ヲ經由シ原簿所管處ニ廻送スヘシ
同規程第八十八條 即時拂ニ關シ本節ニ規定シタルモノノ外ハ通常拂ノ例ニ依リ取
扱フヘシ但シ第八十六條ニ該當スル拂戻證書ニ對シテハ證書ノ真正ナルコトヲ認

メ其ノ儘拂渡ヲ爲シ貯金拂渡簿ニ相當事項ヲ記入スヘシ
同規程第八十一條 郵便局所ニ於テ拂戻請求人ヨリ拂戻金拂渡ノ請求ヲ受ケタルト

郵便貯金通帳ニ於ケル受入又ハ一部ノ即時拂ニ關スル虛偽ノ記載ト公文書偽造罪
ノ罰數